

J380

本書をお読みになる前に

1 各部名称**2** 取り扱い**3** 周辺機器の設置／
設定／増設**4** セキュリティ**5** ソフトウェア**6** BIOS**7** お手入れ**8** トラブル
シューティング**9** 仕様一覧／技術情報

製品ガイド

目次

本書をお読みになる前に	7
本書の表記	7
国際エネルギーestarプログラム対応モデルの場合	10
商標および著作権について	10
第1章 各部名称	
1 各部の名称と働き	12
ワークステーション本体前面	12
ワークステーション本体背面	15
ワークステーション本体内部	18
メインボード	19
第2章 取り扱い	
1 マウス	22
マウスの使い方	22
マウスの設定を変更する	24
光学式マウス／レーザー式マウス	25
2 キーボード	26
3 CD/DVD	30
取り扱い上の注意	30
使用できるディスク	33
推奨ディスク	35
ディスクをセットする／取り出す	36
ディスクが取り出せなくなったら	38
DVD-RAMをフォーマットする（Windows 7の場合）	39
DVD-RAMをフォーマットする（Windows XPの場合）	41
4 ディスプレイ	43
解像度や発色数を変更する	43
5 2台目のディスプレイ	46
マルチディスプレイ機能	46
2台目のディスプレイを接続する	46
表示方法を切り替える（グラフィックスカードなしの場合）	51
表示方法を切り替える （カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合）	52
6 音量（Windows 7の場合）	56
注意事項	56
画面上の音量つまみで設定する	56
音量を調節できる項目	58

7 音量 (Windows XPの場合)	59
注意事項	59
画面上の音量つまみで設定する	59
再生時／録音時の音量設定	60
音量を調節できる項目	61
8 通信	62
LAN (有線LAN)	62
9 スリープ／休止状態 (Windows 7の場合)	64
スリープ／休止状態とは	64
注意事項	65
スリープ／休止状態の使い方	67
スリープ／休止状態の設定を変更する	69
10 スタンバイ／休止状態 (Windows XPの場合)	72
スタンバイ／休止状態とは	72
注意事項	73
スタンバイ／休止状態の使い方	75
スタンバイ／休止状態の設定を変更する	77

第3章 周辺機器の設置／設定／増設

1 周辺機器を取り付ける前に	80
取り扱い上の注意	80
2 本体カバー	82
本体カバーの取り外し方	82
3 メモリ	84
メモリの取り付け場所	84
取り扱い上の注意	84
取り付けられるメモリ	85
メモリを取り付ける	86
メモリ容量を確認する	89
4 拡張カード	91
拡張カードの取り付け場所	92
取り付けられる拡張カード	92
拡張カードを取り付ける	93

第4章 セキュリティ

1 セキュリティの重要性	98
2 コンピューターウイルス	99
コンピューターウイルスとは	99
コンピューターウイルス対策	99
コンピューターウイルスを発見したときは	101
3 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする	102
Windows Update	102
アクションセンター（Windows 7の場合）	103
セキュリティセンター（Windows Vista/Windows XPの場合）	104
UpdateAdvisor（本体装置）	105
4 ネットワーク接続時のセキュリティ	106
不正アクセスによる被害の例	106
ファイアウォール	106
ネットワーク使用時のデータの暗号化	107
フィッシング詐欺対策	107
5 不正使用からのセキュリティ	108
BIOSのパスワード	108
Windowsの管理者権限とユーザー アカウント	109
Windowsのパスワード	109
アクセス権と暗号化	109
スマートカード	110
セキュリティチップ	110
Portshutter	110
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	111
6 ワークステーションの盗難防止	112
盗難防止用ロック取り付け穴の使用方法	112
セキュリティ施錠金具の使用方法	112
7 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意	114
ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上の データ消去に関する注意	114
ハードディスクデータ消去	115
ハードディスクのデータ消去サービス	117
8 データのバックアップ	118
バックアップの必要性	118
バックアップ方法	118

第5章 ソフトウェア

1 ソフトウェアの紹介	120
セキュリティ関連のソフトウェア	121
サポート関連のソフトウェア	122
ユーティリティ	123
ビューアー	124
CD/DVD関連のソフトウェア	124
メールソフト	125
Office製品	126
2 インストール	127
「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール	127
「Norton AntiVirus」のインストール	128
「i-フィルター」のインストール	129
「SMARTACCESS/Basic」のインストール	129
Office製品のインストール	129
3 アンインストール	130
注意事項	130
アンインストール方法	130

第6章 BIOS

1 BIOSセットアップ	132
2 BIOSセットアップの操作のしかた	133
BIOSセットアップを起動する	133
BIOSセットアップ画面	133
各キーの役割	134
設定を変更する	135
BIOSセットアップを終了する	136
起動メニューを使用する	136
3 メニュー詳細	137
「情報」メニュー	138
「システム」メニュー	139
「詳細」メニュー	141
「電源管理」メニュー	146
「セキュリティ」メニュー	148
「PC Health」メニュー	152
「終了」メニュー	153
4 BIOSのパスワード機能を使う	154
パスワードの種類	154
パスワードを設定する	154
パスワードを使う	156
パスワードを忘れてしまったら	157
パスワードを変更／削除する	158

5 BIOSのエラーメッセージ	160
エラーメッセージが表示されたときは	160
起動時に表示されるエラーメッセージ一覧	160
BIOSイベントログに記録されるエラーメッセージ	162
第7章 お手入れ	
1 ワークステーション本体のお手入れ	166
ワークステーション本体外部	167
ワークステーション本体内部	168
2 周辺機器のお手入れ	173
キーボード	173
マウス	173
第8章 トラブルシューティング	
1 トラブル発生時の基本操作	176
落ち着いて状況を確認する	176
以前の状態に戻す	176
トラブルシューティングで調べる	177
インターネットで調べる	178
診断プログラムを使用する	178
サポートの窓口に相談する	181
2 よくあるトラブルと解決方法	182
トラブル一覧	182
起動・終了時のトラブル	184
Windows・ソフトウェア関連のトラブル	188
ハードウェア関連のトラブル	191
3 それでも解決できないときは	211
お問い合わせ先	211
第9章 仕様一覧／技術情報	
1 本体仕様	214
標準モデル (J380)	214
国際エネルギーestarプログラム対応モデル (J380)	218
2 その他の仕様	221
LAN機能	221
表示機能	222
コネクタのピン配列と信号名	223
CPU	230
ドライブ構成	232
CD/DVD ドライブ仕様	239
国際エネルギーestarプログラム	240
索引	241

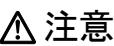
本書をお読みになる前に

本書の表記

本書の内容は2010年9月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは『取扱説明書』をご覧ください。

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
 ↓
 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ ウィンドウ名の表記について

Windows 7の場合、本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



↓
 「コンピューター」 ウィンドウ



↓
 「システム」 ウィンドウ

■ 本文中の表記と画面表示内容の相違について

ウィンドウ名をはじめ、「ドライバー (Windows 7の場合)」、「ドライバ (Windows XPの場合)」のように、お使いのOSによって本文中の表記と画面表示内容が異なる場合があります。
 本書ではWindows 7の表示で表記しています。

■ 画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 周辺機器の使用について

本文中の操作手順において、CDやDVDなどを使用することがあります。

操作に必要なドライブなどが搭載されていない場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」 (<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ カスタムメイドのメニュー名の表記について

本書では、カスタムメイドで選択できる次のメニュー名称を「リカバリディスクセット」と表記しています。

- リカバリデータディスク + ドライバーズディスク追加
- リカバリデータディスク + ドライバーズディスク + WinDVDディスク追加

■ 本文に記載しているディスクについて

本文中に記載されている次のディスクは、本パソコンには添付されていません。

- リカバリデータディスク
- トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]
- InterVideo WinDVD® for FUJITSU

お使いになるには、ハードディスクに格納されているイメージからディスクを作成する必要があります。作成方法については『取扱説明書』をご覧ください。

なお、カスタムメイドでリカバリディスクセットを選択した場合には、ディスクは添付されています。

■ 本書に記載している仕様とお使いの機種との相違について

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載しています。

ご購入時にカスタムメイドで仕様を変更した機種の場合は、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
CELSIUS J380	J380	本ワークステーション／ワークステーション本体	
Windows® 7 Enterprise 32 ビット版	Windows 7 Enterprise (32 ビット版)	Windows 7	
Windows® 7 Enterprise 64 ビット版	Windows 7 Enterprise (64 ビット版)		
Windows® 7 Professional 32 ビット版	Windows 7 Professional (32 ビット版)		
Windows® 7 Professional 64 ビット版	Windows 7 Professional (64 ビット版)		
Windows Vista® Business with Service Pack 2	Windows Vista Business	Windows Vista	
Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	
Windows® XP Professional x64 Edition	Windows XP Professional x64 Edition		
Windows® Internet Explorer® 8	Internet Explorer		
Windows® Internet Explorer® 6.0			
Microsoft® Office Professional 2010	Office Professional 2010	Office 2010	
Microsoft® Office Home & Business 2010	Office Home & Business 2010		
Microsoft® Office Personal 2010	Office Personal 2010		
Microsoft® Windows Media® Player 12	Windows Media Player		
Microsoft® Windows Media® Player 10			
Windows Live™ メール Version 2009	Windows Live メール		
Adobe® Reader®	Adobe Reader		
InterVideo WinDVD® for FUJITSU	WinDVD		
i- フィルター® 5.0	i- フィルター		
ノートン™ アンチウイルス 2010	Norton AntiVirus		

製品名称	本文中の表記		
NVIDIA Quadro® FX 1800	Quadro FX 1800	Quadro FX シリーズ	
NVIDIA Quadro® FX 580	Quadro FX 580		
Roxio Creator LJ	Roxio Creator		
3ボタンマウス (USB／光学式)	USB3ボタンマウス (光学式)	光学式マウス	3ボタンマウス
2ボタンスクロール付マウス (PS/2／光学式)	PS/2マウス (光学式)		2ボタンマウス
2ボタンスクロール付マウス (USB／光学式)	USB2ボタンマウス (光学式)		
2ボタンスクロール付マウス (USB／レーザー式)	USB2ボタンマウス (レーザー式)	レーザー式マウス	

国際エネルギーestarプログラム対応モデルの場合

当社は、国際エネルギーestarプログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギーestarプログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

詳しくは、「仕様一覧／技術情報」－「国際エネルギーestarプログラム」(→P.240)をご覧ください。



商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Live、Windows Media、Internet Explorerは、米国 Microsoft Corporation および/またはその関連会社の商標です。
 インテル、Intel、インテル Core、Xeon および Intel SpeedStep は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
 NVIDIA、NVIDIA Quadroは、NVIDIA Corporationの登録商標です。
 Adobe、Readerは、合衆国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。
 その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
 その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2010

第1章

各部名称

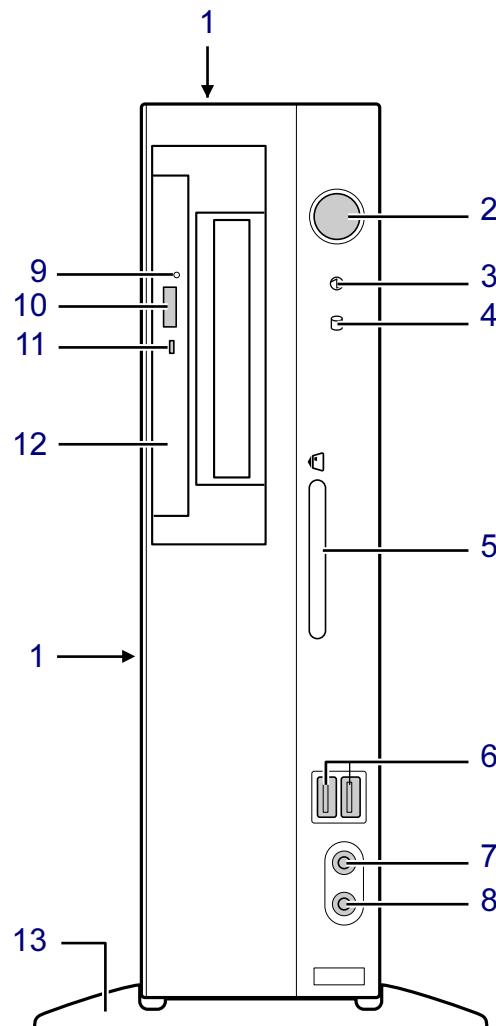
各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き 12

1 各部の名称と働き

ここでは、ワークステーション本体、メインボードの各部の名称と働きを説明しています。

ワークステーション本体前面



1 吸気孔

ワークステーション本体内部に空気を取り込むことで、ワークステーション本体内部の熱を逃がすための開口部です。物を載せるなどしてふさがないようにご注意ください。横置きにする場合は、通風孔のある面を、壁などから10cm以上離して設置してください。

2 電源ボタン (①)

ワークステーション本体の電源を入れたり、スリープ、スタンバイにしたり、省電力状態からレジューム（復帰）させたりするためのボタンです。

POINT

- ご購入時の状態では、スリープやスタンバイには移行できません。必要に応じて「電源オプション」ウィンドウまたは「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで設定を変更してください。
「取り扱い」—「スリープ／休止状態（Windows 7の場合）」（→P.64）
「取り扱い」—「スタンバイ／休止状態（Windows XPの場合）」（→P.72）
- 強制終了をするとき以外は、電源ボタンを4秒以上押さないでください。
電源ボタンを4秒以上押し続けると、ワークステーション本体の電源が切れてしまいます。

3 電源ランプ (②)

本ワークステーションの電源が入っているときに緑色に点灯します。省電力状態（スリープまたはスタンバイ）に移行しているときはオレンジ色に点灯します。

4 ディスクアクセスランプ (③)

ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み出したりしているときに点滅します。また、CD/DVD ドライブによっては、CD や DVD にアクセスしているときに点滅する場合があります。

5 スマートカードベイ (④)

カスタムメイドでスマートカードリーダ／ライタを選択した場合、スマートカードをセットします。

「セキュリティ」—「スマートカード」（→P.110）

スマートカードをセットしたときには、アイコンが数回点滅します。

6 USB コネクタ (⑤)

USB 規格の周辺機器を接続します。USB2.0 に準拠しています。

7 マイク端子 (⑥)

市販のマイクを接続します（外径3.5mm のミニプラグ）。

8 ヘッドホン端子 (⑦)

市販のヘッドホンを接続します（外径3.5mm のミニプラグ）。

ヘッドホンを接続している間は、ワークステーション本体のラインアウト端子からは、音が出ません。

9 強制取り出し穴 (CD/DVD ドライブ搭載機種のみ)

CD/DVD 取り出しボタンを押してもトレーが出ない場合に使用します。

電源を切った後、クリップなどの細いワイヤをディスク取り出し穴に挿入すると、トレーが出てきます。CD や DVD を取り出した後、トレーを静かに元の位置に戻してください。ディスク取り出し穴は、緊急の場合以外は使用しないでください。

10 CD/DVD 取り出しボタン (CD/DVD ドライブ搭載機種のみ)

CD/DVD ドライブに CD や DVD をセットするときや取り出すときに押します。ワークステーション本体の電源が入っているときに使えます。

11 CD/DVD アクセスランプ (CD/DVD ドライブ搭載機種のみ)

CD や DVD にデータを書き込んだり、CD や DVD からデータを読み出したりしているときに点滅します。

12 CD/DVD ドライブ (CD/DVD ドライブ搭載機種のみ)

CDやDVDをセットします。カスタムメイドの選択によって、次のいずれかのドライブが取り付けられています。

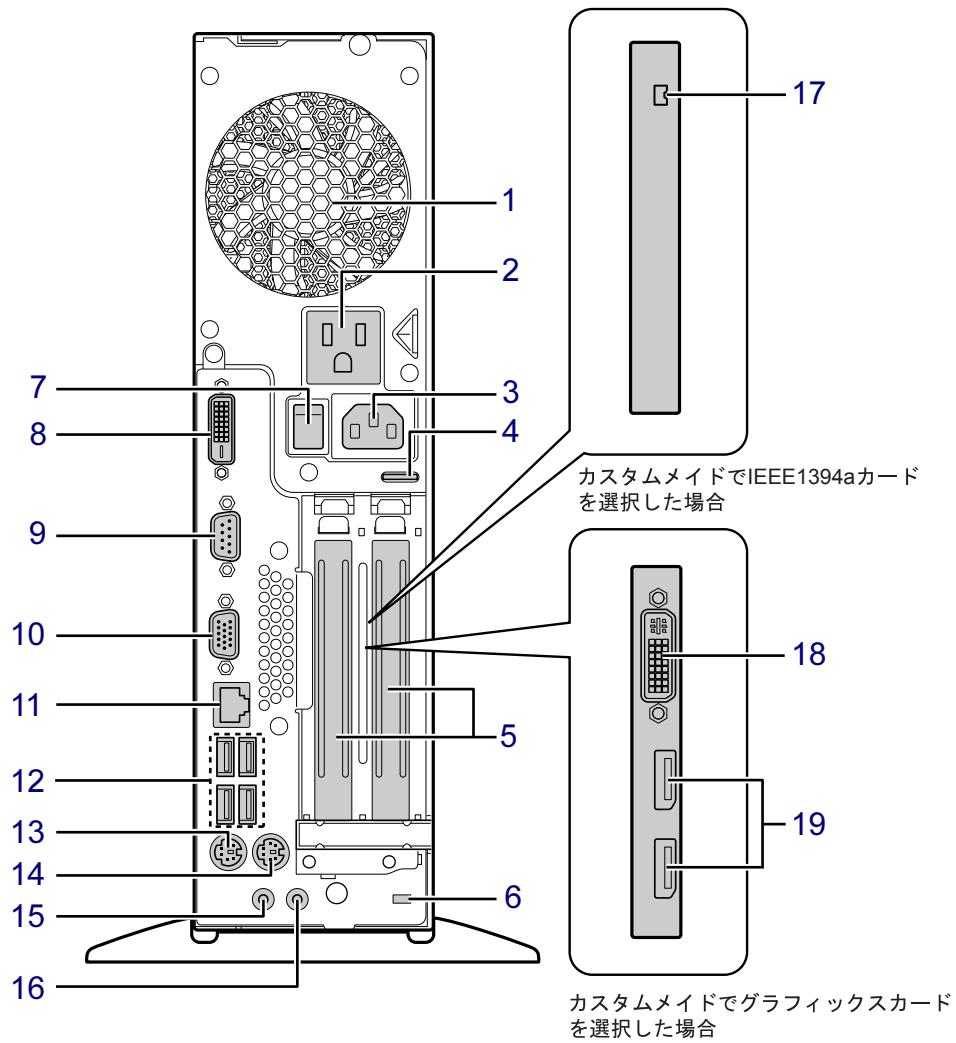
- ・DVD-ROM ドライブ
- ・スーパーマルチドライブ

「取り扱い」 - 「CD/DVD」 (→P.30)

13 フット

本ワークステーションをお使いになるときに取り付ける台座です。取り付け方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

ワークステーション本体背面



1 排気孔

ワークステーション本体内部の熱を外部に逃がすための開孔部です。

ワークステーションを設置するときは、排気孔をふさがないように注意してください。

2 オウトレット

ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

3 インレット

本ワークステーションに添付の電源ケーブルを接続します。

4 セキュリティ施錠金具

南京錠などの市販の鍵を取り付けます。

「セキュリティ」 - 「ワークステーションの盗難防止」 (→P.112)

5 拡張カードスロット

本ワークステーションの機能を拡張する各種拡張カードを取り付けます。カスタムメイドの選択により、使用できるスロット、および搭載されている拡張カードが異なります。

カスタムメイド	拡張カードスロット1 (左)	拡張カードスロット2 (右)
グラフィックスカード NVIDIA Quadro FX1800 追加	使用できません。	グラフィックスカードが搭載されています。
グラフィックスカード NVIDIA Quadro FX580 追加	グラフィックスカードが搭載されています。	PCI規格の拡張カードを取り付けることができます。
HDD 変更 (SATA-RAID)	SATA-RAID カードが搭載されています。	PCI規格の拡張カードを取り付けることができます。
IEEE1394 カード追加	IEEE1394 カードが搭載されています。	使用できません。
上記のいずれも選択していない場合	使用できません。	PCI規格の拡張カードを取り付けることができます。

拡張カードの取り付けについては「周辺機器の設置／設定／増設」－「拡張カード」(→P.91)をご覧ください。

6 盗難防止用ロック取り付け穴

盗難防止用ケーブルを取り付けます。

「セキュリティ」－「ワークステーションの盗難防止」(→P.112)

7 メインスイッチ

ワークステーション本体の電源を完全に切る場合に「オフ」にします(「○」側に切り替えます)。通常は「オン」(「|」側に切り替えた状態)のまま本ワークステーションをお使いください。

「オフ」にすると、電源ボタンを押してもワークステーション本体の電源は入りません。長時間お使いにならない場合は、「オフ」にしてください。

8 DVI-Dコネクタ ()

デジタルディスプレイ (DVI-D規格) を接続します。

アナログRGBコネクタと両方を使用して、2台のディスプレイを接続することもできます。

「取り扱い」－「2台目のディスプレイ」(→P.46)

カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合、このコネクタは使用できません。

9 シリアルコネクタ ()

RS-232C準拠の機器を接続します。

10 アナログRGBコネクタ

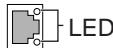
アナログディスプレイを接続します。DVI-Dコネクタと両方を使用して、2台のディスプレイを接続することもできます。

「取り扱い」－「2台目のディスプレイ」(→P.46)

カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合は、使用できません。

11 LANコネクタ (図1)

非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続することができます。
1000Mbps でお使いになる場合、エンハンスドカテゴリ5のケーブルが必要です。
100Mbps でお使いになる場合、カテゴリ5のケーブルが必要です。



LEDの意味は、次のとおりです。

	上部LED (Speed)	下部LED (Link/Act)
1000Mbps でLinkを確立	オレンジ点灯	緑色点灯 ^注
100Mbps でLinkを確立	緑色点灯	緑色点灯 ^注
10Mbps でLinkを確立	消灯	緑色点灯 ^注

注 : データ転送中は緑色点滅

12 USBコネクタ (図2)

USB規格の周辺機器を接続します。USB2.0に準拠しています。

13 キーボードコネクタ (図3)

PS/2キーボードを接続します。

「取り扱い」 - 「キーボード」 (→P.26)

14 マウスコネクタ (図4)

PS/2マウスを接続します。

「取り扱い」 - 「マウス」 (→P.22)

15 ラインイン端子 (図5)

サウンド入力用端子です。オーディオ機器の出力端子と接続します。

16 ラインアウト端子 (図6)

サウンド出力用端子です。オーディオ機器の入力端子と接続します。スピーカーを直接接続する場合は、アンプ機能搭載のものをお使いください。

なお、ヘッドホンアウト端子にヘッドホンを接続している場合、ラインアウト端子からは音が出ません。

17 IEEE1394aコネクタ (図7) (IEEE1394カード搭載機種のみ)

IEEE1394a規格の周辺機器を接続します。

18 DVI-Iコネクタ (グラフィックスカード搭載機種のみ)

DVIインターフェースのデジタルディスプレイを接続します。DisplayPortコネクタと両方を使用して、2台のディスプレイを接続することもできます。

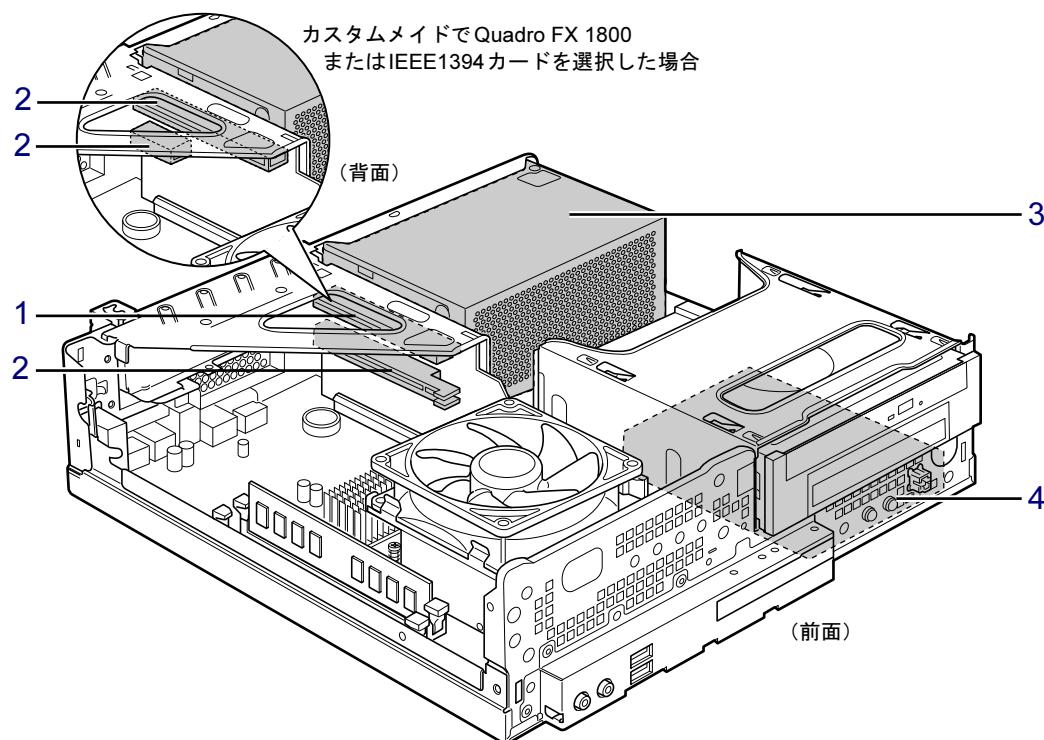
アナログディスプレイを接続する場合は、別売のDVI-VGA変換アダプタを使用してください。

19 DisplayPortコネクタ (グラフィックスカード搭載機種のみ)

DisplayPortインターフェースのデジタルディスプレイを接続します。

DVIインターフェースのディスプレイを接続する場合は、別売のDP-DVI変換ケーブルを使用してください。

ワークステーション本体内部



1 PCI カードスロット

本ワークステーションの機能を拡張する各種拡張カードを取り付けます。PCIに対応した拡張カードが使えます。

「周辺機器の設置／設定／増設」 - 「拡張カード」 (→P.91)

2 PCI-Express カードスロット

カスタムメイドで選択した拡張カード専用のスロットです。

カスタムメイドの選択によって、次のカードが搭載されています。

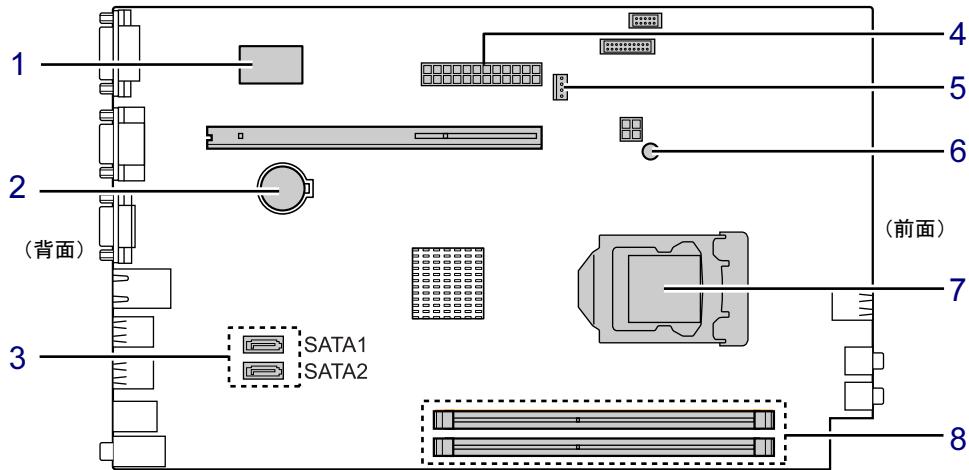
- ・グラフィックスカード
- ・SATA-RAID カード
- ・IEEE1394 カード

3 電源ユニット

4 内蔵ハードディスク

シリアル ATA 規格のハードディスクが取り付けられています。

メインボード



1 温度センサー (REAR)

2 内蔵リチウム電池

本ワークステーションの時計機能とBIOSセットアップで設定した設定値を保存するためのバッテリです。標準の使用状態で約5年間お使いになれます。

3 シリアルATAコネクタ

• SATA1

ハードディスクドライブ、またはSATA-RAIDカード（カスタムメイドでHDD変更（SATA-RAID）を選択した場合）が接続されています。

• SATA2

カスタムメイドでCD/DVDドライブを選択した場合、CD/DVDドライブが接続されています。

4 電源コネクタ

5 CPUファンコネクタ

6 温度センサー (SYSTEM)

7 CPUソケット

本ワークステーションのCPUが搭載されています。CPUファン、ヒートシンクの下にあります。

8 メモリスロット

メモリが取り付けられています。

図中上から、DIMM1、DIMM2と並んでいます。

「周辺機器の設置／設定／増設」—「メモリ」（→P.84）

Memo

第2章

取り扱い

基本的な取り扱い方法について説明しています。

2

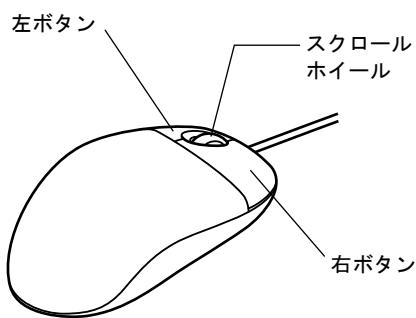
1 マウス	22
2 キーボード	26
3 CD/DVD	30
4 ディスプレイ	43
5 2台目のディスプレイ	46
6 音量 (Windows 7の場合)	56
7 音量 (Windows XPの場合)	59
8 通信	62
9 スリープ／休止状態 (Windows 7の場合)	64
10 スタンバイ／休止状態 (Windows XPの場合)	72

1 マウス

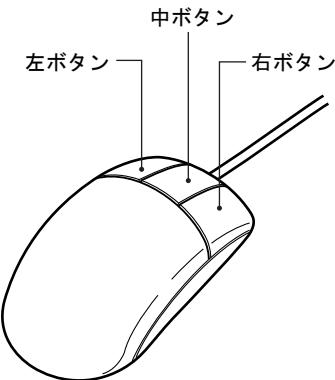
ここでは、本ワークステーションに添付のマウスについて説明しています。

マウスは、定期的にお手入れしてください。
「お手入れ」—「マウス」(→P.173)

■ 2ボタンマウス



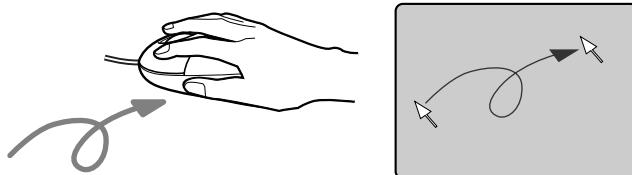
■ 3ボタンマウス



マウスの使い方

■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手を載せ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインター」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



■ ボタンの操作

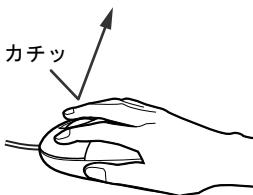
● クリック

マウスの左ボタンをカチッと1回押して、すぐに離します。



● 右クリック

マウスの右ボタンをカチッと1回押して、すぐに離します。



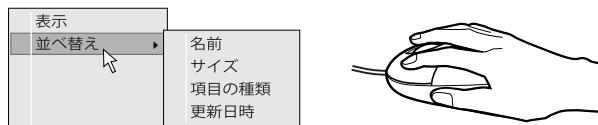
● ダブルクリック

マウスの左ボタンをカチカチッと2回素早く押して、すぐに離します。



● ポイント

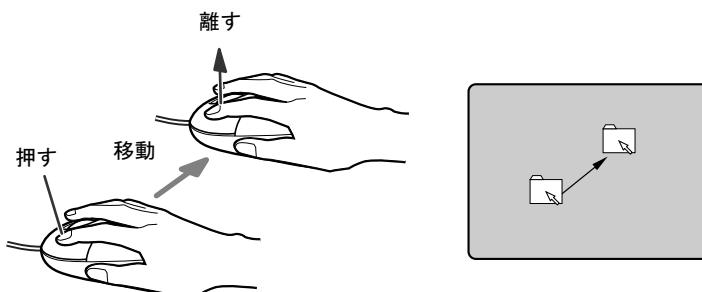
マウスポインターをメニューなどに合わせることを「ポイント」と呼びます。マウスポインターを合わせたメニューの下に階層がある場合は（メニューの右端に▶が表示されています）、メニューが表示されます。



● ドラッグ

アイコンやウィンドウを、マウスポインターで掴むようにして移動させる方法です。「ドラッグ (drag)」とは、「ひきずる」という意味です。

移動させたいアイコンやウィンドウにマウスポインターを合わせてから、マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。



● スクロール（スクロールホイール付のマウスのみ）

- ・スクロールホイールを前後に操作することで、ウィンドウ内の表示をスクロールさせる
ことができます。また、第3のボタンとして、押して使うこともできます。
- ・スクロール機能は、対応したソフトウェアで使うことができます。

 **POINT**

- ▶ 上記のボタン操作は、マウスを右利き用に設定した場合です。
- ▶ 設定を変更する場合は、「マウスの設定を変更する」（→P.24）をご覧ください。
- ▶ 3ボタンマウスの場合、中ボタンは対応するソフトウェアで使用できます。

マウスの設定を変更する

ご購入時の状態では、マウスのボタンの操作は右利き用に設定されています。左右のボタンの役割は、「マウスのプロパティ」 ウィンドウで変更できます。

また、「マウスのプロパティ」 ウィンドウでは、マウスポインター やダブルクリック、スクロールの速度なども変更できます。

「マウスのプロパティ」 ウィンドウを表示するには、次のように操作してください。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。

2 次のように操作します。

● Windows 7の場合

「ハードウェアとサウンド」→「デバイスとプリンター」の「マウス」の順にクリックします。

● Windows XPの場合

「プリンタとその他のハードウェア」→「マウス」の順にクリックします。

光学式マウス／レーザー式マウス

カスタムメイドの選択によっては、光学式マウスまたはレーザー式マウスが添付されています。

光学式マウスやレーザー式マウスは、底面からの光により照らし出されている陰影を光学センサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使用することができます。

重要

- ▶ 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- ▶ レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、まぶしさを感じなくても、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- ▶ センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- ▶ 発光部分を他の用途に使用しないでください。

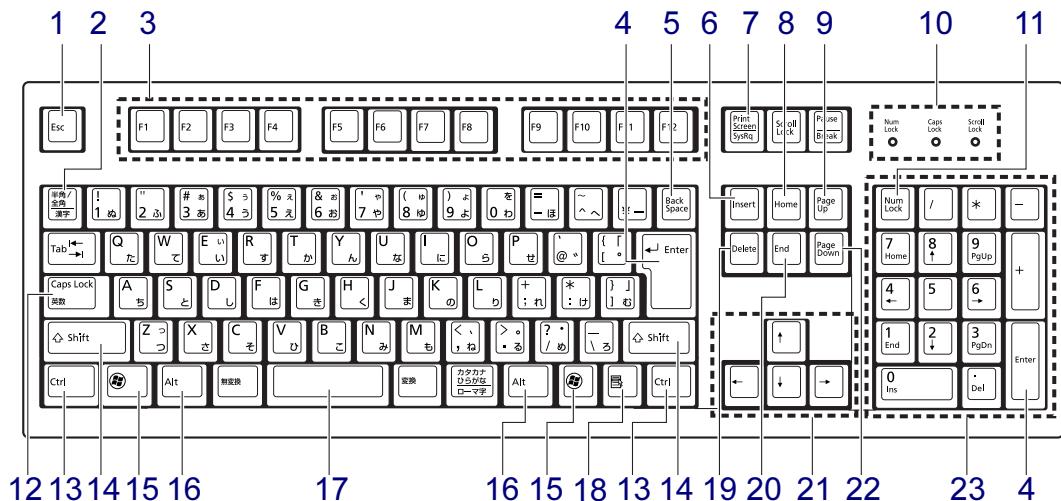
■ お使いになるうえでのご注意

- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のような物の表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、光の陰影でマウスの動きを検知しているため、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2 キーボード

ここでは、キーボード（109A日本語キーボード）のキーの役割を説明しています。

お使いになるソフトウェアによっては、キーの役割が変わることがあります。詳しくは、お使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。



1 【Esc】キー

ソフトウェアの実行中の操作を取り消します。また、【Ctrl】 + 【Shift】キーを押しながらこのキーを押すと、「Windows タスクマネージャー」ウィンドウが表示され、ソフトウェアを強制終了できます。

2 【半角／全角】キー

文字の入力時に、半角と全角を切り替えます。

3 【F1】～【F12】キー

ソフトウェアごとにいろいろな役割が割り当てられています。

4 【Enter】キー

入力した文字を確定したり、文を改行したり、コマンドを実行したりします。
リターンキー、または改行キーとも呼ばれます。

5 【Back Space】キー

カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

6 【Insert】キー

文字の入力時に、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

7 【Print Screen】キー

画面のコピーをクリップボードに取り込みます。また、【Alt】キーを押しながらこのキーを押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

8 【Home】キー

カーソルを行の最初に移動します。

【Ctrl】キーを押しながらこのキーを押すと、文章の最初に移動します。

9 【Page Up】キー

前の画面に切り替えます。

10 インジケーター

【Num Lock】キー、【Shift】+【Caps Lock 英数】キー、【Scroll Lock】キーを押すと点灯し、各キーが機能する状態になります。再び押すと消え、各キーの機能が解除されます。

11 【Num Lock】キー

テンキーの機能を切り替えます。再度押すと、解除されます。

12 【Caps Lock 英数】キー

【Shift】キーを押しながらこのキーを押すと、アルファベットの大文字／小文字の入力モードが切り替わります。

Caps Lock をONにすると大文字、OFFにすると小文字を入力できます。

13 【Ctrl】キー

他のキーと組み合わせて使います。

14 【Shift】キー

他のキーと組み合わせて使います。

15 【】(Windows)キー

「スタート」メニューを表示します。

16 【Alt】キー

他のキーと組み合わせて使います。

17 【Space】キー

空白を入力します。

18 【囲】(アプリケーション)キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。

マウスの右クリックと同じ役割をします。

19 【Delete】キー

カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。

また、【Ctrl】+【Alt】キーを押しながらこのキーを押すと、応答しなくなったソフトウェアを終了したり、本ワークステーションを強制的に終了したりできます。

20 【End】キー

カーソルを行の最後に移動します。

【Ctrl】キーを押しながらこのキーを押すと、文章の最後に移動します。

21 カーソルキー

カーソルを移動します。

22 【Page Down】キー

次の画面に切り替えます。

23 テンキー

「Num Lock」インジケーター点灯時に数字が入力できます。

「Num Lock」インジケーター消灯時にキーワーク段に刻印された機能が有効になります。

POINT

- キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度を付けることができます。

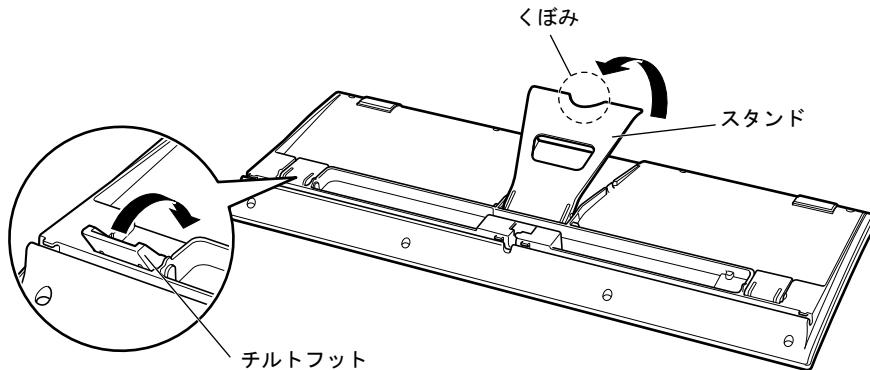


■ キーボードの立て方

対象 カスタムメイドで抗菌縦置キーボードを選択した場合

キーボードを立てて、少ないスペースで収納することができます。

キーボードを立てる場合は、キーボード底面にある、スタンド中央のくぼみに手をかけて引き起こしてください。

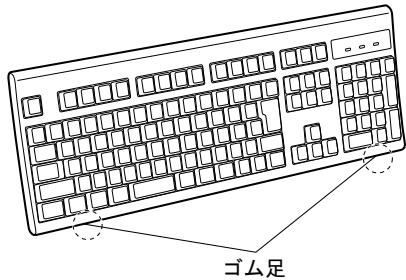


POINT

- スタンドは、「カチッ」と音がする所まで充分に引き起こしてください。
また、「カチッ」と音がした後は、それ以上無理に引き起こさないでください。無理な力を加えると、スタンドが破損する場合があります。

□ 注意事項

- キーボード底面にあるチルトフットは、倒れている状態にしてください。
- キーボードを立てた状態で、前後に押したり引いたりしないでください。キーボード下部に付いているゴム足がはがれる場合があります。



3 CD/DVD

ここでは、CDやDVDの取り扱いについて説明しています。

カスタムメイドで選択したドライブにより、使用できるディスクは異なります。

CD-ROM、音楽CD、CD-R/RWディスクをまとめてCD、DVD-ROMやDVD-VideoなどをまとめてDVDと呼んでいます。また、CDやDVDをまとめてディスクと呼んでいます。

「WinDVD」、「Roxio Creator」については、「ソフトウェア」－「CD/DVD関連のソフトウェア」(→P.124)をご覧ください。

取り扱い上の注意

■ ディスクご使用時の注意事項

- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷を付けたりしないでください。
- 曲げたり、重い物を載せたりしないでください。
- 汚れたり、水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ワークステーション本体のCD/DVD アクセスランプが点滅中は、振動や衝撃を与えないでください。
- CDやDVDを挿入したとき、自動再生（オートラン）機能が有効に設定されていると、正しく書き込みができないライティングソフトウェアがあります。ソフトウェアの指示に従って自動再生（オートラン）機能を設定してください。
- ディスクに書き込み中は、ワークステーション本体の電源を切ったり、再起動したり、CD/DVD取り出しボタンを押したりしないでください。また、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押す操作もしないでください。
- 書き込み中にディスクのディスク面に傷を検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- ディスクへの書き込みを行うときは、自動的に省電力（スリープ、スタンバイ、休止状態）状態にならないように、省電力の設定を変更してください。
- ディスクへの書き込み中は、他のソフトウェアを起動しないでください。他のソフトウェアを起動している場合は、そのソフトウェアを終了させてください。
- 不正コピー防止の仕様に準拠していないDVDやビデオCDは、正常に再生できない場合があります。
- 本ワークステーションでは、DVD-Audioなど、「使用できるディスク」(→P.33)に記載されていないディスクの再生および動作保証はできません。

■ DVD-Video ご使用時の注意事項

- ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付の再生ソフトをインストールした場合、「WinDVD」での再生は保証いたしません。また、ディスクに添付されている再生ソフトについても、弊社では保証いたしません。
- リージョン（地域）コードについて
 - ・ご購入時のリージョンコードは「2」です。DVD-Videoに記録されているリージョンコードに「2」が含まれているか、「ALL」と書かれているディスクがお使いになれます。
 - ・リージョンコードの変更は4回までです。
リージョンコードを4回変更すると、最後に設定したリージョンコードに固定され、その他のリージョンコードのDVD-Videoは再生できなくなります。固定されたリージョンコードを変更する方法はありませんのでご注意ください。
 - ・前回再生したDVD-Videoと、リージョンコードが異なるDVD-Videoを再生しようとすると、リージョンコード変更を確認するメッセージ画面が表示されます。このメッセージ画面で「OK」をクリックすると、リージョンコードの設定が変更されます。
- ディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。「WinDVD」では、著作権保護として、デスクランブル機能および相互認証(Authentication)機能が用意されています。著作権保護のされたデータなどをコピーし、再生しても、相互認証エラー(Authentication Error)となり、再生できません(This DVD can't be played in this Region.と表示されます)。
- 著作権保護のされた映像を再生する場合は、HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) に対応したデジタルディスプレイまたはアナログディスプレイをお使いください。また、DVDの再生にはHDCPに対応した「WinDVD」をお使いください。本ワークステーションに添付の「WinDVD」はHDCPに対応しています。
- 本ワークステーションに2台のディスプレイを接続し、同じ画面を表示（同時表示）しているときは、著作権保護のされた映像を再生することはできません。

■ 「WinDVD」 ご使用時の注意事項

- 再生するDVD-Videoによっては、コマ落ちをする場合があります。
- 「WinDVD」の設定を変更した直後は、DVD-Videoの再生が不安定になる場合があります。
- キャプション表示とサブタイトル表示を、同時に表示することはできません。
- MPEG1のデータによっては再生できないものがあります。
- 市販されているウイルス対策ソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。
自動検索の機能をもつウイルス対策ソフトに関しては、「WinDVD」を起動する前に一時的に起動しないようにしてください。なお、本ワークステーションに添付のアンチウイルスソフトは問題ありません。
- DVD-Videoの再生中に他のソフトウェアを起動すると、コマ落ちや音飛びが発生する場合があります。コマ落ちや音飛びを防ぐために、起動しているソフトウェアはすべて終了してください。
なお、定期的に自動起動して、ウイルスチェック、ディスクメンテナンス、データベース更新およびデータ送受信処理などを行うソフトウェアについても、その頻度により音や映像の再生に影響が出ますので、必要に応じて終了してください。
- DVDおよびビデオCDによっては、再生される映像データが表示エリア全体に表示されないものがあります。この場合は、表示の一部が黒くなります。
- マウスポインターのデザインによっては、DVD再生画面の上に移動したときにマウスポインターが点滅することがあります。このようなときは、「マウスのプロパティ」の「ポインター」タブで、「デザイン」の設定を「なし」に変更してください。

- 縦横比が16:9で録画されているDVD-Videoを全画面表示にした場合、ズーム機能が使用できないことがあります。

■ ドライブの注意事項

- 本ワークステーションは、円形のディスクのみお使いになります。円形以外の異形ディスクは、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形ディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 「ディスクご使用時の注意事項」が守られていないディスク、ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- DVD規格では媒体の厚さを1.14mm～1.5mmと規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外のDVD媒体をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 市販のクリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。クリーニングディスクはお使いにならないでください。

使用できるディスク

本ワークステーションで使用できるディスクは、カスタムメイドの選択によって異なります。お使いのドライブの表をご覧ください。

POINT

- ▶ 本ワークステーションでは、8cmおよび12cmのディスクをお使いになれます。
- ▶ 8cmのDVDは、読み込みや書き込みが正しくできないことがあります。

■ DVD-ROM ドライブの場合

	読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM	○	×	×
音楽CD	○	×	×
ビデオCD	○	×	×
CD-R	○	×	×
CD-RW	○	×	×
DVD-ROM	○	×	×
DVD-Video	○	×	×
DVD-R (4.7GB)	○	×	×
DVD-R DL (8.5GB)	○	×	×
DVD-RW	○	×	×
DVD+R (4.7GB)	○	×	×
DVD+R DL (8.5GB)	○	×	×
DVD+RW (4.7GB)	○	×	×
DVD-RAM ^{注1} (4.7GB / 9.4GB)	○	×	×
DVD-RAM ^{注2}	×	×	×

注1 : ・ DVD-RAMは、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。

カートリッジに入れた状態で使用するタイプ (Type1) は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。

・ 2.6GB および 5.2GB のディスクは、使用できません。

注2 : DVD-RAM2は、5倍速までの従来規格のDVD-RAMと異なり、6、8、12倍速に対応したDVD-RAMです。

■ スーパーマルチドライブの場合

	読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM	○	×	×
音楽CD	○	×	×
ビデオCD	○	×	×
CD-R	○	○ ^{注1}	×
CD-RW	○	○ ^{注1注2}	○ ^{注2}
DVD-ROM	○	×	×
DVD-Video	○	×	×
DVD-R (4.7GB)	○	○ ^{注1}	×
DVD-R DL (8.5GB)	○	○ ^{注3}	×
DVD-RW	○	○ ^{注1注2}	○ ^{注2}
DVD+R (4.7GB)	○	○ ^{注1}	×
DVD+R DL (8.5GB)	○	○ ^{注1}	×
DVD+RW (4.7GB)	○	○ ^{注1注2}	○ ^{注2}
DVD-RAM ^{注4} (4.7GB／9.4GB)	○	○	○
DVD-RAM2 ^{注5}	×	×	×

注1：データの追記が可能なCDやDVDにデータを追記するには、「Roxio Creator」を使用します。データの追記を行うためには、ディスクを追記可能な状態にしておく必要があります。

詳しくは、「Roxio Creator」のヘルプをご覧ください。

注2：CD-RW、DVD-RW、DVD+RWに書き込んだデータを削除するには、ディスクに書き込まれているデータをすべて消去する必要があります。

注3：DVD-R DLには追記できません。

注4：・DVD-RAMは、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。

カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。

・2.6GBおよび5.2GBのディスクは、使用できません。

注5：・DVD-RAM2は、5倍速までの従来規格のDVD-RAMと異なり、6、8、12倍速に対応したDVD-RAMです。

・DVD-RAMは、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。

カートリッジに入れた状態で使用するタイプ（Type1）は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。

推奨ディスク

本ワークステーションのCD/DVD ドライブで書き込み、書き換えを行う場合は、次のディスクをお使いになることをお勧めします。なお、使用できるディスクは、カスタムメイドの選択によって異なります。

ディスク	メーカー	メーカー型名
CD-R	太陽誘電 (That's)	CDR80WTY、CDR80WPY
CD-RW	三菱化学メディア	SW74QU5、SW80QU5、SW74EU5、SW80EU5
	Verbatim (バーベイタム)	SW80QU5V1、SW80QM5V1、SW80QP5V1、 SW80EU5V1、SW80EM5V1
DVD-R	太陽誘電 (That's)	DR-47WTY50BNT、DR-47WKY10SN、 DR-47WPY30AA
	三菱化学メディア	DHR47J10、DHR47HRP10
DVD-R DL	三菱化学メディア	DHR85H1
DVD-RW	日本ビクター	VD-W47H
	三菱化学メディア	DHW47R1
DVD+R	太陽誘電 (That's)	DR+47WTY10PN
	三菱化学メディア	DTR47J10
DVD+R DL	三菱化学メディア	DTR85H1
DVD+RW	三菱化学メディア	DTW47U1
DVD-RAM	日立マクセル	DRM47PWC.S1P5S A (4.7GB、カートリッジ無)
	パナソニック	LM-HC47M (4.7GB、カートリッジ無)、 LM-HB47MA (4.7GB、カートリッジ有、取り出し可)、 LM-HB94M (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)
DVD-RAM2	日立マクセル	DRM47D.1P (4.7GB、カートリッジ無)

上記以外の記録型ディスクをお使いの場合は、書き込み、書き換え速度が低下する場合や、正常に書き込み、書き換えができない場合があります。

POINT

- ▶ カスタムメイドでスーパーマルチドライブを選択した場合は、次のことにご注意ください。
 - ・本ワークステーションで作成したディスクは、お使いになるプレーヤーによっては、再生できない場合があります。
また、再生に対応したプレーヤーをお使いの場合でも、ディスクの記録状態によっては再生できない場合があります。
 - ・ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視などを行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

ディスクをセットする／取り出す

⚠ 注意



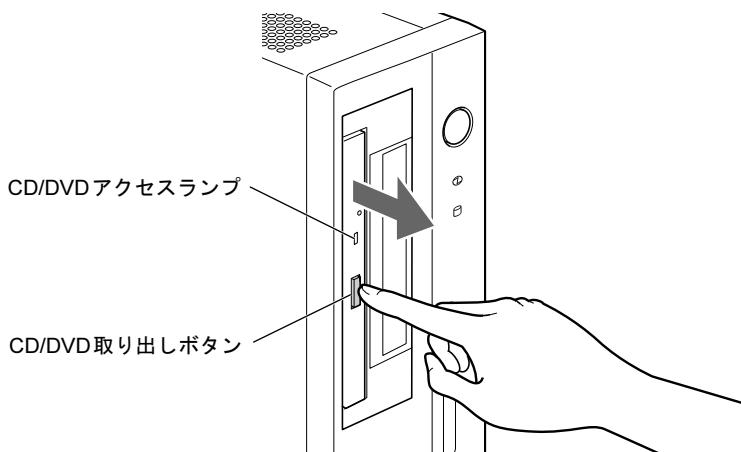
- CDやDVDをセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

■ セットする

1 CD/DVDアクセスランプが消えていることを確認します。

2 CD/DVD取り出しボタンを押します。

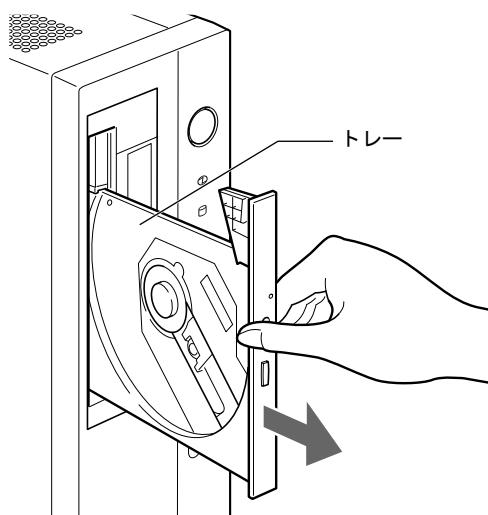
CD/DVD取り出しボタンを押すと、ディスクをセットするトレーが少し出でてきます。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

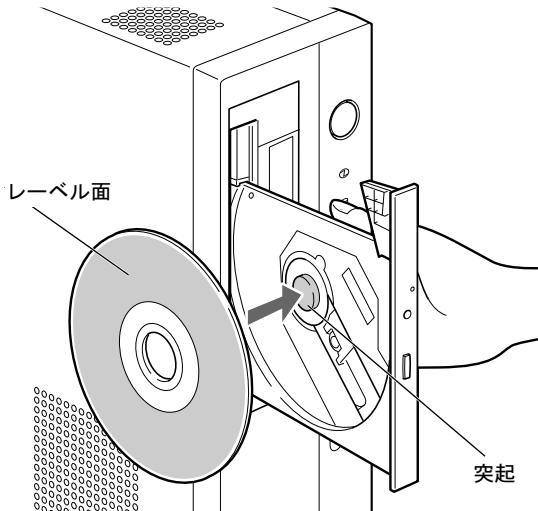
3 トレーを手で引き出します。

図のようにトレーの中央を持って引き出してください。



4 ディスクをセットします。

ディスクのレーベル面を左にして、トレーの中央の突起にディスクの穴を合わせ、「パチン」という音がするまでしっかりとはめ込んでください。このとき、ワークステーション本体が転倒しないようトレーを手で押さえてください。

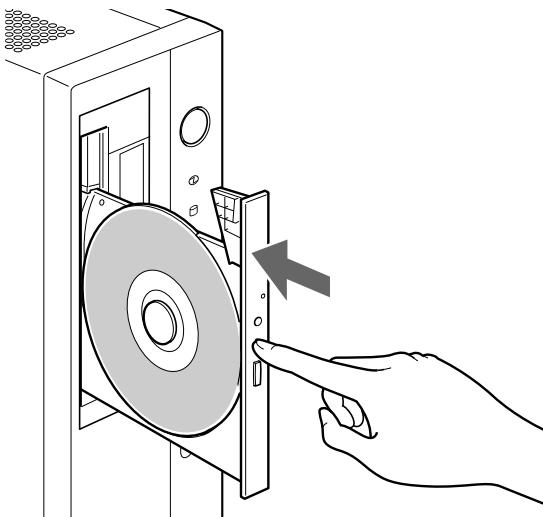


重要

- ▶ ディスクは、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、「パチン」と音がするまでしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、ディスクがドライブ内部で外れて、トレーやドライブ内部、およびディスクを破損する原因となることがあります。

5 「カチッ」という音がするまで、トレーを手で押し込みます。

トレーがCD/DVD ドライブに収まり、ディスクがセットされます。



POINT

- ▶ ディスクをセットすると、CD/DVD アクセスランプが点滅します。CD/DVD アクセスランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。
- ▶ トレーを押し込む途中でCD/DVD取り出しボタンを押さないでください。トレーが正しくセットされません。
- ▶ ディスクをセットしてから使用可能となるまでしばらく時間がかかります。また、マルチセッションディスクの場合、通常のディスクをお使いになるときと比べ、セットしてから使用可能となるまで、多少時間がかかることがあります。

■ 取り出す

- 1 ディスクを使用しているソフトウェアを終了し、CD/DVD アクセスランプが消えていることを確認します。
- 2 CD/DVD取り出しボタンを押します。
トレーが少し出でてきます。
- 3 トレーを手で引き出します。
トレーの中央を持って引き出します。
- 4 ディスクを取り出します。
- 5 「カチッ」という音がするまでトレーを手で押し込みます。

ディスクが取り出せなくなったら

CD/DVD取り出しボタンを押してもトレーが出ない場合は、次のように操作してください。

■ Windows 7の場合

- 1 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックします。
「コンピューター」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「CD/DVD ドライブ」を右クリックし、「取り出し」をクリックします。
トレーが少し出でてきます。
- 3 トレーを手で引き出します。
- 4 ディスクを取り出します。
- 5 「カチッ」という音がするまで、トレーを手で押し込みます。
- 6 「コンピューター」 ウィンドウを閉じます。

■ Windows XPの場合

- 1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「CD/DVD ドライブ」を右クリックし、「取り出し」をクリックします。
トレーが少し出でてきます。
- 3 トレーを手で引き出します。
- 4 ディスクを取り出します。
- 5 「カチッ」という音がするまで、トレーを手で押し込みます。
- 6 「マイコンピュータ」ウィンドウを閉じます。

■ 上記の方法で取り出せない場合

上記の方法で取り出せない場合は、次の方法で取り出してください。

- 1 本ワークステーションの電源を切ります。
- 2 CD/DVD ドライブの強制取り出し穴 (→P.13) に、クリップの先などを差し込みます。
トレーが少し出でてきます。
- 3 トレーを静かに引き出します。

DVD-RAMをフォーマットする (Windows 7の場合)

初めてお使いになるDVD-RAMは、データを読み書きできるようにするためにフォーマット(初期化)を行う必要があります。

ここでは、DVD-RAMのフォーマットの操作手順について説明します。

9.4GBの両面タイプのDVD-RAMをフォーマットする場合は、片面ごとにフォーマットしてください。

⚠ 注意



- DVD-RAMをセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 フォーマットするDVD-RAMを、CD/DVD ドライブにセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックします。
「コンピューター」ウィンドウが表示されます。
- 3 CD/DVD ドライブを右クリックし、「フォーマット」をクリックします。

4 「ファイルシステム」で、フォーマット種別を選択します。

 **POINT**

▶ DVD-RAMのフォーマット形式

DVD-RAMのフォーマット形式には、次のものがあります。DVD-RAM書き込みを行うソフトウェアによっては、対応するフォーマット形式が制限されていることがあります。

DVD-RAMにデータを書き込む前に、ソフトウェアのマニュアルなどをご覧になり、使用できるフォーマット形式を確認してください。

・FAT形式

ハードディスクやUSBメモリなどにデータを保存するときに使われているフォーマットの1つです。

- FAT32

Windowsで選択できるFAT形式の1つです。

・UDF (Universal Disk Format) 形式

DVDの統一標準フォーマットです。

- UDF1.5

DVD-RAMの標準フォーマットです。

- UDF2.0

DVDフォーラム策定の「ビデオレコーディングフォーマット規格」準拠のフォーマットです。

5 「ボリュームラベル」に名前を入力します。

DVD-RAMには、自由に名前を付けることができます。

6 「開始」をクリックします。

7 フォーマットを確認するメッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。

フォーマットが始まります。

8 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。

9 「閉じる」をクリックします。

DVD-RAMをフォーマットする (Windows XPの場合)

本ワークステーションのスーパーマルチドライブでDVD-RAMに書き込みや書き換えをするには、ドライブの設定を変更する必要があります。

また、初めてお使いになるDVD-RAMは、データを読み書きできるようにするためにフォーマット（初期化）を行う必要があります。

ここでは、ドライブの設定を変更する手順と、DVD-RAMのフォーマットの操作手順を説明します。

■ ドライブの設定を変更する

DVD-RAMにデータの書き込み、書き換えをするには、ドライブの設定を変更する必要があります。

- 1 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
- 2 CD/DVD ドライブを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 3 「書き込み」タブで「このドライブでCD書き込みを有効にする」のチェックを外します。
- 4 「OK」をクリックします。

2

■ DVD-RAMをフォーマットする

9.4GBの両面タイプのDVD-RAMをフォーマットする場合は、片面ごとにフォーマットしてください。

⚠ 注意



- DVD-RAMをセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

- 1 フォーマットするDVD-RAMを、CD/DVD ドライブにセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 3 CD/DVD ドライブを右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
- 4 「ボリュームラベル」に名前を入力します。
DVD-RAMには、自由に名前を付けることができます。
- 5 「開始」をクリックします。
- 6 フォーマットを確認するメッセージが表示されるので、「はい」をクリックします。
フォーマットが始まります。

7 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。

8 「閉じる」をクリックします。

4 ディスプレイ

ここでは、本ワークステーションの表示機能について説明しています。液晶ディスプレイの取り扱いや設定については、液晶ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

複数のディスプレイを接続して使用する場合については、「2台目のディスプレイ」(→P.46)をご覧ください。

解像度や発色数を変更する

2

■ 表示できる解像度と発色数

本ワークステーションで表示できる解像度と発色数は次のとおりです。

発色数は「16ビット」が約6万5千色、「32ビット」が約1677万色です。

POINT

- ディスプレイによって、設定できる解像度が異なります。お使いのディスプレイで表示可能な解像度に設定してください。詳しくは、ディスプレイのマニュアルをご確認ください。なお、すべてのディスプレイについて動作保証するものではありません。
- DVI-Dコネクタ、DVI-Iコネクタ、DisplayPortのいずれを使用した場合も、解像度や発色数は同じです。

解像度（ピクセル） ^{注1}	発色数	
	中（16ビット）	最高（32ビット）
800×600	○	○
1024×768	○	○
1280×1024	○	○
1360×768 ^{注2}	○	○
1440×900 ^{注2}	○	○
1600×1200	○	○
1680×1050 ^{注2}	○	○
1920×1200 ^{注2}	○	○
1920×1440 ^{注3}	○	○
2048×1536 ^{注3}	○	○
2560×1600 ^{注3}	○	○

注1：お使いのディスプレイが各解像度をサポートしている必要があります。ディスプレイがサポートしていない解像度はお使いになれます。

注2：本解像度をサポートしたディスプレイでのみ選択できます。

注3：・カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合のみ使用可能。

・DVI-DコネクタまたはDVI-Iコネクタを使用している場合、Dual Link対応ディスプレイで接続したときのみ表示できます。

■ 注意事項

- 解像度や発色数を変更する前に、作業中のデータを保存し、常駐しているものを含むすべてのソフトウェアを終了させてください。
- 発色数やリフレッシュレートを変更すると、画面がディスプレイ中央に表示されない場合があります。この場合は、ディスプレイの仕様を確認して適切なリフレッシュレートを設定するか、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください。
- 解像度を変更するときに、一時的に画面が乱れることがあります、動作には問題ありません。
- ディスプレイの設定変更によって、画面に何も表示されなくなるなど表示に異常が発生した場合は、操作を中断してそのまましばらくお待ちください。15秒ほどで変更前の表示設定に戻ります。
その後、ケーブルなどが正しく接続されているか、解像度などの設定が正しいかを確認してから操作をやり直してください。

■ 解像度や発色数を変更する

ソフトウェアによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

□ Windows 7の場合

- 1 デスクトップで右クリックし、「画面の解像度」をクリックします。
「画面の解像度」 ウィンドウが表示されます。
- 2 解像度を変更する場合は、「解像度」から解像度を選択します。
- 3 発色数を変更する場合は、次の操作を行います。
 1. 「詳細設定」をクリックします。
 2. 表示されたウィンドウの「モニター」タブをクリックします。
 3. 「色」から発色数を選択します。
16ビットの発色数に変更する場合は「High Color (16ビット)」を、32ビットの発色数に変更する場合は「True Color (32ビット)」を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。
 - 解像度だけを変更した場合は、「このディスプレイ設定をそのままにしますか?」というメッセージが表示されたら、15秒以内に「変更を維持する」をクリックします。
 - その他の場合は、「この画面設定をそのままにしますか?」というメッセージが表示されたら、15秒以内に「はい」をクリックし、「OK」をクリックします。

□ Windows XPの場合

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックします。

3 解像度や発色数を変更します。

16ビットの発色数に変更する場合は「中（16ビット）」を、32ビットの発色数に変更する場合は「最高（32ビット）」を選択します。

4 「OK」をクリックします。

「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか?」というメッセージが表示された場合は、15秒以内に「はい」をクリックします。

 **POINT**

▶ リフレッシュレートの変更方法

1. 次の操作をします。
 - Windows 7の場合
「画面の解像度」ウィンドウで「詳細設定」をクリックします。
 - Windows XPの場合
「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックします。
2. 「モニタ」タブをクリックします。
3. 「画面のリフレッシュレート」で、適切なリフレッシュレートの値を選択します。
4. 「OK」をクリックします。
画面にメッセージが表示されます。指示に従って操作してください。

5 2台目のディスプレイ

本ワークステーションは、ご購入時の状態で、2台のディスプレイを接続することができます。

ここでは、ディスプレイを2台接続するとできることについて説明しています。

ディスプレイの設定方法などについては、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

マルチディスプレイ機能

本ワークステーションには、2台のディスプレイを接続して表示できる「マルチディスプレイ機能」があります。

マルチディスプレイ機能には、次の機能があります。

- **クローン機能**

プライマリディスプレイに表示されている画面をセカンダリディスプレイにも表示する機能です。

- **拡張デスクトップ**

1つのデスクトップを、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの2台のディスプレイを使って表示する機能です。

Windows上では、2台のディスプレイとして認識されます。

- **スパン機能**

カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合で、Windows XPをお使いの場合のみ使用できます。

1つのデスクトップを、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの2台で1台のディスプレイとして表示する機能です。

OS上では、1台のディスプレイとして認識されます。

2台目のディスプレイを接続する

■ 用意する物

- **2台目のディスプレイ**

「本ワークステーションとディスプレイの接続」(→P.48)をご覧になり、1台目のディスプレイと同時接続可能なディスプレイを用意してください。

- **DVI-VGA変換アダプタ**

DVI-Iコネクタにアナログディスプレイを接続する場合は、別売のDVI-VGA変換アダプタ(CLE-ADP11A)を用意してください。

本ワークステーションには添付されていません。

- **DP-DVI変換ケーブル**

DisplayPortにDVIインターフェースのデジタルディスプレイを接続する場合は、別売のDP-DVI変換ケーブル(CLE-ADP21)を用意してください。

本ワークステーションには添付されていません。

■ 注意事項

- 2台目のディスプレイは、Windowsのセットアップが終了した後に接続してください。
- ワークステーション本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。
特にデジタルディスプレイをお使いになる場合、ワークステーション本体の電源を入れる前にデジタルディスプレイの電源が入っていることを必ず確認してください。
- ワークステーション本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
- ディスプレイのマニュアルもご覧ください。
- 電源を入れた後に表示される「FUJITSU」ロゴは、次のように表示されます。

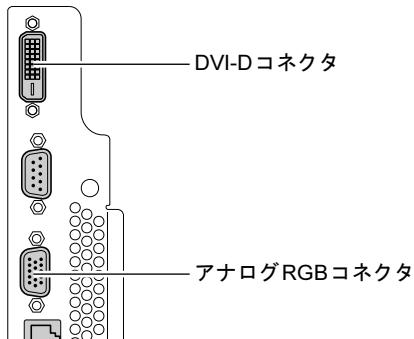
「FUJITSU」ロゴの表示	
Intel HD Graphics (CPU内蔵)	アナログRGBコネクタとDVI-Dコネクタに接続したディスプレイの両方で表示
Quadro FX 1800	・DVI-Iコネクタに接続したディスプレイのみに表示
Quadro FX 580	・DVI-Iコネクタを使用していない場合は、DisplayPort (DP #1) に接続したディスプレイのみに表示

- ディスプレイを2台接続している場合、1台のみ接続している場合に比べて、表示性能が若干低下します。
- マルチディスプレイ機能を設定する場合は、設定を行う前に2台目のディスプレイを接続してください。2台目のディスプレイが接続されていない場合は、マルチディスプレイ機能を設定することができません。
- マルチディスプレイ機能を使用すると、各グラフィックスカードの最大解像度を表示できなくなる場合があります。
- 「Windows Media Player」など、複数のディスプレイでの動作を保証していないソフトウェアを全画面で表示すると、画面の表示が正常に行われないことがあります。
- お使いの動画再生ソフトによっては、セカンドリディスプレイでは動画が再生できないことがあります。そのような場合は、動画再生ソフトを最新版に更新してください。
- ディスプレイを取り外すときは、取り外すディスプレイのマルチディスプレイ機能を無効にしてから取り外してください。
- クローン機能を使用する場合、画面の設定（解像度、発色数およびリフレッシュレート）は、2台のディスプレイで同じ値に設定してください。解像度が異なるディスプレイをお使いの場合は、解像度が低いディスプレイにあわせて設定してください。
- 拡張デスクトップを使用する場合、解像度やリフレッシュレートは各ディスプレイで設定可能な範囲で設定してください。発色数は、2台のディスプレイで同じ値に設定してください。
- 拡張デスクトップを使用する場合、次のことに注意してください。
 - ・一部のスクリーンセーバーは、プライマリアダプタに接続したディスプレイにのみ表示されます。
 - ・セカンドリモニターに画面が表示できない場合があります。この場合は、拡張デスクトップの設定後、一度ワークステーションを再起動してください。
 - ・2つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプタとセカンドリアダプタの設定を変更しないでください。
 - ・セカンドリアダプタのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンドリアダプタの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよびWindowsの動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。

- スパン機能を使用する場合、画面の設定（解像度、発色数およびリフレッシュレート）は、1台のディスプレイとして設定してください。

■ 本ワークステーションとディスプレイの接続

□ グラフィックスカードなしの場合



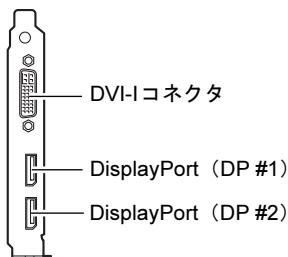
	DVI-D	アナログ
シングルディスプレイ	—	○
	○	—
マルチディスプレイ	○	○

POINT

► Dual Link対応ディスプレイはお使いになれません。接続しないでください。

□ カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合

- Quadro FX 1800、Quadro FX 580



	DVI-I ^{注1}	DisplayPort (DP #1)	DisplayPort (DP #2) ^{注2}
シングルディスプレイ ^{注3}	○	—	—
	—	○	—
マルチディスプレイ ^{注4}	○	○ ^{注5}	—
	—	○	○

注1：アナログディスプレイを接続するときは、DVI-Iコネクタに別売のDVI-VGA変換アダプタを接続してから、ディスプレイケーブルを接続してください。

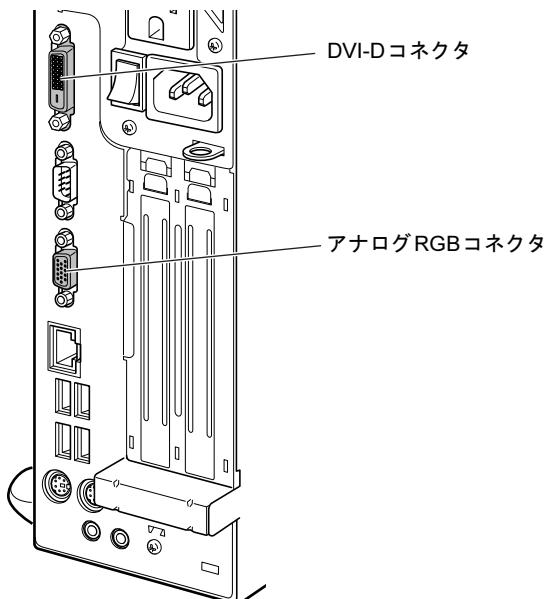
- 注2 : DisplayPortケーブルで接続してください。
注3 : DisplayPort (DP #2) のみでの接続はサポートしていません。
注4 : 表にある組み合わせ以外の接続はサポートしていません。
注5 : DVIインターフェースのデジタルディスプレイを接続する場合は、別売のDP-DVI変換ケーブルを接続してから、ディスプレイケーブルを接続してください。

■ 接続する

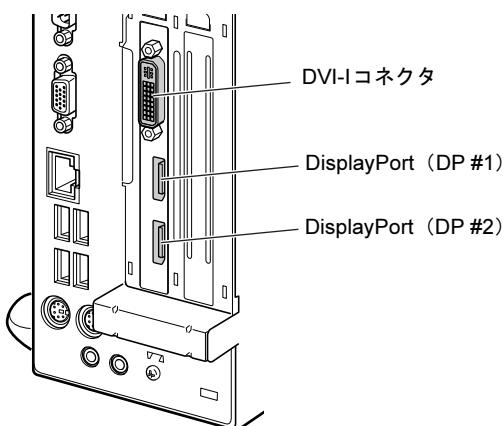
1 2台目のディスプレイを接続します。

「本ワークステーションとディスプレイの接続」(→P.48)をご覧になり、使用可能な組み合わせに従って2台目のディスプレイを接続します。

なお、接続についてはお使いになるディスプレイのマニュアルもご覧になり、接続してください。



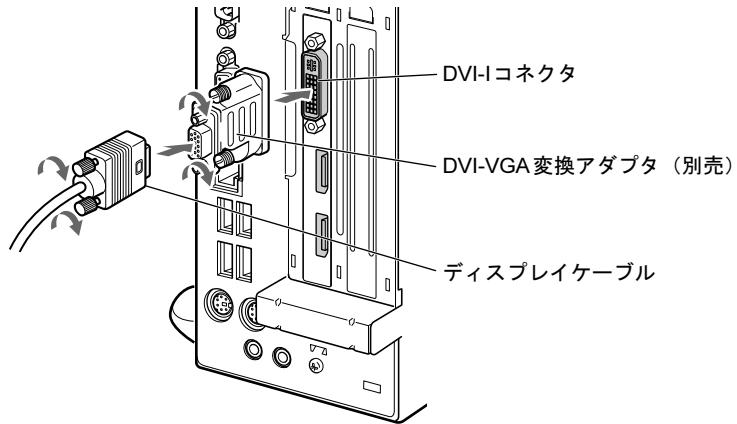
(グラフィックスカードなしの場合)



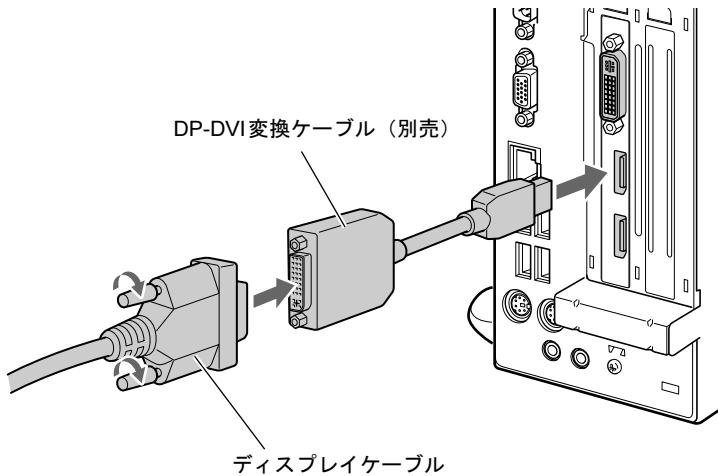
(カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合)

POINT

- ▶ DVI-Iコネクタにアナログディスプレイを接続する場合
DVI-Iコネクタに別売のDVI-VGA変換アダプタを接続してから、ディスプレイケーブルを接続してください。



- ▶ DisplayPortにDVIインターフェースのデジタルディスプレイを接続する場合
DisplayPortに別売のDP-DVI変換ケーブルを接続してから、ディスプレイケーブルを接続してください。



- 2 ディスプレイの電源を入れます。
- 3 本ワークステーションの電源を入れます。
- 4 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。

表示方法を切り替える（グラフィックスカードなしの場合）

POINT

- ▶ 「インテル(R) グラフィック/メディア・コントロール・パネル」では、ウィンドウ下部中央の「？」アイコンをクリックしてから各項目をポイントすると、その項目のヘルプを表示することができます。
- ▶ リフレッシュレートとは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位はHz）で表したもので、垂直同期周波数ともいいます。CRTなどのアナログディスプレイでは、リフレッシュレートの値が高いほど画面のちらつきが少なくなります、その反面、画像品質が低下します。アナログディスプレイでは85Hzまたは75Hz、LCDなどのデジタルディスプレイでは60Hzでご使用されることをお勧めします。

2

1 次の操作を行います。

● Windows 7の場合

1. デスクトップで右クリックし、「画面の解像度」をクリックします。
「画面の解像度」 ウィンドウが表示されます。
2. 「詳細設定」をクリックします。

● Windows XPの場合

1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。

2 「インテル(R) グラフィック/メディア・コントロール・パネル」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。 「インテル® グラフィック/メディア コントロール・パネル」が表示されます。

3 ウィンドウ左の「ディスプレイ」→「マルチディスプレイ」の順にクリックします。

4 「動作モード」から、希望する表示方法を選択します。

POINT

- ▶ 「主ディスプレイ」、「2番目のディスプレイ」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、ウィンドウ左の「ディスプレイ」→「一般設定」に順にクリックして表示される設定項目から変更できます。

5 「適用」をクリックします。

「新しい設定が適用されました。これらの設定を保持しますか?」というメッセージが表示されたら、15秒以内に「OK」をクリックします。

6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

■ 画面の位置関係を変更する（拡張デスクトップのみ）

拡張デスクトップでは、それぞれのディスプレイが表示する画面の位置関係を自由に変更することができます。位置関係の変更は次の手順で行います。

1 次の操作を行います。

● Windows 7の場合

1. デスクトップで右クリックし、「画面の解像度」をクリックします。
「画面の解像度」 ウィンドウが表示されます。

● Windows XPの場合

1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックします。

2 モニターのアイコンを、表示する位置にドラッグします。

3 「OK」をクリックします。

表示方法を切り替える (カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合)

POINT

- ▶ 各項目については、ウィンドウ下部に表示されるオンラインヘルプをご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートとは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位はHz）で表したもので、垂直同期周波数ともいいます。CRTなどのアナログディスプレイではリフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが少なくなりますが、その反面、画像品質が低下します。アナログディスプレイでは85Hzまたは75Hz、LCDなどのデジタルディスプレイでは60Hzでご使用されることをお勧めします。
- ▶ 2台のディスプレイを接続し、初めて電源を入れたときに、1台目のディスプレイに「NVIDIAディスプレイセットアップ ウィザード」 ウィンドウが表示される場合があります。この場合は、「キャンセル」をクリックしてください。
- ▶ 電源を入れた後に「NVIDIAコントロールパネルビューの選択」 ウィンドウが表示された場合は、「標準設定」を選択し、「OK」をクリックしてください。

■ クローン機能

1 次の操作を行います。

● Windows 7の場合

1. デスクトップで右クリックし、「画面の解像度」をクリックします。
「画面の解像度」 ウィンドウが表示されます。
2. 「詳細設定」をクリックします。

● Windows XPの場合

1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。

2 「Quadro FX 1800」タブ、または「Quadro FX 580」タブをクリックします。

搭載されているグラフィックスカードによって、タブの名称が異なります。

3 「NVIDIAコントロールパネルの起動」をクリックします。

「NVIDIAコントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

「NVIDIAコントロールパネルビューの設定」ウィンドウが表示された場合は、「標準設定」を選択し、「OK」をクリックします。

4 画面左側の、「タスクの選択 ...」の「表示」にある「複数のディスプレイの設定」をクリックします。

5 ディスプレイの設定をします。

● Windows 7の場合

1. 「1. 使用するディスプレイを選択します。」で、接続されているディスプレイにチェックが入っていることを確認します。
2. 「2. ディスプレイ設定を確認します。」で、2台目のディスプレイのアイコン上で右クリックし、「[ディスプレイAの名称] を [ディスプレイBの名称] に複製」を選択します。

接続したディスプレイによって、表示される[ディスプレイの名称]は異なります。

● Windows XPの場合

1. 「1. 使用するnViewディスプレイモードを選択します。」で「両方のディスプレイで同じ（クローン）」を選択します。
2. 「2. 使用するディスプレイを選択します。」で、一覧から表示するディスプレイをクリックします。

接続したディスプレイによって、表示される名称は異なります。

6 「適用」をクリックします。

「お使いのデスクトップの設定は変更されました。変更を保存しますか?」と表示されます。

7 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。

8 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

9 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

■ 拡張デスクトップ

□ Windows 7の場合

1 デスクトップで右クリックし、「画面の解像度」をクリックします。
「画面の解像度」ウィンドウが表示されます。

2 「複数のディスプレイ」で「表示画面を拡張する」を選択します。

3 「適用」をクリックします。

4 「ディスプレイ設定」ウィンドウが表示されたら、15秒以内に「変更を維持する」をクリックします。

5 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

6 本ワークステーションを再起動します。

□ **Windows XPの場合**

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックします。
- 3** 「2」のディスプレイをクリックします。
- 4** 「デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」、または「Windowsデスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックします。
- 5** 解像度と発色数を設定します。
解像度と発色数については、「解像度や発色数を変更する」(→P.43) をご覧ください。
- 6** 「適用」をクリックします。

 **POINT**

- ▶ 解像度を変更した場合などに、「画面の設定」 ウィンドウまたは「モニタの設定」 ウィンドウが表示されることがあります。「はい」をクリックして次に進んでください。

- 7** 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 8** 本ワークステーションを再起動します。

■ **スパン機能 (Windows XPのみ)**

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3** 「Quadro FX 1800」タブ、または「Quadro FX 580」タブをクリックします。
搭載されているグラフィックスカードによって、タブの名称が異なります。
- 4** 「NVIDIAコントロールパネルの起動」をクリックします。
「NVIDIAコントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
「NVIDIAコントロールパネルビューの設定」 ウィンドウが表示された場合は、「標準設定」を選択し、「OK」をクリックします。
- 5** 画面左側の、「タスクの選択 ...」の「表示」にある「複数のディスプレイの設定」をクリックします。

- 6** 「1. 使用するnViewディスプレイモードを選択します。」で「1つの大きな横型デスクトップ（水平スパン）」、または「1つの大きな縦型デスクトップ（垂直スパン）」を選択します。
 - ・「水平スパン」：2つの画面を横置きで1枚の画面として使用します。
 - ・「垂直スパン」：2つの画面を縦置きで1枚の画面として使用します。
- 7** 「2. 使用するディスプレイを選択します。」で、一覧から表示するディスプレイをクリックします。
接続したディスプレイによって、表示される名称が異なります。
- 8** 「適用」をクリックします。
「お使いのデスクトップの設定は変更されました。変更を保存しますか？」と表示されます。
- 9** 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。
- 10** ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。
- 11** 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 12** 本ワークステーションを再起動します。

6 音量 (Windows 7の場合)

Windows XPの場合は、「音量 (Windows XPの場合)」(→P.59) をご覧ください。
スピーカーやヘッドホンの音量は、画面の音量つまみで調節します。

注意事項

スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。

画面上の音量つまみで設定する

POINT

- ▶ 画面右下の通知領域に「スピーカー」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「タスクバーと [スタート] メニューのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「タスクバー」タブをクリックします。
 3. 「通知領域」の「カスタマイズ」をクリックします。
「通知領域アイコン」ウィンドウが表示されます。
 4. 「音量」アイコンの「動作」で「アイコンと通知を表示」を選択します。
 5. 「OK」をクリックし、「通知領域アイコン」ウィンドウを閉じます。
 6. 「OK」をクリックし、「タスクバーと [スタート] メニューのプロパティ」ウィンドウを閉じます。

■ 全体の音量を調節する

本ワークステーションが output する音声の音量を一括して調整します。

- 1 画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコンをクリックします。
音量を調節する画面が表示されます。
- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。
「ミュート」アイコンをクリックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。
- 3 デスクトップの何もないところをクリックします。
音量を調節する画面が消えます。
消えなかつた場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

■ ソフトウェアごとに音量を調節する

音が出るソフトウェアごとに音量を調節することができます。

- 1 音量を調節したいソフトウェアを起動します。
- 2 画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコンを右クリックし、「音量ミキサを開く」をクリックします。
「音量ミキサ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいソフトウェアの音量つまみを上下にドラッグして、適切な音量に調節します。

POINT

- ▶ 「デバイス」欄の音量つまみは、「全体の音量を調節する」(→P.56) のものと同じ働きをします。
- ▶ 「デバイス」欄の音量つまみを調節すると、「アプリケーション」欄の音量つまみは、現在の割合を保ったまま連動して動きます。
- ▶ 「アプリケーション」欄の音量つまみを「デバイス」欄の音量つまみより上に調節すると、自動的に「デバイス」欄の音量つまみも同じ音量に調節されます。ただしこのときは、「アプリケーション」欄の他のつまみは動きません。

- 4 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックします。
「音量ミキサ」ウィンドウが閉じます。

■ 機器ごとに音量を調節する

本ワークステーションに搭載または接続されている機器（スピーカーやマイクなど）ごとに、音量を調節することができます。

調節できる項目の詳細は、「音量を調節できる項目」(→P.58) をご覧ください。

POINT

- ▶ 録音する機器は、ワークステーション本体のラインイン端子や、マイク端子に、それぞれ機器が接続されている場合にのみ、選択することができます。

- 1 画面右下の通知領域にある「スピーカー」アイコンを右クリックし、「再生デバイス」または「録音デバイス」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 2 音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
音量を調節したい機器のプロパティが表示されます。

POINT

- ▶ 「サウンド」ウィンドウに複数の機器が表示されている場合、アイコンの下にチェックの付いている機器が、音声の出力先または入力元に設定されています。出力先または入力元を変更したい場合は、目的の機器をクリックして選択してから、「規定値に設定」をクリックしてください。

- 3 「レベル」タブをクリックします。

4 音量を調節したい項目で、音量つまみを左右にドラッグして、適切な音量に調節します。

- ・「ミュート」アイコン：音を出力したり、消したりできます。
- ・「バランス」：左右の音量のバランスを調節できます。

5 「OK」をクリックします。

音量を調節したい機器のプロパティが閉じます。

6 「OK」をクリックします。

「サウンド」ウィンドウが閉じます。

音量を調節できる項目

本ワークステーションご購入時の状態で、機器ごとに調節できる項目について説明します。
各項目の音量を調節する方法は、「機器ごとに音量を調節する」(→P.57)をご覧ください。

■ 再生デバイス

- スピーカー

- ・ Realtek HD Audio output

スピーカーから出力される音の再生音量を調節できます。

■ 録音デバイス

- マイク

- ・マイク

ワークステーション本体背面のマイク端子から入力される音の録音音量を調節することができます。

- ・マイクブースト

マイクブーストのレベルを調節することができます。

- ライン入力

- ・ライン入力

ラインイン端子から入力される音の録音音量を調節することができます。

7 音量 (Windows XP の場合)

Windows Vista の場合は、「音量 (Windows 7 の場合)」(→P.56) をご覧ください。スピーカーやヘッドホンの音量は、画面の音量つまみで調節します。また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するウィンドウで行います。

注意事項

スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。

画面上の音量つまみで設定する

POINT

- ▶ 画面右下の通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」→「サウンドとオーディオデバイス」の順にクリックします。
「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「音量」タブをクリックします。
 4. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」のチェックを付けます。
 5. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをクリックします。

音量を調節する画面が表示されます。

2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。

「ミュート」をチェックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。

3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。

消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

再生時／録音時の音量設定

「マスター音量」ウィンドウで再生時や録音時の音量設定ができます。

再生時や録音時に調節できる項目については、「音量を調節できる項目」(→P.61)をご覧ください。

■ 再生時の音量を調節する

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
「マスター音量」ウィンドウが表示されます。
- 2 バランスや音量などを調節します。
- 3 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■ 録音時の音量を調節する

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
「マスター音量」ウィンドウが表示されます。
- 2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio Input」を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 バランスや音量などを調節します。
- 6 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ バランスや音量を設定しても再生時や録音時の音量が小さかったり大きかったりする場合は、次の手順で設定を変更してください。
 1. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
 2. 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio Input」を選択し、「OK」をクリックします。
 3. 「オプション」メニュー→「トーン調整」の順にクリックします。
 4. 「マイクボリューム」の「トーン」をクリックします。
 5. 「そのほかの調整」で「マイクブースト」のチェックを確認します。
音量を大きくしたい場合はチェックを付けます。
音量を小さくしたい場合はチェックを外します。

音量を調節できる項目

表示されていない項目を表示させる場合は、次のように設定します。

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
- 3 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio Input」または「Realtek HD Audio output」を選択します。
- 4 「表示するコントロール」で、項目をクリックしてチェックします。
- 5 「OK」をクリックします。

項目が表示されるようになります。

POINT

▶ 各項目で表示される名称や順番は、お使いの機種や状況により異なる場合があります。

2

■ 再生するときに調節できる項目

項目	ご購入時の表示状態	設定する音量
マスター音量	表示	ワークステーション全体の再生音量
WAVE	表示	WAVE音源の再生音量
SWシンセサイザ	表示	本ワークステーション搭載のソフトウェアMIDIの再生音量
CDプレーヤー	表示	(表示されますが、音量調節できません)
ライン音量	表示	ラインイン端子から入力される音の再生音量
マイクボリューム ^注	非表示	マイク端子から入力される音の再生音量

注：ご購入時は、ミュートに設定されています。

■ 録音するときに調節できる項目

項目	ご購入時の表示状態	設定する音量
ライン音量	表示	ラインイン端子から入力される音の録音音量
マイクボリューム	表示	マイク端子から入力される音の録音音量
ステレオミキサー	非表示	ステレオ再生音全体の録音音量

8 通信

通信機能をお使いになる場合は、ウイルスや不正アクセスから本ワークステーションを守るため、セキュリティ対策を実行してください。詳しくは、「セキュリティ」(→P.97)をご覧ください。

LAN (有線 LAN)

LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ LANケーブルを接続する

本ワークステーションには、下記に対応したLANが搭載されています。

- 10BASE-T (IEEE 802.3準拠)
- 100BASE-TX (IEEE 802.3u準拠)
- 1000BASE-T (IEEE 802.3ab準拠)

⚠ 警告



- 近くで落雷のおそれがある場合は、ワークステーション本体の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、LANケーブルをコネクタから抜き、雷がやむまで取り付けないでください。そのまま使用すると、落雷による感電・火災の原因となります。

⚠ 注意



- LANコネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- LANケーブルを接続する場合は、必ずLANコネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

1 ワークステーション本体の電源を切ります。

2 ワークステーション本体のLANコネクタにLANケーブルを接続します。

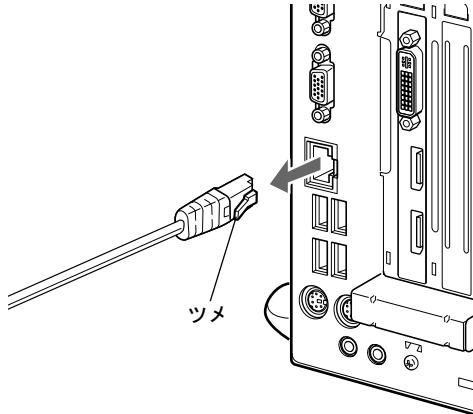
コネクタの形を合わせて、まっすぐに差し込んでください。LANコネクタについては、「各部名称」—「ワークステーション本体背面」(→P.15)をご覧ください。

重要

- ▶ ネットワークを使用中に省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなったり、ソフトウェアの不具合が発生したりする場合があります。
その場合は、「スリープ／休止状態（Windows 7の場合）」(→P.64)、または「スタンバイ／休止状態（Windows XPの場合）」(→P.72)をご覧になり、省電力機能を解除してください。
- ▶ Link速度を1Gbpsに固定して接続することはできません。

POINT

- ▶ LANコネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。



(イラストは機種や状況により異なります)

- ▶ 本ワークステーションでLAN機能をお使いになる場合は、ネットワーク機器の電源をオンにしてから本ワークステーションの電源を入れてください。また、本ワークステーションをご使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度がおかしくなったりする場合があります。

例：1Gbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる

ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本ワークステーションとネットワーク機器が接続されていることをご確認後、ワークステーション本体を再起動してください。

- ▶ Link速度を100/10Mbpsに固定して接続できます。Link速度を固定して接続する場合、AutoNegotiationのみサポートしているネットワーク機器では、「デュプレックス」の設定は「半二重／Half Duplex」に設定してください。
「全二重／Full Duplex」に設定すると、次のような問題が発生する場合があります。
 - ・Linkランプが点灯しない
 - ・通信できない
 - ・通信速度が異常に遅い

9 スリープ／休止状態 (Windows 7の場合)

ここでは、本ワークステーションの省電力機能のうち、スリープと休止状態について説明しています。

Windows XPの場合は、「スタンバイ／休止状態 (Windows XPの場合)」(→P.72) をご覧ください。

スリープ／休止状態とは

スリープまたは休止状態を使用すると、Windowsを終了しないで消費電力を抑えることができます。

● スリープ

作業中のデータなどをメモリに保存して、ワークステーション本体の動作を中断させることです。このとき、ワークステーション本体の電源ランプの点灯が緑色からオレンジ色に変わります。

ハイブリッドスリープが無効になっている場合は、スリープ中に電源プラグをコンセントから抜かないでください。電源が供給されなくなると、メモリに保持されているプログラムやデータが失われてしまいます。

ハイブリッドスリープが有効になっている場合は、スリープ中に電源が切れても元の状態に復旧するときにハードディスクからデータを読み出します。電源が切れた場合は、ワークステーション本体の電源ランプは消灯します。

● 休止状態

メモリ内のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、ワークステーション本体の電源を切ります。このとき、ワークステーション本体の電源ランプは消灯します。電源ランプの状態は、電源を切った状態と同じですが、休止状態のときは機器の構成を変えないでください。

POINT

- ▶ スリープや休止状態から動作、作業状態に回復することを「レジューム」といいます。
- ▶ ハイブリッドスリープがオンに設定されていると、休止状態を使用することができません。休止状態を使用する場合は、次の手順に従ってハイブリッドスリープをオフに設定してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 変更したい電源プランの「プラン設定の変更」をクリックします。
「プラン設定の編集」ウィンドウが表示されます。
 3. 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
 4. 「スリープ」をダブルクリックし、「ハイブリッドスリープを許可する」をダブルクリックします。
 5. 「設定」を「オフ」にします。
 6. 「OK」をクリックします。

注意事項

■ 共通の注意事項

- 本ワークステーションをお使いの状況によっては、スリープや休止状態への移行、およびレジューム（復帰）に時間がかかる場合があります。
- スリープまたは休止状態にした後は、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようしてください。
- スリープ時や休止状態移行時またはレジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスリープや休止状態に移行させると、スリープまたは休止状態にならない、レジュームしない、レジューム後に正常に動作しない、データが消失するなどの問題が発生することがあります。
 - ・ Windows の起動処理中または終了処理中
 - ・ 本ワークステーションが何か処理をしている最中（プリンター出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ファイルアクセス中（ハードディスク、CD/DVD ドライブのアクセスランプが点滅中）
 - ・ モデムやネットワークの通信中
 - ・ 自動再生（オートラン）CD-ROM または DVD-ROM を使用中
 - ・ ビデオ CD や DVD-Videoなどを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT 形式のファイルの再生中や音楽 CD の再生中）
 - ・ CD や DVD にデータを書き込み中または書き換え中
 - ・ ドライバーのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバーのインストールが終了していないとき、または正しくインストールされていないとき
 - ・ ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
 - ・ ネットワーク環境で通信中に、「スタート」ボタンを使用してスリープおよび休止状態に移行した場合
 - ・ ネットワーク上でファイルの共有を設定し、「スタート」ボタンを使用してスリープに移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合
「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。
[ファイル名] ~~
このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか？」
 - ・ マウスの操作中
 - ・ Open GL を使用するソフトウェアを実行中
 - ・ ACPI に対応していない別売の機器（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
- BIOS セットアップの省電力に関する設定は、一部を除いて無効となります。各設定については、「BIOS」 - 「メニュー詳細」（→P.137）をご覧ください。
- 本ワークステーションは、低レベルのスリープ（ACPI S1）をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスリープのみサポートしている場合は、本ワークステーションをスリープや休止状態にしないでください。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバーが「IRQ シェアリング（割り込みの共有）」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。

- CD や DVD を読み込み中にスリープや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- 本ワークステーションを使用中にスリープや休止状態に移行させるときは、省電力の設定を変更することをお勧めします。省電力の設定を変更すると、ファイルアクセス中や通信中にスリープや休止状態に移行することを回避できます。
また、ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム機能 (Wake up on LAN 機能) をお使いの場合でも、意図せず本ワークステーションがレジュームする可能性が低くなります。
省電力の設定を変更する手順は、次のとおりです。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「システムとセキュリティ」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。
 3. 変更したい電源プランの「プラン設定の変更」をクリックします。
「プラン設定の編集」ウィンドウが表示されます。
 4. 「コンピュータをスリープ状態にする」で、30 分以上の設定値を選択します。
 5. 「変更の保存」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
- Wakeup on LAN 機能が有効なとき、TCP/IP の設定で DHCP が有効になっていると、スリープや休止状態中に、DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスのリース期限が切れ、本ワークステーションがレジュームする場合があります。
このような場合には、「LAN 着信によるレジューム (Wake up on LAN 機能)」(→P.68) の手順 7 で次の 3 つの項目にチェックを付けてください。
 - ・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする
 - ・管理ステーションでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする
- 「プラン設定の編集」ウィンドウの「ディスプレイの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。電源プランについては、「電源プランを変更する」(→P.69) をご覧ください。

■ スリープ時の注意事項

- 「スタート」ボタンを使用して本ワークステーションをスリープに移行させても、すぐレジュームすることができます。その場合には、いったんマウスを動かしてから、再びスリープに移行させてください。
- スリープに移行するとき、「デバイスのドライバーが原因でスリープ状態に入れません。」の警告ウィンドウが表示されて、スリープに移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスリープに移行できない状態を示します。スリープに移行させるためには、動作中のプログラムを終了してください。

■ 休止状態時の注意事項

- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。
- プリンターなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、休止状態にする前の作業状態に戻らないことがあります。

スリープ／休止状態の使い方

スリープや休止状態にする方法について説明します。

POINT

- ▶ ご購入時の設定では休止状態を使用できません。休止状態を使用する場合は、「スリープ／休止状態とは」(→P.64) のPOINTをご覧になり、設定を変更してください。

■ スリープ／休止状態にする

□ 一定時間操作しない

ご購入時には、本ワークステーションを20分間操作しないと自動的に「スリープ」に移行するよう設定されています。

□ スタートボタンを使う

1 ディスクアクセスランプ (→P.13) が点滅していないことを確認します。

2 「スタート」ボタン→  の  →「スリープ」または「休止状態」の順にクリックします。

しばらくするとスリープまたは休止状態になります。

□ 電源ボタンを使う

ワークステーション本体の電源ボタンを押して、スリープや休止状態にすることができます。ご購入時の設定は「シャットダウン」です。設定を変更する方法は、「電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する」(→P.70) をご覧ください。

■ スリープ／休止状態からレジュームする

POINT

- ▶ 電源ボタンを押す方法以外でスリープからレジューム（復帰）させると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
その場合は、キーボードかマウスから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、本ワークステーションは再度スリープに移行します。

レジューム後しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。レジュームには、次の方法があります。

□ 電源ボタンを押す

ワークステーション本体の電源ボタンを押すと、レジュームします。

POINT

- ▶ 「電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する」(→P.70) で、「電源ボタンを押したときの動作」を「シャットダウン」に設定した場合でも、スリープまたは休止状態で電源ボタンを押すとレジュームします。

□ キーボードのキーを押す、またはマウスを操作する

スリープ（電源ランプがオレンジ色に点灯）の場合は、キーボードのキーやマウスのボタンを押すと、レジュームします。

ただし、休止状態（電源ランプが消灯）の場合は、キーボードやマウスを操作してもレジュームしません。

□ レジュームする時刻を指定する

決まった時刻に本ワークステーションをレジュームさせることができます。

この機能を使用する場合は、次のように設定してください。

- 1 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3 「システムとセキュリティ」→「管理ツール」の「タスクのスケジュール」の順にクリックします。
「ユーザー帳票」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。
「タスクスケジューラ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「操作」メニュー→「タスクの作成」の順にクリックします。
「タスクの作成」ウィンドウが表示されます。
- 5 「トリガー」タブをクリックし、時間を設定します。
- 6 「操作」タブをクリックし、起動するソフトウェアなどを設定します。
- 7 「条件」タブをクリックし、「タスクの実行時にスリープを解除する」にチェックを付けます。
- 8 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

□ LAN着信によるレジューム（Wakeup on LAN機能）

他のコンピュータから本ワークステーションにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。

Wakeup on LAN機能を使用する場合は、次のように設定してください。

- 1 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3 「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイスマネージャー」の順にクリックします。
「ユーザー帳票」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。
「デバイスマネージャー」ウィンドウが表示されます。
- 4 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。

- 5** 「Broadcom NetLink(TM) Gigabit Ethernet」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 6** 「電源の管理」タブをクリックします。
- 7** 次の2つの項目にチェックを付けます。
 - ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする
- 8** 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

□ PCI規格のカードによるレジューム

PME#信号をサポートしたPCI規格の拡張カード（PCI Revision 2.3に準拠）が搭載されている場合に、拡張カードの制御によって本パソコンをレジュームさせることができます。詳しくは、お使いの拡張カードのマニュアルをご覧ください。

スリープ／休止状態の設定を変更する

省電力機能が働くまでの時間などの設定を変更するには、「コントロールパネル」の「電源オプション」ウィンドウで行います。

CDやDVDにデータを書き込むときや、LANを使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

■ 電源プランを変更する

ご購入時は「バランス」、「省電力」、「高パフォーマンス」が用意されています。お使いになる状況に適した電源プランを選択してください。

- 1** 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「システムとセキュリティ」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプション」ウィンドウが表示されます。
- 3** 各電源プランにある「プラン設定の変更」をクリックして、各プランの設定を変更します。
- 4** ウィンドウ右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■スリープになるまでの時間を変更する

ご購入時には、20分間ワークステーションを操作しないと自動的に「スリープ」になるように設定されています。

スリープになるまでの時間は、次の手順で変更することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 - 2 「システムとセキュリティ」→「電源オプション」ウィンドウ左の「コンピュータがスリープ状態になる時間を変更」の順にクリックします。
「プラン設定の編集」ウィンドウが表示されます。
 - 3 「コンピュータをスリープ状態にする」の時間を変更します。
-  **POINT**
- ▶ 自動的にスリープに移行しないようにするには、「なし」を選択します。
- 4 「変更の保存」をクリックします。
 - 5 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する

ワークステーション本体の電源ボタンを押したときに働く省電力機能は、次の手順で変更することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「システムとセキュリティ」→「電源オプション」の「電源ボタンの動作の変更」をクリックします。
「システム設定」ウィンドウが表示されます。
- 3 「電源ボタンを押したときの動作」の設定を変更します。
- 4 「変更の保存」をクリックします。
- 5 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■ レジュームするときにWindowsのパスワードを入力する設定にする

本ワークステーションがレジュームするときに、Windowsに設定してあるパスワードを入力する設定にすると、本ワークステーションのセキュリティを高めることができます。

- 1** 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
- 2** 「システムとセキュリティ」→「電源オプション」の「電源ボタンの動作の変更」をクリックします。
「システム設定」 ウィンドウが表示されます。
- 3** 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリックします。
「ユーザー アカウント 制御」 ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。
- 4** 「パスワードを必要とする（推奨）」を選択します。
- 5** 「変更の保存」をクリックします。
- 6** ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

10 スタンバイ／休止状態 (Windows XPの場合)

ここでは、本ワークステーションの省電力機能のうち、スタンバイと休止状態について説明しています。

Windows 7の場合は、「スリープ／休止状態 (Windows 7の場合)」(→P.64) をご覧ください。

スタンバイ／休止状態とは

スタンバイまたは休止状態を使用すると、Windows を終了しないで消費電力を抑えることができます。

● スタンバイ

作業中のデータなどをメモリに保存して、ワークステーション本体の動作を中断させることです。

スタンバイ中は、電源ランプがオレンジ色に点灯し、メモリに保存したデータなどを保持するために少しづつ電力を消費します。

スタンバイ中に電源プラグをコンセントから抜かないでください。電源が供給されなくなると、メモリに保持されているプログラムやデータが失われてしまいます。

● 休止状態

作業中のデータなどをハードディスクに書き込んで保存し、ワークステーション本体の電源を切ることです。

そのため、スタンバイよりもさらに消費電力を抑えることができます。

ご購入時の設定では、休止状態は無効に設定されています。休止状態を使用する場合は、「スタンバイ／休止状態の設定を変更する」(→P.77) をご覧ください。

休止状態中は電源ランプが消灯します。電源ランプの状態は電源を切った状態と同じですが、休止状態のときは機器の構成を変更しないでください。

POINT

- ▶ スタンバイや休止状態から動作、作業状態に回復することを「リジューム」といいます。

注意事項

■ 共通の注意事項

- 本ワークステーションをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態への移行、およびレジューム（復帰）に時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にした後は、すぐにレジュームしないでください。必ず、10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- スタンバイ時や休止状態移行時、またはレジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスタンバイや休止状態に移行させると、スタンバイまたは休止状態にならない、レジュームしない、レジューム後に正常に動作しない、データが消失するなどの問題が発生することがあります。
 - ・ Windows の起動処理中または終了処理中
 - ・ 本ワークステーションが何か処理をしている最中（プリンター出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ファイルアクセス中（ハードディスク、CD/DVD ドライブのアクセスランプが点滅中）
 - ・ モデムやネットワークの通信中
 - ・ 自動再生（オートラン）CD-ROM または DVD-ROM を使用中
 - ・ ビデオ CD や DVD-Videoなどを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT 形式のファイルの再生中や音楽 CD の再生中）
 - ・ CD や DVD にデータを書き込み中または書き換え中
 - ・ ドライバーのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバーのインストールが終了していないとき、または正しくインストールされていないとき
 - ・ ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
 - ・ ネットワーク環境で通信中に、「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使用してスタンバイおよび休止状態に移行した場合
 - ・ ネットワーク上でファイルの共有を設定し、「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使用してスタンバイに移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合
- 「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。
[ファイル名] ~~
このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか?」
- マウスの操作中
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているとき
- OpenGL を使用するソフトウェアを実行中
- ACPI に対応していない別売の機器（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
- BIOS セットアップの省電力に関する設定は、一部を除いて無効となります。各設定については、「BIOS」 - 「メニュー詳細」（→P.137）をご覧ください。
- 本ワークステーションは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合は、本ワークステーションをスタンバイや休止状態にしないでください。

- PCI拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバーが「IRQシェアリング(割り込みの共有)」をサポートしている必要があります。増設するPCIカードがIRQシェアリングをサポートしているかどうかは、各PCIカードメーカーに確認してください。
- CDやDVDを読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- 本ワークステーションを使用中にスタンバイや休止状態に移行させると、省電力の設定を変更することをお勧めします。省電力の設定を変更すると、ファイルアクセス中や通信中にスタンバイや休止状態に移行することを回避できます。
また、ネットワーク環境でLAN着信によるレジューム機能(Wakeup on LAN機能)をお使いの場合でも、意図せず本ワークステーションがレジュームする可能性が低くなります。省電力の設定を変更する手順は、次のとおりです。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」および「システム休止状態」で、30分以上の設定値を選択します。
 4. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。
- Wakeup on LAN機能が有効なとき、TCP/IPの設定でDHCPが有効になっていると、スタンバイや休止状態中に、DHCPサーバーから割り当てられたIPアドレスのリース期限が切れ、本ワークステーションがレジュームする場合があります。
このような場合には、「LAN着信によるレジューム (Wakeup on LAN機能)」(→P.76) の手順7で次の3つの項目にチェックを付けてください。
 - ・電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする
 - ・管理ステーションでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする
- 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「電源設定」タブにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。

■ スタンバイ時の注意事項

- 電源ボタンなどで本ワークステーションをスタンバイに移行させても、すぐレジュームすることがあります。その場合には、いったんマウスを動かしてから、もう一度スタンバイに移行させてください。
- スタンバイに移行するとき、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。ソフトウェアをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ウィンドウが表示されて、スタンバイに移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイに移行できない状態を示します。スタンバイに移行させるためには、動作中のプログラムを終了してください。

■ 休止状態時の注意事項

- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。
- プリンターなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。

スタンバイ／休止状態の使い方

スタンバイや休止状態にする方法について説明します。

POINT

- ▶ ご購入時の設定では休止状態を使用できません。休止状態を使用する場合は、「スタンバイ／休止状態の設定を変更する」(→P.77) をご覧になり、設定を変更してください。

■ スタンバイ／休止状態にする

□ 一定時間操作しない

ご購入時には、本ワークステーションを20分間操作しないと自動的に「スタンバイ」に移行するように設定されています。

□ 「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使う

- 1 ディスクアクセランプ (→P.13) が点滅していないことを確認します。
- 2 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。
- 3 「スタンバイ」または「休止状態」を選択します。
しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

□ 電源ボタンを使う

ワークステーション本体の電源ボタンを押して、スタンバイや休止状態にすることができます。ご購入時の設定は「シャットダウン」です。設定を変更する方法は、「電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する」(→P.78) をご覧ください。

■ スタンバイ／休止状態からレジュームする

POINT

- ▶ 電源ボタンを押す方法以外でスタンバイからレジューム（復帰）させると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
その場合は、キーボードかマウスから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、本ワークステーションは再度スタンバイに移行します。

レジューム後しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。レジュームには、次の方法があります。

□ 電源ボタンを押す

ワークステーション本体の電源ボタンを押すと、レジュームします。

POINT

- ▶ 「電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する」(→P.78) で、「電源ボタンを押したときの動作」を「シャットダウン」に設定した場合でも、電源ボタンを押すとスタンバイからレジュームします。

□ キーボードのキーを押す、またはマウスを操作する

スタンバイ（電源ランプがオレンジ色に点灯）の場合は、キーボードのキーやマウスのボタンを押すと、レジュームします。

ただし、休止状態（電源ランプが消灯）の場合は、キーボードやマウスを操作してもレジュームしません。

□ レジュームする時刻を指定する

決まった時刻に本ワークステーションをレジュームさせることができます。
この機能を使用する場合は、次のように設定してください。

- 1 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3 「パフォーマンスとメンテナンス」→「タスク」の順にクリックし、「スケジュールされたタスクの追加」をダブルクリックします。
「タスクウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 4 画面の指示に従って、起動するソフトウェアや時間を設定します。
「タスク名」に、新しいアイコンが表示されます。
- 5 作成したアイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「[ソフトウェア名]」ウィンドウが表示されます。
[ソフトウェア名]には、起動するよう設定したソフトウェアの名称が表示されます。
- 6 「設定」タブをクリックし、「タスクの実行時にスリープを解除する」にチェックを付けます。
- 7 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

□ LAN着信によるレジューム (Wakeup on LAN機能)

他のコンピュータから本ワークステーションにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。

Wakeup on LAN機能を使用する場合は、次のように設定してください。

- 1 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 5 「Broadcom NetLink(TM) Gigabit Ethernet」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

6 「電源の管理」タブをクリックします。

7 次の2つの項目にチェックを付けます。

- ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
- ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする

8 「OK」をクリックして、すべての画面を閉じます。

□ PCI規格のカードによるレジューム

PME#信号をサポートしたPCI規格の拡張カード (PCI Revision 2.3に準拠) が搭載されている場合に、拡張カードの制御によって本パソコンをレジュームさせることができます。詳しくは、お使いの拡張カードのマニュアルをご覧ください。

スタンバイ／休止状態の設定を変更する

省電力機能が働くまでの時間などの設定を変更できます。

CDやDVDにデータを書き込むときや、LANを使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

■ スタンバイ／休止状態になるまでの時間を変更する

ご購入時には、20分間ワークステーションを操作しないと自動的に「スタンバイ」になるように設定されています。

スタンバイや休止状態になるまでの時間は、次の手順で変更することができます。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2 「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 休止状態を使用する場合は、「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」にチェックを付け、「適用」をクリックします。

4 「電源設定」タブをクリックし、お使いの状況に合わせて、「電源設定」を選択します。

5 「システムスタンバイ」または「システム休止状態」の設定を変更します。

POINT

- ▶ 自動的にスタンバイに移行しないようにするには、「なし」を選択します。

6 「OK」をクリックします。

■ 電源ボタンを押したときの省電力機能を変更する

ワークステーション本体の電源ボタンを押したときに働く省電力機能は、次の手順で変更することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 休止状態を使用する場合は、「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」にチェックを付け、「適用」をクリックします。
- 4 「詳細設定」タブをクリックし、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定を変更します。
- 5 「OK」をクリックします。

■ レジュームするときにWindowsのパスワードを入力する設定にする

本ワークステーションがレジュームするときに、Windowsに設定してあるパスワードを入力する設定にすると、本ワークステーションのセキュリティを高めることができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「詳細設定」タブをクリックし、「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックを付けます。
- 4 「OK」をクリックします。

第3章

周辺機器の設置／設定／増設

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3

1	周辺機器を取り付ける前に	80
2	本体カバー	82
3	メモリ	84
4	拡張カード	91

1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明しています。

⚠️ 警告



- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、ワークステーション本体および周辺機器が故障する原因となります。

⚠️ 注意



- 周辺機器などの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となることがあります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

● 周辺機器の中には、お使いになれないものがあります

ご購入の前に富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧になり、その周辺機器がお使いになれるかどうかを確認してください。

● 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします

純正品以外を取り付けた場合、正常に動かなかったり、本ワークステーションが故障したりしても、保証の対象外となります。

純正品が用意されていない機器については、本ワークステーションに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。

弊社純正品以外の動作については、サポートしておりません。

● 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください

一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。

● 本ワークステーションおよび接続されている機器の電源を切ってください

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。電源を切った状態でも、ワークステーション本体内部には電流が流れています。

● あらかじめ搭載されている周辺機器について

標準搭載およびカスタムメイドの選択によって搭載された機器は、ご購入時の状態から搭載位置やケーブルの接続先などを変更することをサポートしておりません（マニュアルなどに指示がある場合を除く）。

● 電源ユニットは分解しないでください

電源ユニットは、ワークステーション本体内部の背面側にある箱形の部品です。

詳しくは、「各部名称」—「ワークステーション本体内部」（→P.18）をご覧ください。

● 内部のケーブル類や装置の扱いに注意してください

傷付けたり、加工したりしないでください。

● 柔らかい布の上などで作業してください

固いものの上に直接置いて作業すると、ワークステーション本体に傷が付くおそれがあります。

● 静電気に注意してください

内蔵周辺機器は、プリント基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質の物に手を触れるなどして静電気を放電してください。

● プリント基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れないでください

金具の部分や、プリント基板のふちを持つようにしてください。

● 周辺機器の電源について

周辺機器の電源はワークステーション本体の電源を入れる前に入れるもののが一般的ですが、ワークステーション本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

● ACPIに対応した周辺機器をお使いください

本ワークステーションは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）に対応しています。ACPI対応のOSで周辺機器をお使いになる場合、周辺機器がACPIに対応しているか周辺機器の製造元にお問い合わせください。ACPIに対応していない周辺機器を使うと、本ワークステーションおよび周辺機器が正常に動作しないおそれがあります。

● ドライバーを用意してください

周辺機器の取り付けや取り外しには、プラスのドライバーが必要な場合があります。

ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

2 本体力バー

周辺機器を取り付けるときは、本体力バー（アッパーカバー）を取り外して、内部が見える状態にします。

⚠️ 警告



- 本体力バーの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行なうようにしてください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠️ 注意

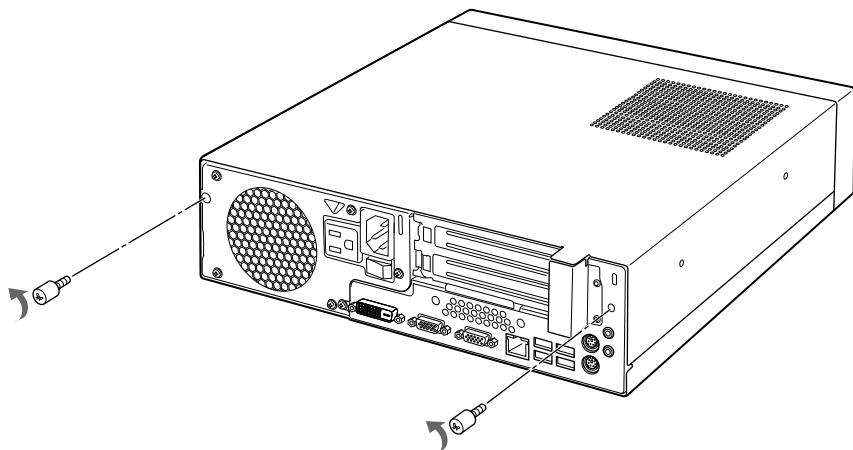


- 本体力バーの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

本体力バーの取り外し方

本体力バーは、ワークステーション本体が滑らないような場所で取り外してください。
フット（→P.14）を取り付けている場合は、ワークステーション本体からフットを取り外し、
横置きにしてから本体力バーを取り外してください。

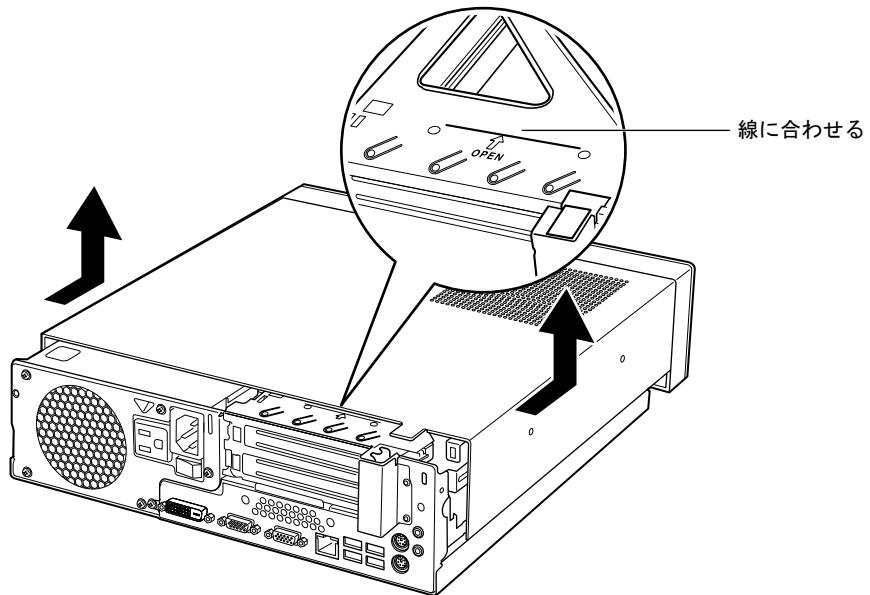
- 1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 ワークステーション本体背面のネジ（2ヶ所）を外します。



（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

3 本体カバーを取り外します。

ワークステーション本体前面側にスライドさせてから、上に持ち上げて取り外します。お使いの機種により、本体カバーの取り外しが硬く感じる場合があります。



POINT

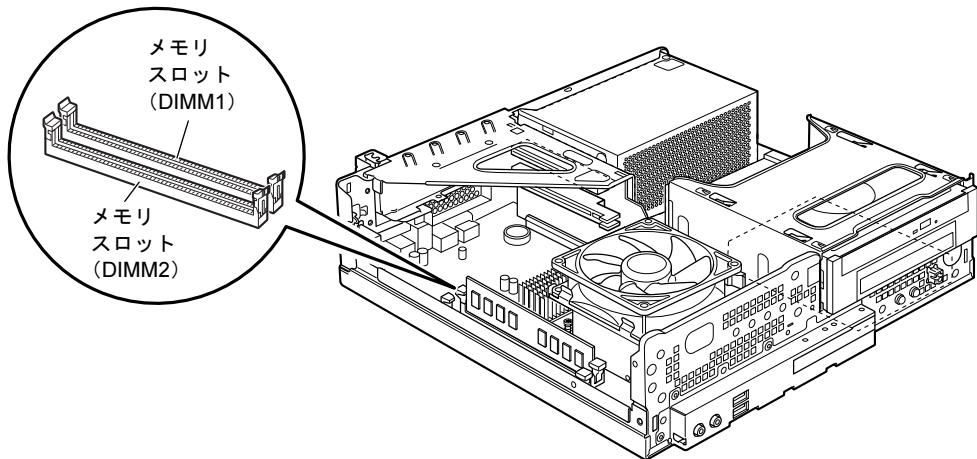
- ▶ 本体カバーを取り付ける場合は、本体カバーをワークステーション本体の上に下ろし、ワークステーション本体背面側に、突き当たるまでしっかりとスライドさせてください。その後、手順2で取り外したネジ（2ヶ所）で固定してください。

3 メモリ

ここでは、メモリ容量を増やす方法について説明しています。

メモリの取り付け場所

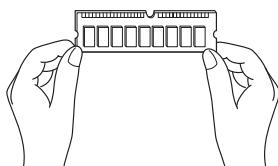
メモリはワークステーション本体内部のメモリスロットに取り付けます。



(イラストは機種や状況により異なります)

取り扱い上の注意

- 取り外したネジなどをワークステーション本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリを持つときは、次のイラストのようにふちを持ち、端子（金色の線が入っている部分）やIC部分には絶対に手を触れないようにしてください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。
また、メモリに強い力をかけないようにしてください。



- メモリが補助金具などに触れないように注意してください。

- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。

取り付けられるメモリ

本ワークステーションにメモリを増設する場合は、弊社純正品をお使いください。使用できるメモリについて、詳しくは富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

■ メモリの組み合わせ表

本ワークステーションには、最大で4GBのメモリを取り付けることができます。
メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。

DIMM1	DIMM2	総容量
1GB	—	1GB (標準)
1GB	1GB	2GB ^{注1}
2GB	2GB	4GB ^{注2}
4GB	4GB	8GB ^{注3}

注1：国際エネルギーestarプログラム対応モデル、およびWindows 7 Professional (64ビット版)を選択した場合の標準の組み合わせです。

注2：Windows 7 (32ビット版) またはWindows XP Professionalをお使いの場合、OSが使用可能な領域は約3GBになります。

注3：Windows 7 (64ビット版) の場合のみお使いになります。

重要

▶ この表の組み合わせ以外で、メモリを取り付けないでください。

メモリを取り付ける

POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、Windows のセットアップを実行後、一度電源を切った後に取り付けてください。
- ▶ メモリを増設した後は、仮想メモリの設定が必要になる場合があります。設定方法は、「トラブルシューティング」－「ハードウェア関連のトラブル」（→P.191）をご覧ください。

⚠ 警告



- メモリの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行なうようにしてください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- メモリの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メモリは何度も抜き差ししないでください。
故障の原因となることがあります。



- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となることがあります。

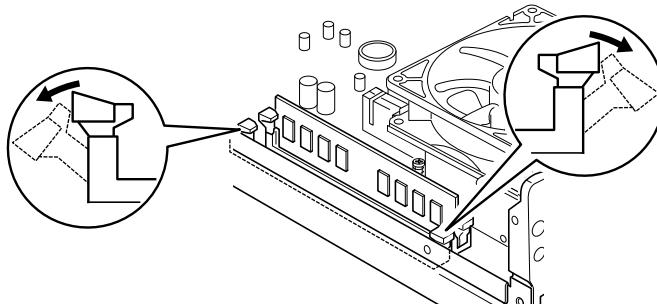
- 1** ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。

重要

- ▶ 必ず電源プラグをコンセントから抜くか、ワークステーション本体背面のメインスイッチ(→P.16)を「O」側に切り替えてください。電源を切っただけでは、メモリは通電していることがあります。

- 2** 本体カバーを取り外します(→P.82)。

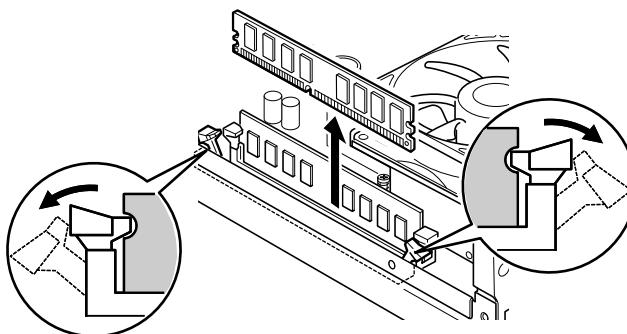
- 3** スロットの両側のフックを外側に開きます。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

● すでにメモリが取り付けられている場合

フックを開くと、メモリがスロットから押し出されます。真上にまっすぐ引き抜いてください。



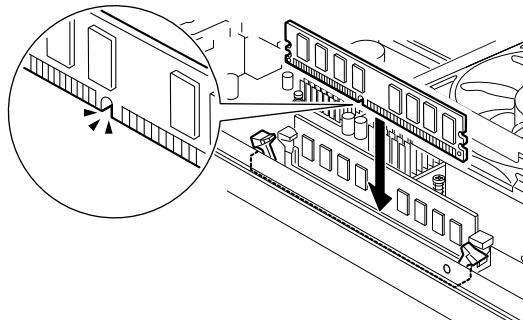
重要

- ▶ すでにメモリが取り付けられている場合は、フックを勢いよく開かないように注意してください。フックを勢いよく外側に開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがあります。

4 メモリをスロットに差し込みます。

メモリの切り欠き部分とスロットの切り欠き部分を合わせて、スロットに垂直に差し込みます。

正しく差し込まれると、スロットの両側のフックが閉じた状態になります。このとき、フックがメモリをしっかりと固定しているか確認してください。



※ 重要

- 逆向きに差し込んだ場合、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

5 本体力バーを取り付けます。

6 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。

■ メモリを取り外す

メモリを取り外す場合は、取り付ける手順をご覧ください。

POINT

- 取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。
- メモリを取り外した後の空きスロットは、フックを閉じた状態にしておいてください。

メモリ容量を確認する

メモリを取り付けた後、増やしたメモリが使える状態になっているかを確認してください。
必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを4秒以上押し続けて本ワークステーションの電源を切り、もう一度メモリを取り付けてください。
- ▶ 取り付けが正しいにもかかわらず本ワークステーションが起動しない場合は、メモリが故障している場合があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ 本ワークステーションは、グラフィックスカードを搭載していない場合、メインメモリの一部をビデオメモリやその他の機能で使用しています。そのため、起動時の自己診断(POST)時や、次の手順で画面に表示されるメモリの容量(Windows XPの場合)は、取り付けたメモリの総容量より少なくなります。

3

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 3 次の操作をします。
 - Windows 7の場合
1. 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
「システム」ウィンドウが表示されます。
 - Windows XPの場合
1. 「パフォーマンスとメンテナンス」→「システム」の順にクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 次の方法で、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。

メモリの容量の数値が正しくない場合は、電源を切った後メモリが正しく取り付けられているかどうかを確認してください。

●Windows 7の場合

「実装メモリ（RAM）」の数値が、増やしたメモリの分だけ増えていることを確認します。

●Windows XPの場合

次の画面の枠で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えていることを確認します。



5 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックします。

4 拡張カード

拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。

POINT

- ▶ ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、Windowsのセットアップを実行後、一度電源を切った後に取り付けてください。

⚠ 警告



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- 拡張カードの取り付け、取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



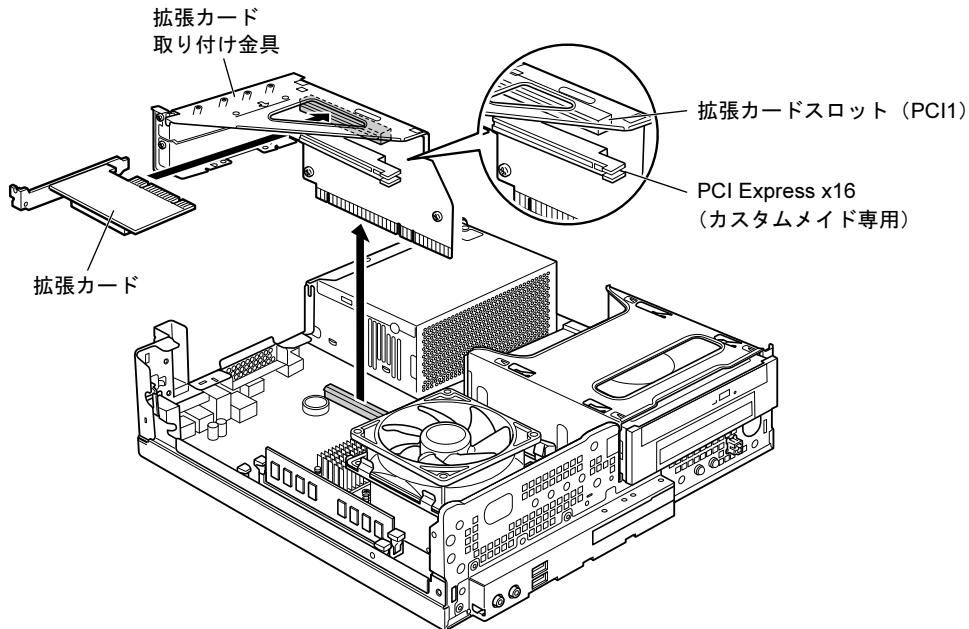
- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となることがあります。

拡張カードの取り付け場所

拡張カードは、ワークステーション本体内部の拡張カード取り付け金具にある、拡張カードスロットに取り付けます。

重要

- ▶ カスタムメイドで1394カードまたはQuadro FX1800を選択した場合、拡張カードは取り付けができません。



(イラストは、カスタムメイドでCD/DVD ドライブを選択した場合です)

取り付けられる拡張カード

本ワークステーションには、PCI規格の最大長176mmの拡張カード（ハーフサイズ）を取り付けられます。

本ワークステーションに取り付けられる拡張カードについて、詳しくは富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syukou/>)をご覧ください。

POINT

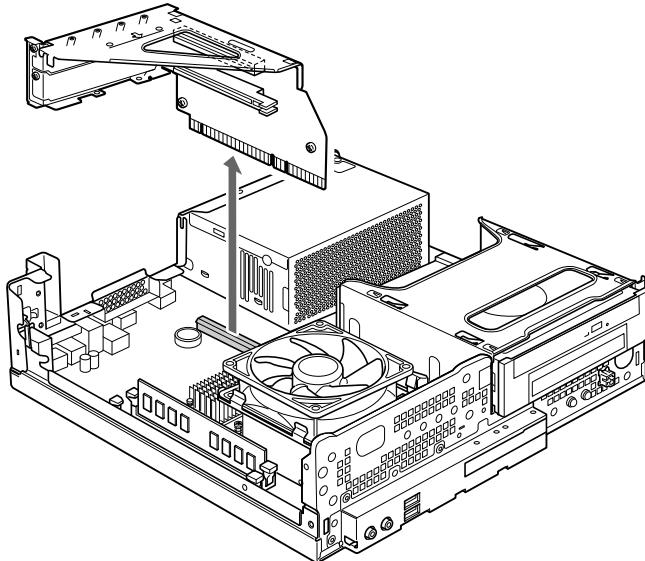
- ▶ カスタムメイドで拡張カードを選択した場合には、あらかじめ拡張カードが接続されています。
- ▶ 増設する PCI カードに起動 ROM (BIOS) が搭載されている場合、その種類や増設数により、システム起動時に「Error loading operating system」などのエラーメッセージが表示され、起動できない場合があります。この場合は、増設する PCI カードの BIOS を無効にすることにより、現象を回避できることがあります。増設する PCI カードの BIOS を無効にする方法は、PCI カードのマニュアルをご覧ください。

拡張カードを取り付ける

POINT

- ▶ この手順で説明しているイラストは、カスタムメイドでCD/DVD ドライブを選択した場合です。お使いの機種にあわせて読み替えてください。

- 1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 本体カバーを取り外します (→P.82)。
- 3 拡張カード取り付け金具を取り外します。
拡張カード取り付け金具は真上に引き上げてください。
なお、すでに拡張カードが取り付けられている場合は、接続されているケーブルを抜いてから、拡張カードを取り外してください。

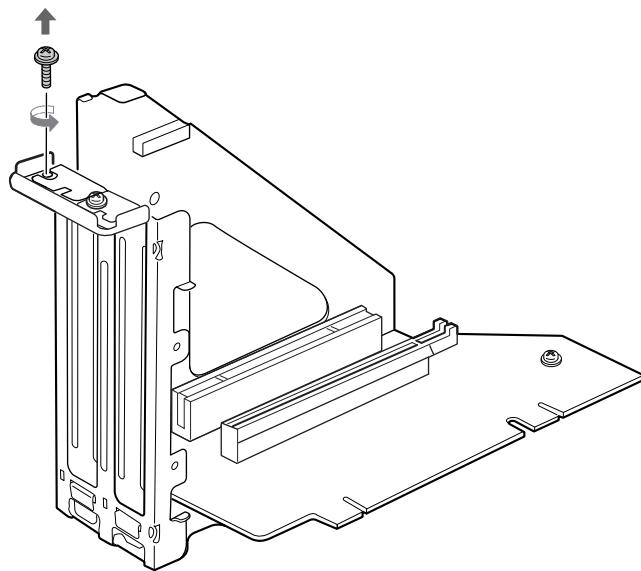


(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

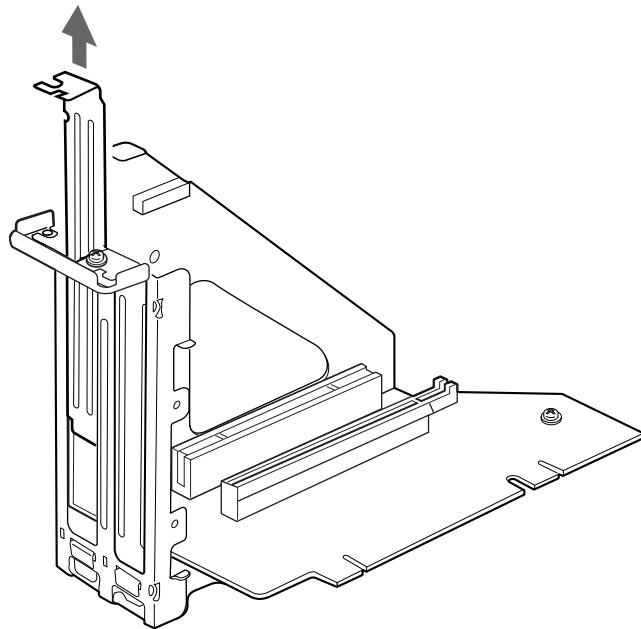
重要

- ▶ カスタムメイドでHDD変更 (SATA-RAID) を選択した場合
- ・ RAID カードに接続されている SATA ケーブルを取り外した場合は、拡張カード取り付け金具を戻すときに、ケーブルのラベルを確認し元通り接続してください。SATA ケーブルを外したまま電源を入れた場合は、正しくケーブルを接続し直した後にリビルドを実行する必要があります。リビルドについては、『SATA-RAIDをお使いの方へ』をご覧ください。

4 スロットカバーを固定しているネジを取り外します。



5 スロットカバーを取り外します。

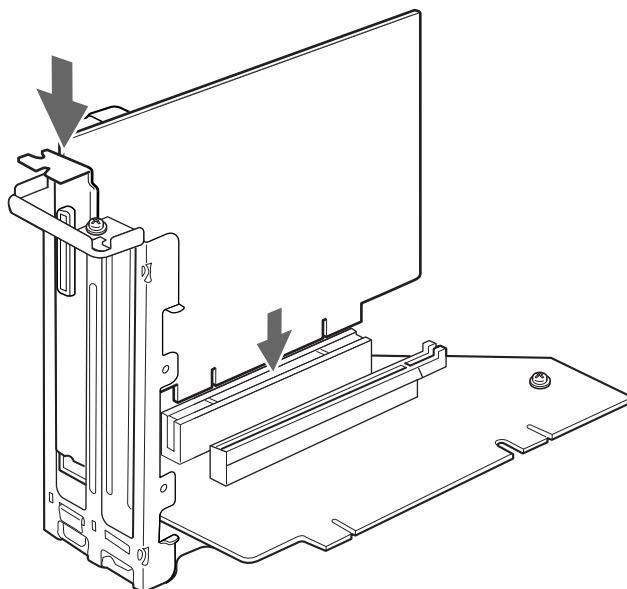


 **POINT**

- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。
拡張カードを取り外してお使いになる場合は、本ワークステーション内部にゴミが入らないように取り付けてください。

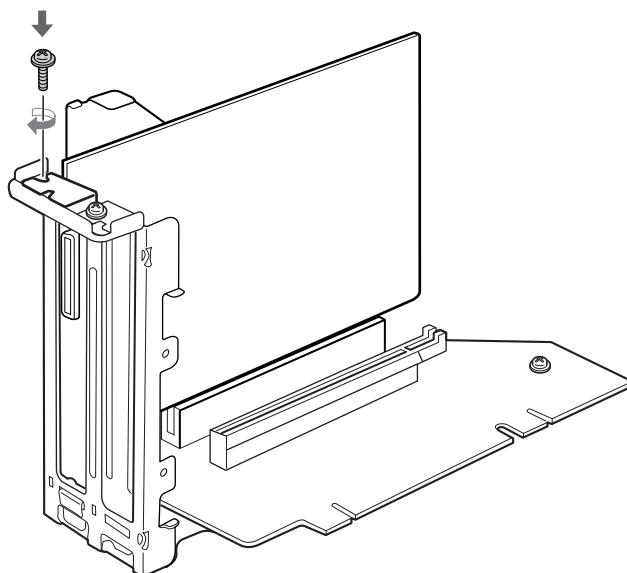
6 拡張カードをコネクタに差し込みます。

拡張カードをコネクタにしっかりと差し込んでください。



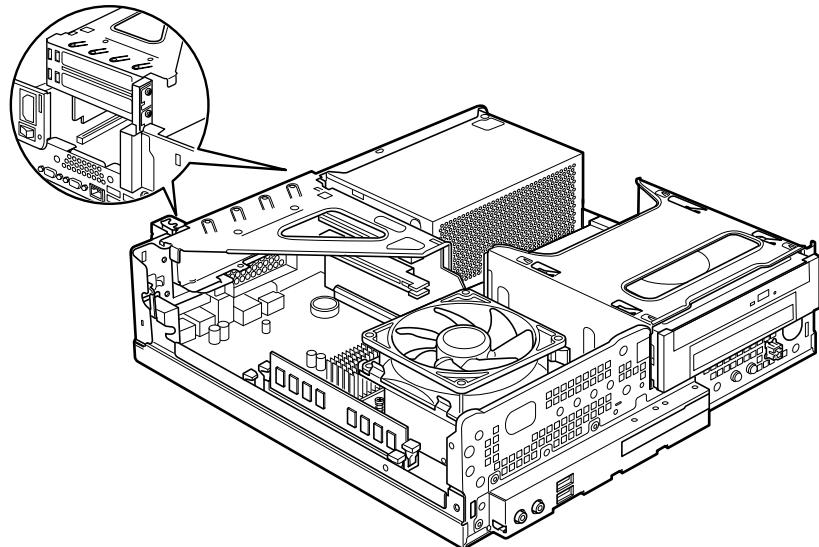
3

7 手順4で外したネジで、拡張カードを固定します。



8 拡張カード取り付け金具を取り付けます。

ツメがきちんと背面にかかるように、垂直に取り付けてください。



9 本体力バーを取り付けます。

- 10 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。**
デバイスドライバーとリソースが自動的に設定され、拡張カードが使えるようになります。

 **POINT**

- ▶ 拡張カードを取り外す場合は、取り付ける手順をご覧になり、手順4～7のスロットカバーと拡張カードを読み替えてください。
- ▶ 拡張カードの取り付け後に画面にメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ 拡張カードを使用する前に、デバイスマネージャーに正しく登録されていることを確認してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

第4章

セキュリティ

本ワークステーションで使用できるセキュリティ機能について紹介します。日ごろからセキュリティ向上を心がけてください。

1 セキュリティの重要性	98
2 コンピューターウイルス	99
3 Windowsやソフトウェアを最新の状態にする	102
4 ネットワーク接続時のセキュリティ	106
5 不正使用からのセキュリティ	108
6 ワークステーションの盗難防止	112
7 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意	114
8 データのバックアップ	118

1 セキュリティの重要性

トラブルを未然に防いだり、トラブルに遭遇した場合の被害を最小に食い止めたりするため、常に最新のセキュリティ対策をとることが重要です。

コンピューターには重要なデータや個人情報などが保存されています。また重要な情報やデータを通信することもあります。

もし、それらの大切な情報が漏えいしたり、システムやデータが破壊されたり、コンピューター本体が盗難にあったりするなどのトラブルが発生したら、大きな損害になります。自分自身のみならず、関係者に迷惑をかけてしまう場合もあります。

そのような状況に陥る危険性を軽減するために、コンピューターにできる限りのセキュリティ対策を施すことをお勧めします。

この章では、それぞれの脅威に対して有効な本ワークステーションのセキュリティ機能やお客様の心構えなどを説明しています。必要に応じてインストールや設定を行うようにしてください。

重要

- ▶ 弊社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に關しても、一切の責任を負いかねます。
セキュリティ対策は、本ワークステーションを使用している方が責任をもって行うようにしてください。
- ▶ セキュリティは一度対策をとれば安心できるものではありません。コンピューターを使用している方が日ごろから関心をもって、最新の状態にしておくことが必要です。

2 コンピューターウィルス

コンピューターウィルスとは

コンピューターウィルスとは、トラブルを引き起こすことを目的として作られたプログラムのことです。Webページの閲覧、インターネットからダウンロードしたファイルやEメール、CD/DVDやUSBメモリのような媒体などを通じてコンピューターに侵入（感染）します。

コンピューターがコンピューターウィルスに感染すると、次のようなことが発生し、重大な被害を受けることがあります。

- 異常なメッセージが表示される
- 画面の表示がおかしくなる
- システムやデータが破壊される
- 情報漏えいが引き起こされる

また、使用者が気が付かないうちに感染していることがほとんどです。感染したコンピューターをそのまま使用した場合、他のコンピューターにも感染が広がってしまい、被害が拡大するといった危険があります。

コンピューターウィルスの種類は非常に多く、日々新種が発見されています。不審なプログラムを実行しない、怪しいサイトには接続しない、情報の漏えいなどを引き起こすソフトウェアをインストールしない、などを徹底することも重要です。

◀ 重要

- ▶ コンピューターウィルスに感染したことにより本ワークステーションの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になることがあります。ウイルスの感染を防ぐために、「Norton AntiVirus」（→P.100）や「Windows Update」（→P.102）で対策をとってください。

コンピューターウィルス対策

コンピューターウィルスに感染するリスクは、対策用のソフトウェアを使用することにより低減できます。このようなソフトウェアを「ウイルス対策ソフト」となどと呼びます。

ウイルス対策ソフトは、既知ウイルスのプログラムパターンを集めた定義ファイルと、侵入してきたプログラムのパターンを比較して、ウイルスを検出します。そのため、常に最新のウイルスパターンを取得しておくことが必要です。

◀ 重要

- ▶ インターネットに接続しただけで感染するウイルスなどもあります。
「ファイアウォール」（→P.106）を有効にすることをお勧めします。
ご購入時は「Windows ファイアウォール」が有効になっています。
「Windows ファイアウォール」についてはWindowsのヘルプをご覧ください。

■ Norton AntiVirus

本ワークステーションには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「Norton AntiVirus」が添付されています。

添付の「Norton AntiVirus」は初めて起動した日から90日間は、無料でコンピューターを保護するための「更新サービス」を利用できます。期限が過ぎた後も引き続きお使いになる場合は、有料で更新サービスの延長キーを購入してください。

更新サービスの延長について、詳しくは、株式会社シマンテックのシマンテックストア (<http://www.symantecstore.jp/users.asp>) をご覧ください。

□ 注意事項

- 「Norton AntiVirus」を起動していると、その他のソフトウェアが正常にインストールされなかつたり、ご使用のソフトウェアによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は「Norton AntiVirus」を一時的に使用不可にしてください。ただしインストールやソフトウェアの使用が終了した後は、使用可に戻すのを忘れないでください。手順については「Norton AntiVirus」のヘルプをご覧ください。
- 「Norton AntiVirus」でコンピューターウイルス検査を実行しているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のCD/DVDなどの媒体を取り出したり、USBメモリなどを取り外したりしないでください。
- 「Norton AntiVirus」は、コンピューターウイルスの情報を記載したデータファイルと、検査プログラム（スキャエンエンジン）を使用しています。LiveUpdateを利用して定期的に更新してください。
- Eメールに添付されたファイルや入手したCD/DVDやUSBメモリなどの媒体は、コンピューターウイルスに感染していないかをチェックしてからお使いください。また、コンピューターのハードディスクは定期的にウイルスチェックを実行してください。
- 「Norton AntiVirus」をインストールすると、次のようにになりますが、「Norton AntiVirus」に同等の機能が含まれているため問題ありません。
 - ・画面右下の通知領域からアクションセンターまたはセキュリティセンターの表示がなくなり、「Norton AntiVirus」が表示されます。
 - ・Windows 7の場合、「Windows Defender」が無効になります。

□ インストール方法

インストールの手順については、「ソフトウェア」—「Norton AntiVirus」のインストール（→P.128）をご覧ください。

□ ウイルス定義ファイルを更新する（LiveUpdate）

「Norton AntiVirus」のウイルス定義ファイルを最新版に更新します。

POINT

- ▶ 「LiveUpdate」はシステム管理者の指示に従って実行してください。
- ▶ 「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから実行してください。

● 手動で更新する

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「LiveUpdate」の順にクリックします。

更新ファイルがあるかどうか検索され、ダウンロードとインストールが始まります。

更新ファイルがない場合は、「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。

2. 「OK」をクリックします。

更新を有効にするために再起動が必要な場合は、Windowsを再起動してください。

● 自動で更新する

「自動LiveUpdate」を「オン」に設定しておくと、インターネットに接続したときに最新のウィルス定義ファイルに自動更新することができます。

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus」をクリックします。

「Norton AntiVirus」ウィンドウが表示されます。

2. 「コンピュータ」にある「設定」をクリックします。

3. 「更新」の「自動LiveUpdate」の「オン／オフ」のスイッチをクリックし、「オン」にします。
「更新」はウィンドウ内の下のほうにあるので、表示するにはウィンドウのスクロールが必要な場合があります。

4. 「OK」をクリックします。

5. 「Norton AntiVirus」ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

コンピューターウィルスを発見したときは

コンピューターウィルスを発見した場合は、二次感染を防ぐため、次の手順に従って作業してください。

1 ネットワークから切り離します。

有線LANのケーブルを抜く、無線LANのスイッチをオフにするなどして、すぐにネットワークから切り離してください。

2 ウイルスチェックをします。

感染していた場合は、ウイルスの駆除を確認するまで、感染したコンピューターをお使いにならないでください。

コンピューターウィルスの発見、駆除などをした場合には被害届を提出してください。

コンピューターウィルスの被害状況に対する届け出制度は、「コンピューターウィルス対策基準」(平成12年12月28日付通商産業省告示第952号)の規定に基づいています。コンピューターウィルスを発見した場合、コンピューターウィルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)セキュリティセンターに届け出ることとされています。詳しくは、ホームページ(<http://www.ipa.go.jp/security/>)をご覧ください。

3 Windows やソフトウェアを最新の状態にする

Windows やソフトウェアに脆弱性と呼ばれる弱点が発見されることがあります。これらの脆弱性が悪用されると、コンピューターウィルスなどの悪意あるプログラムに侵入されたり、トラブルが引き起こされたりする危険性があります。

その対策として、システムやソフトウェアを提供している各社が、修正プログラムを無料で配布しています。新しい修正プログラムが発表されたときには、内容を確認のうえ適用してください。

ここでは、次の機能について説明しています。

- ・ Windows Update
- ・ アクションセンター（Windows 7の場合）
- ・ セキュリティセンター（Windows XPの場合）
- ・ UpdateAdvisor（本体装置）

Windows Update

Windows Update（ウィンドウズアップデート）とは、マイクロソフト社が提供するシステムサポート機能です。Windows を最新の状態に更新します。脆弱性を修正するセキュリティ機能更新、バグ修正などの対策プログラムが配布されます。

「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。あらかじめ必要な設定をしてから、実行してください。

POINT

- ▶ 「Windows Update」で提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作、および実施後のコンピューターの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。
- ▶ 「Windows Update」のバージョンがアップされている場合は、「Windows Update」のホームページの案内に従って、実行してください。
- ▶ 「Windows Update」ウインドウの「他の製品の更新プログラムを取得します」をクリックすると、「Microsoft Update」を利用できるようになります。「Microsoft Update」を利用すると、Windows や Office 製品などのマイクロソフト社が提供するソフトウェアの更新プログラムを一度入手することができます。詳しくは、「Microsoft Update」のホームページをご覧ください。

■ Windows 7の場合

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

2 「更新プログラムの確認」をクリックします。

コンピューターの状態を診断し、更新情報を取得します。

この後は、表示される画面に従って操作してください。

■ Windows XPの場合

POINT

- ▶ 「優先度の高い更新プログラム」は、適用することをお勧めします。
- ▶ ご購入時の設定では、インターネットに接続しているときに、「優先度の高い更新プログラム」を自動更新するように設定されています。必要に応じて設定を変更してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

2 「カスタム」をクリックします。

コンピューターの状態を診断し、更新情報を取得します。

この後は、表示される画面に従って操作してください。

アクションセンター（Windows 7の場合）

アクションセンターでは、Windowsのセキュリティやメンテナンスの状態を監視したり、関連する機能や設定画面を呼び出したりすることができます。

何か問題があるときには、画面右下の通知領域にあるアイコンの色が変わり、注意を喚起するメッセージを表示してお知らせします。常に最新の対策をとるように心がけてください。

■ セキュリティの設定の管理

セキュリティの設定の管理については次の機能があります。

□ Windows ファイアウォール

ネットワークを経由して、ユーザーの許可なくコンピューターにアクセスしようとする相手からコンピューターを保護するための機能です。外部のネットワークと内部のネットワークの間にファイアウォールと呼ばれる壁を作り、外部からのアクセスをコントロールすることができます。「Windows ファイアウォール」については、Windowsのヘルプをご覧ください。

□ 「Windows Defender」の更新

お使いのコンピューター内に侵入している、既知のスパイウェアなど悪意のあるプログラムを検出して、削除するソフトウェアです。ネットワークを通じて自動的に定義ファイルを更新します。また、悪意のあるプログラムが侵入することを防ぐこともできます。

□ インターネットオプション

「Internet Explorer」のセキュリティ設定を変更できます。ホームページ閲覧中に突然表示される広告（ポップアップウィンドウ）を遮断することもできます。

□ ユーザーアカウント制御

「ユーザー アカウント制御（UAC）」の設定を変更できます。

「ユーザー アカウント制御（UAC）」については、「ユーザー アカウント制御（UAC）（Windows 7の場合）」（→P.109）をご覧ください。

■メンテナンスの設定の管理

□ Windowsバックアップ

- ユーザーが作成したデータファイルのコピーを作成できます。
- コンピューターが動作しなくなったときにコンピューターの内容を復元するためのシステムイメージを作成できます。

□ 問題レポートの解決策を確認

問題レポートをマイクロソフト社に送信すると、解決策が見つかったときに通知を受け取ることができます。解決策の確認方法を選択します。

□ トラブルシューティング

日常的なメンテナンスの問題を確認し、解決に役立つメッセージを表示します。

□ 「Windows Update」の自動更新

インターネット利用中に「Windows Update」の更新プログラムがあるかどうかを定期的に確認し、お使いのコンピューターに自動的にインストールします。

セキュリティセンター（Windows XPの場合）

セキュリティセンターでは、Windowsのセキュリティの状態を監視したり、関連する機能や設定画面を呼び出したりすることができます。

何か問題があるときには、画面右下の通知領域にあるアイコンの色が変わり、注意を喚起するメッセージを表示してお知らせします。常に最新の対策をとるように心がけてください。

■セキュリティの設定の管理

セキュリティの設定の管理については次の機能があります。

□ インターネットオプション

「Internet Explorer」のセキュリティ設定を変更できます。ホームページ閲覧中に突然表示される広告（ポップアップウィンドウ）を遮断することもできます。

□ Windowsファイアウォール

ネットワークを経由して、ユーザーの許可なくコンピューターにアクセスしようとする相手からコンピューターを保護するための機能です。外部のネットワークと内部のネットワークの間にファイアウォールと呼ばれる壁を作り、外部からのアクセスをコントロールすることができます。「Windowsファイアウォール」については、Windowsのヘルプをご覧ください。

□ 「Windows Update」の自動更新

インターネット利用中に「Windows Update」の「優先度の高い更新プログラム」があるかどうかを定期的に確認し、お使いのコンピューターに自動的にインストールします。

UpdateAdvisor（本体装置）

お使いのコンピューターのドライバーや添付ソフトウェアの最新版が、弊社アップデートサイトに公開されているか調査し、適用することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「UpdateAdvisor」→「UpdateAdvisor（本体装置）」の順にクリックします。
「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。
「UpdateAdvisor（本体装置） 注意事項」の画面が表示されます。

POINT

- ▶ 注意事項が書かれた画面が表示された場合は、内容を確認して、「OK」をクリックしてください。

この後は、表示された画面に従って操作してください。

4 ネットワーク接続時のセキュリティ

ここでは、ネットワークに接続しているコンピューターを守るためにセキュリティ機能や対策について説明しています。

- ・不正アクセスによる被害の例
- ・ファイアウォール
- ・ネットワーク使用時のデータの暗号化
- ・フィッシング詐欺対策

不正アクセスによる被害の例

不正アクセスとは、あるコンピューターへの正規のアクセス権をもたない人が、ネットワークを通じて、不正な手段でコンピューターなどを使用することです。セキュリティホールの悪用や、コンピューターウィルスによって引き起こされます。

不正アクセスの被害については次のようなものがあります。

- 個人情報や重要データが盗まれる
顧客情報や社外秘重要データなどを、外部に持ち出されてしまいます。特に個人情報の漏えいは社会的に大きな問題になっています。
- IDやパスワードを盗まれ使用される
不正アクセス者は盗んだ他人のIDやパスワードで本人になります。コンピューターが勝手に操作されたり、データを盗み見たりされてしまいます。ホームページやデータベースなどのデータを改ざんされたり、破壊されたりする場合もあります。
- 別のコンピューターを攻撃する踏み台にされる
不正にアクセスしたコンピューターに、他のコンピューターなどを攻撃するプログラムを実行させます。コンピューターの正規の利用者が、気づかないうちに加害者となってしまうこともあります。最悪の場合、損害賠償を請求された例もあるので注意が必要です。

このような被害にあわないようするために、常に最新のセキュリティ対策をとりましょう。

※ 重要

- ▶ 不正アクセスされていることが判明したコンピューターは、有線 LAN のケーブルを抜く、無線 LAN のスイッチをオフにするなどして、すぐにネットワークから切り離してください。被害を拡大させないためにも素早い対応が必要です。

ファイアウォール

ファイアウォールとは外部のネットワークと内部のネットワークの間の壁です。外部からのアクセスをコントロールすることができます。

Windowsに標準搭載されている「Windowsファイアウォール」については、Windowsのヘルプをご覧ください。

ネットワーク使用時のデータの暗号化

ネットワーク経由でデータの送受信などを行う場合、保護されていないデータはネットワーク上で情報の漏えいを招く危険性があります。重要なデータは、あらかじめ暗号化などのセキュリティ保護をすることが必要です。

■ IPSec

「IPSec (Internet Protocol Security)」とは、データを暗号化するための機能の1つです。

TCP/IP プロトコルで通信をしている場合に「IPSec」を有効にすると、ソフトウェアに依存せずにデータを暗号化させてネットワークを経由させることができます。

詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

フィッシング詐欺対策

フィッシング詐欺とは、本物そっくりに作られた偽のホームページや偽のメールなどで利用者をだまし、IDやパスワード、個人情報などを盗み取る、オンライン上での詐欺行為のことです。フィッシング詐欺にひつかからためには、次のような心構えが重要です。

- ウィルスやスパイウェアをウイルス対策ソフトで常に駆除、侵入を防止する
- 送られてきたメールに記入されたリンクを直接クリックしない
- 個人情報など重要なデータを必要にWebページ上で入力したり、メールで送信したりしない
- サーバー証明書などで本物のサイトかどうかチェックをする
- 情報を送信する場合はSSL暗号化通信であることを確認する

5 不正使用からのセキュリティ

コンピューターを使用する権限のない人が不正にコンピューターを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からコンピューターを守ることが必要になってきています。

ここでは、本ワークステーションで設定できるパスワードや機能などについて説明しています。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、コンピューターの安全性も高まります。

- ・ BIOSのパスワード
- ・ Windowsの管理者権限とユーザー アカウント
- ・ Windowsのパスワード
- ・ アクセス権と暗号化
- ・ スマートカード
- ・ セキュリティチップ
- ・ Portshutter
- ・ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

◀ 重要

- ▶ コンピューターの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどのセキュリティを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ▶ パスワードを何かに書き留めるときは、第三者に知られないように安全な場所に保管してください。
また、数字だけでなく英字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

BIOSのパスワード

コンピューターの起動時のパスワードを設定できます。BIOSのパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、コンピューターの設定が変更できなくなるなどの制限がつきます。

また、コンピューターのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておくと、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。

詳しくは、「BIOS」－「BIOSのパスワード機能を使う」(→P.154)をご覧ください。

Windowsの管理者権限とユーザーアカウント

Windowsでは、管理者権限をもったユーザーアカウントを作成できます。管理者は、他のユーザーアカウントのセットアップや管理などを行うことができます。コンピューターを使用するユーザーアカウントと管理者権限をもったユーザーアカウントを分ければ、ファイルのアクセス権を管理したり、不正なプログラムのインストールや起動を制限したりできるため、コンピューターの安全性も高まります。

詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

■ ユーザーアカウント制御（UAC）（Windows 7の場合）

「ユーザーアカウント制御（UAC）」とは、許可なくコンピューターの設定が変更されるのを防ぐセキュリティ機能です。

「ユーザーアカウント制御」が有効になっていると、コンピューターの動作に影響する操作や、他のユーザーに影響する設定変更などが実行される前に、許可やパスワードを求めるメッセージが表示されます。この機能により、悪意のあるソフトウェアやスパイウェアなどがインストールされたり、複数のユーザーアカウントが設定されたりしているときに、管理者の許可なく設定が変更されるのを防止して、コンピューターを保護します。

ご購入時は、「ユーザーアカウント制御」が有効になっています。

詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

4

Windowsのパスワード

Windowsの起動時や省電力（スリープ、スタンバイ、休止状態）からのレジューム（復帰）、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで1台のコンピューターを使用する場合、使用するユーザーごとにユーザー名とパスワードを設定できます。

パスワードの設定方法については、Windowsのヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windowsでは、ファイルシステムとしてNTFSを使用しています。NTFSでは、フォルダーやファイルにアクセス権を設定できます。また、フォルダーやファイルを暗号化できます。

● フォルダーやファイルへのアクセス権の設定

ユーザーまたはグループごとに権限を設定できるため、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。

● フォルダーやファイルの暗号化

暗号化しておけば、不正アクセスされたり、不慮の事故や盗難などでハードディスクを紛失したりしても、データの内容を簡単には読み出しそうになります。

詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

スマートカード

対象 スマートカードリーダ／ライタ搭載機種

Windowsの起動時、ソフトウェアのログオン時にスマートカード認証によるセキュリティを設定できます。スマートカードにはIDやパスワードなどのセキュリティ情報を格納します。1枚のスマートカードに管理者用とユーザー用のパスワードを、1つずつ設定できます。

ワークステーションを使用する場合は、スマートカードリーダ／ライタにスマートカードをセットし、PIN（個人認証番号）を入力します。スマートカードをセットしないとセキュリティが解除できないため、従来のパスワード認証よりも安全に使用できます。

詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

重要

- ▶ スマートカードをセットするときは、必ずカードの挿入口とスマートカードの向きを確認し、ゆっくり確実にセットしてください。挿入口からはずれた状態でスマートカードを押し込んだり、スマートカードを勢いよく挿入したりすると、スマートカードやスマートカードリーダ／ライタ、およびワークステーション本体を破損するおそれがあります。

セキュリティチップ

対象 セキュリティチップ搭載機種

セキュリティチップは、Windowsログオンのパスワードやファイルを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをハードディスクに残さないため、仮にハードディスク自体を盗まれたとしても暗号を解析できないので情報が漏えいする心配がありません。しかも格納したデータには専用のインターフェースを通してしかアクセスできないため、セキュリティチップを使用することで、ソフトウェアのみで実現されたセキュリティ環境に比べてより強固なセキュリティを提供します。

詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

Portshutter

重要

- ▶ 無効に設定したポートは、機器を接続してもお使いになれません。

「Portshutter」を使うことにより、USBポートやCD/DVDドライブなどの接続ポートの使用を制限できます。コンピューターからの情報漏えいやコンピューターへの不正なプログラムの導入を防止することができます。USBポートを無効にする場合は、USB機器ごとに有効・無効の設定が可能です。

詳しくは、「トラブル解決ナビ＆ドライバーズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、不正なメモリ領域を使用して悪意のあるプログラムを実行可能にするバッファー・オーバーフロー脆弱性を防止する機能です。詳しくは、「仕様一覧／技術情報」－「CPU」（→P.230）をご覧ください。

6 ワークステーションの盗難防止

ワークステーション本体を持ち出しできないようにすることで、盗難や紛失によりデータを盗まれるなどの危険から保護します。

本ワークステーションには、次の機能があります。

- ・ 盗難防止用ロック取り付け穴
- ・ セキュリティ施錠金具

盗難防止用ロック取り付け穴の使用方法

ワークステーション本体の盗難防止用ロック取り付け穴に、盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。ケーブルの端を机や柱などに取り付けることで、ワークステーション本体の盗難の危険性が減少します。

盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「各部名称」—「各部の名称と働き」(→P.12)をご覧ください。

POINT

- ▶ 弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syuskou/>)をご覧ください。

セキュリティ施錠金具の使用方法

対象 J380

1 本体カバーがきちんと取り付けられていることを確認します。

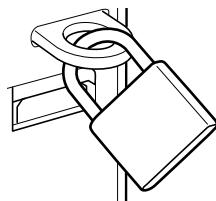
本体カバーの取り扱い方は、「周辺機器の設置／設定／増設」(→P.79) の「本体カバーの取り外し方」をご覧ください。

POINT

- ▶ セキュリティ施錠金具の穴径は、 $\phi 8\text{mm}$ です。

2 セキュリティ施錠金具に、市販の鍵を取り付けます。

セキュリティ施錠金具の位置は、「各部名称」—「ワークステーション本体内部」(→P.18) をご覧ください。



(イラストは状況により異なります)

POINT

- ▶ 市販の鍵を紛失した場合は、ご購入元にご連絡ください。

7 ワークステーション本体の廃棄・譲渡時の注意

ここでは、ワークステーションを廃棄・譲渡するときにデータが流出するのを防ぐための対策について説明しています。

ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関する注意

最近、ワークステーションは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのワークステーションに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、ワークステーションを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ごみ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ごみ箱を空にする」を使って消す
- ソフトウェアでフォーマット（初期化）する
- ハードディスクをご購入時の状態に戻す

などの作業をするとと思いますが、これらのことをして、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

ワークステーションの廃棄・譲渡などを行うときに、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（Windows、ソフトウェアなど）を削除することなくワークステーションを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、充分な確認を行う必要があります。

ハードディスクデータ消去

本ワークステーションには、ワークステーションの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の1つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除やフォーマットと違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される危険性があります。あらかじめご了承ください。

■ 注意事項

- ワークステーション本体にUSBメモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなどを接続している場合は、「ハードディスクデータ消去」を実行する前に必ず取り外してください。また、他の周辺機器を接続している場合も、必ず取り外してください。
- データ消去を実行するとハードディスクのリカバリ領域も消去されます。必要があれば「ハードディスクデータ消去」の前にリカバリディスクを作成してください。作成方法は『取扱説明書』をご覧ください。
- 「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」を起動してから、72時間経過すると、本ワークステーションが自動的に再起動されます。そのため、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してから「ハードディスクデータ消去」を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外してください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。
- データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中に「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」を取り出さないでください。処理を継続できなくなる場合があります。
- CD/DVDドライブが搭載されていない機種をお使いの場合は、ポータブルCD/DVDドライブを接続してください。
ポータブルCD/DVDドライブをお使いになる場合は、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/product/syskou/>)をご覧ください。

■ データ消去方法

「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」を用意してください。

- 1 「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 本ワークステーションを再起動します。
- 3 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
起動メニューが表示されます。表示されない場合は、すぐに【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本ワークステーションを再起動してください。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、本ワークステーションの再起動後に【F12】キーを数回押してください。
- ▶ 「起動メニュー」が表示されない場合は、本ワークステーションを再起動してもう一度操作してください。

- 4 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、CD/DVD ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
「トラブル解決ナビ」 ウィンドウまたは「使用許諾」 ウィンドウが表示されます。
- 5 「ユーティリティ」タブをクリックし、「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。
「ハードディスクデータ消去」 ウィンドウが表示されます。
- 6 注意事項をよく読み、「同意します」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。
「データを消去するハードディスクを選択してください。」と表示されます。
- 7 データを消去するハードディスクが選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
 - ハードディスクが1つ搭載されている場合
「第1ハードディスク」が表示されていることを確認します。
 - ハードディスクが2つ以上搭載されている場合
 - Windowsがインストールされているハードディスクのみを消去したい場合
「第1ハードディスク」をクリックして選択します。
 - すべてのハードディスクを消去したい場合
「全てのハードディスク」をクリックして選択します。
「ハードディスクを消去する方式を選択してください。」と表示されます。
- 8 消去する方式を選択し、「次へ」をクリックします。
「以下の説明をお読みになり、エラー発生時の処理を選択してください。」と表示されます。
- 9 エラー発生時の処理方法を選択し、「次へ」をクリックします。
「以下の条件で、データの消去を開始します。よろしければ〔開始〕ボタンをクリックしてください。」と表示されます。
- 10 「開始」をクリックします。
「ハードディスクデータ消去を実行します。よろしいですか?」と表示されます。
- 11 「OK」をクリックします。
しばらくすると、「消去が完了しました。」と表示されます。
- 12 「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」を取り出します。
- 13 電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ります。

ハードディスクのデータ消去サービス

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	専用ソフトウェアを使って、ハードディスクに対して2回上書き（ランダムデータ+0データ）することにより残存するデータを完全に消去します。DoDやNSAなど海外の各種消去規格にも対応可能です。
ハード消去	消磁装置を使用してハードディスクを磁気的に破壊します。 (最大磁力：1.3テスラ)

作業実施日、消去済み機器一覧、並びに消去方法を記載した消去作業完了報告書を納品物として提出します。

詳しくは、「データ消去サービス」(http://fenics.fujitsu.com/outsourcingservice/lcm/h_elimination/)をご覧ください。

8 データのバックアップ

大切なデータは予備を保存しておくことをお勧めします。

バックアップの必要性

次のような状態になると、保存したデータが失われ、回復することはできません。

- ワークステーション本体やハードディスクの盗難、紛失
- ハードディスクの破損
- コンピューターウィルス感染によるファイルやコンピューターの破損
- ファイルの破損や誤消去
- リカバリ実行後

トラブル防止のための対策は「これで完全」というものではなく、いつこのような状態になるかはわかりません。被害を最小限にとどめるためにも、日ごろから定期的にバックアップをとる必要があります。

バックアップ方法

必要なデータはCDやDVDなどの媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

■ Easy Backup

本ワークステーションには、簡単な操作でまとめてバックアップできるソフトウェア「Easy Backup」が添付されています。必要に応じてお使いください。「Easy Backup」のインストール方法については、「ソフトウェア」－「インストール」(→P.127)をご覧ください。

第5章

ソフトウェア

本ワークステーションにプレインストール（添付）されているソフトウェアの概要や、インストール、アンインストール方法を説明しています。

1 ソフトウェアの紹介	120
2 インストール	127
3 アンインストール	130

1 ソフトウェアの紹介

ここでは、本ワークステーションにプレインストールまたは添付されているソフトウェアの概要と、ご購入時の提供形態を説明しています。

ソフトウェアは「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」などに格納されています。

プレインストールされているソフトウェアも、削除してしまったり、データやファイルが破損したりした場合に備えて再インストールできるように格納されています。どのディスクに格納されているかは次ページ以降の一覧表でご確認ください。

その他の情報については次をご覧ください。

- ソフトウェアの使い方

ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

- インストール方法

「インストール」(→P.127)をご覧ください。

- カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェア

選択したカスタムメイドの内容によっては、この他にソフトウェアが提供されることもあります。カスタムメイドのソフトウェアおよび一部のソフトウェアについては、機能別のマニュアルをご覧ください。

セキュリティ関連のソフトウェア

「トラブル解決ナビ& ドライバーズディスク」に格納されています。「i-フィルター」と「Norton AntiVirus」はハードディスクに格納されています。

ご購入のOSの欄をご覧ください。

Win7 32 : Windows 7 Professional (32ビット版)

Win7 64 : Windows 7 Professional (64ビット版)

XP 32 : Windows XP Professional

XP 64 : Windows XP Professional x64 Edition (W480、W380のみ)

「△」=添付のみ、「◇」=ハードディスク格納、「-」=サポートしないOS

名称	概要	Win7 32	Win7 64	XP 32	XP 64
i-フィルター	インターネット上の有害なコンテンツをブロックするソフトウェアです。有害サイトへアクセスしようとすると、自動的に表示できない主旨のメッセージ画面が表示されます。 ・「i-フィルター」の利用期間は、初回起動時から90日間です。利用期間が経過すると、フィルター機能は利用できなくなります。継続して利用する場合は、オンラインにてユーザー登録、シリアルIDの購入が必要です。	◇	◇	◇	-
Norton AntiVirus	コンピューターウイルスを検出・駆除します。 詳しくは、「セキュリティ」-「コンピューターウイルス対策」(→P.99)をご覧ください。 ユーザー登録をすると「シマンテックテクニカルサポートセンター」をご利用になれます。 詳しくは、「トラブルシューティング」-「お問い合わせ先」(→P.211)をご覧ください。	◇	◇	◇	-
Portshutter	USBポートやCD/DVDドライブなどの接続ポートを無効にします。不要な機器を接続させないにより、情報漏えいを防止できます。	△	-	△	-
SMARTACCESS/ Basic	対象 セキュリティチップ搭載機種、スマートカードリーダ／ライタ搭載機種 セキュリティチップ、スマートカードを使用するためのソフトウェアです。	△	-	△	-
ハードディスク データ消去	ハードディスク内のデータを消去します。 詳しくは、「セキュリティ」-「ハードディスクデータ消去」(→P.115)をご覧ください。	△	△	△	△

サポート関連のソフトウェア

「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」に格納されています。
ご購入のOSの欄をご覧ください。

Win7 32 : Windows 7 Professional (32ビット版)

Win7 64 : Windows 7 Professional (64ビット版)

XP 32 : Windows XP Professional

XP 64 : Windows XP Professional x64 Edition (W480、W380のみ)

「○」=ブレインストール、「△」=添付のみ、「-」=サポートしないOS

名称	概要	Win7 32	Win7 64	XP 32	XP 64
PC乗換ガイド	今までお使いになっていたコンピューターから、現在お使いのコンピューターへ必要なデータを移行することができます。 ・「PC乗換ガイド」では移行できないデータもあります。	△	-	△	-
T-SATA2R Manager	対象 HDD変更 (SATA-RAID) を選択した機種 Windows上でディスクアレイの状態監視やメンテナンスなどを行うためのRAID管理ユーティリティです。 詳しくは、『SATA-RAIDをお使いの方へ』をご覧ください。	○	○	○	-
UpdateAdvisor (本体装置)	お使いのコンピューターのドライバー、添付ソフトウェアの最新版が、弊社アップデートサイトに公開されているかを調査し、適用することができます。 また、「UpdateAdvisor (本体装置) 情報収集」を利用してお使いのコンピューターの動作環境情報を収集できます。 ・「UpdateAdvisor (本体装置) 情報収集」は、弊社サポートより依頼があった場合にのみお使いください。	○	○	○	○

ユーティリティ

「トラブル解決ナビ& ドライバーズディスク」に格納されています。
ご購入のOSの欄をご覧ください。

Win7 32 : Windows 7 Professional (32ビット版)

Win7 64 : Windows 7 Professional (64ビット版)

XP 32 : Windows XP Professional

XP 64 : Windows XP Professional x64 Edition (W480、W380のみ)

「○」=プレインストール、「△」=添付のみ、「-」=サポートしないOS

名称	概要	Win7 32	Win7 64	XP 32	XP 64
Easy Backup	お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできます。	△	△	△	-
FM-Menu	ボタン式メニューから簡単にソフトウェアを起動できます。	-	-	△	-
FMキーガード	特定のキー入力を抑止する機能と、プログラムメニューに表示するメニューの抑止機能を追加します。	-	-	△	-
富士通拡張機能 ユーティリティ	<p>対象</p> <p>J380</p> <p>ハードウェア拡張機能をサポートします。</p>	○	-	○	-
富士通モニタ ユーティリティ	<p>「富士通モニタユーティリティ」に対応したディスプレイを接続し、プライマリモニターに設定した場合に使用できます。ソフトウェアごとに画質モードを登録し、そのソフトウェアを起動すると自動的に登録された画質モードに切り替えたり、ディスプレイのボタンを使わずに画質や表示サイズなどを設定したりすることができます。</p> <p>詳しくは、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。</p> <p>「富士通モニタユーティリティ」に対応した外部ディスプレイについては、ディスプレイに添付のマニュアルまたは富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/) にある、ディスプレイの製品情報をご覧ください。</p>	△	△	△	△
ゆったり設定2	コンピューターをより使いやすくするために、マウスポインターの動く速度、文字やアイコンの大きさなどの設定を簡単に変更できます。	△	-	△	-

ビューアー

「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」に格納されています。
ご購入のOSの欄をご覧ください。

Win7 32 : Windows 7 Professional (32ビット版)
Win7 64 : Windows 7 Professional (64ビット版)
XP 32 : Windows XP Professional
XP 64 : Windows XP Professional x64 Edition (W480、W380のみ)
「○」 = ブレインストール

名称	概要	Win7 32	Win7 64	XP 32	XP 64
Adobe Reader	PDF (Portable Document Format) ファイルを表示、閲覧、印刷できます。	○	○	○	○

CD/DVD関連のソフトウェア

各ソフトウェアは、次のディスクに格納されています。
ご購入のOSの欄をご覧ください。

- Roxio Creator
「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」
- WinDVD
「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」ディスク

Win7 32 : Windows 7 Professional (32ビット版)
Win7 64 : Windows 7 Professional (64ビット版)
XP 32 : Windows XP Professional
XP 64 : Windows XP Professional x64 Edition (W480、W380のみ)
「○」 = ブレインストール、「△」 = 添付のみ

名称	概要	Win7 32	Win7 64	XP 32	XP 64
Roxio Creator	コンピューターのデータをCDやDVDに保存できます。 使用方法については、ソフトウェア内のヘルプをご覧ください。 <ul style="list-style-type: none">・ポータブルCD/DVD ドライブをお使いになる場合は、製品に添付されたソフトウェアをインストールせずに、本ワークステーションにブレインストールされた「Roxio Creator」をお使いください。・DVD+R DLにデータ書き込みを行う場合、DVD-ROMとの互換性を高めるために「Extended Partial Lead-out」(約512MB)が書き込まれます。このため、最大書き込み容量は約7.99GBとなります。・パケットライトの書き込みには対応しておりません。	○	○	○	○

Win7 32 : Windows 7 Professional (32ビット版)

Win7 64 : Windows 7 Professional (64ビット版)

XP 32 : Windows XP Professional

XP 64 : Windows XP Professional x64 Edition (W480、W380のみ)

「○」=プレインストール、「△」=添付のみ

名称	概要	Win7 32	Win7 64	XP 32	XP 64
WinDVD	<p>対象</p> <p>DVD-ROM ドライブ搭載機種、スーパーマルチドライブ搭載機種</p> <p>映画や音楽などのDVDを再生できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビデオCDは、「WinDVD」では再生できません。「Windows Media Player」などで再生してください。 音声トラックがMPEGオーディオフォーマットで作成されたDVDを「WinDVD」で再生すると音声が出ません。なお、Windows7では「Windows Media Player」で音声も含めて再生できます。 Windows XP Professional x64 Editionで、カスタムメイドでグラフィックスカードを選択していない場合は、市販のDVDタイトルなど、著作権保護のされた映像の再生ができません。 CPRM対応のディスクは、再生できません。これらの他、WinDVDを使用時の注意事項については「取り扱い」-「取り扱い上の注意」(→P.30)をご覧ください。 	△	△	△	△

メールソフト

ご購入時はプレインストールされています。

ご購入のOSの欄をご覧ください。

Win7 32 : Windows 7 Professional (32ビット版)

Win7 64 : Windows 7 Professional (64ビット版)

XP 32 : Windows XP Professional

XP 64 : Windows XP Professional x64 Edition (W480、W380のみ)

「○」=プレインストール、「-」=サポートしないOS

名称	概要	Win7 32	Win7 64	XP 32	XP 64
Windows Live メール	Eメール、カレンダー、アドレス帳、フィード、およびニュースグループをすべて1ヶ所で管理するためのソフトウェアです。	○	○	-	-

Office製品

カスタムメイドで選択したソフトウェアをご覧ください。

ご購入時はプレインストールされていますが、リカバリを実行した場合にはインストールされません。手動でインストールする必要があります。

Office 2010をお使いになる場合は、プロダクトキーの入力とライセンス認証が必要です。リカバリを行い「Office 2010」をインストールした場合や、パソコンを修理された後なども、プロダクトキーの入力とライセンス認証は必要になる場合があります。詳しくは、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

ご購入のOSの欄をご覧ください。

Win7 32 : Windows 7 Professional (32ビット版)

Win7 64 : Windows 7 Professional (64ビット版)

XP 32 : Windows XP Professional

XP 64 : Windows XP Professional x64 Edition (W480、W380のみ)

「○」=プレインストール、「-」=サポートしないOS

名称	概要	Win7 32	Win7 64	XP 32	XP 64
Office Home & Business 2010	文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成、メールなどのソフトウェアが含まれています。	○	-	○	-
Office Personal 2010	文書作成、表計算、メールなどのソフトウェアが含まれています。	○	-	○	-

2 インストール

インストール方法はお使いになるソフトウェアにより異なります。

データの格納されたフォルダー内にある「Readme.txt」などの説明ファイルや、機能別マニュアルやソフトウェアに添付のマニュアルなどを必ずご確認のうえ、手順に従ってインストールしてください。

ソフトウェアのインストールにはCD/DVD ドライブが必要です（「i-フィルター」と「Norton AntiVirus」を除く）。

CD/DVD ドライブが搭載されていない機種をお使いの場合は、ポータブルCD/DVD ドライブを接続してください。

ポータブルCD/DVD ドライブをお使いになる場合は、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。

◀ 重要

- ▶ 誤ったドライバーをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ずOSや機種名を選択し、正しいドライバーを使用してください。
- ▶ すでにインストールされているドライバーについては、特に問題がない限りインストールしないでください。

5

「ドライバーズディスク検索ツール」からのインストール

次のディスクに格納されているソフトウェアまたはドライバーは、「ドライバーズディスク検索ツール」を使って、データの格納されたフォルダーを表示することができます。

- トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク（「SMARTACCESS/Basic」を除く）
- 「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」ディスク

1 管理者権限をもったユーザーとしてWindowsにログオンします。

2 ディスクをセットします。

「ドライバーズディスク検索ツール」が起動します。

POINT

- ▶ 「自動再生」ウィンドウが表示された場合は、「DRVCDSRC.exeの実行」をクリックしてください。
「Windowsが実行する動作を選んでください」と表示された場合は、「自動再生」をクリックしてください。
- ▶ 「ドライバーズディスク検索ツール」が起動しない場合は、次のように操作してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コンピューター」または「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 2. ディスクをセットしたドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「自動再生を開く」または「自動再生」をクリックします。

3 「ソフトウェアの検索条件」で機種名が選択できる場合は、お使いの機種名を選択します。

4 「ソフトウェアの検索条件」でお使いのOSを選択します。

5 「ソフトウェア」から、インストールするソフトウェアを選択します。
「内容」に、インストールするソフトウェアのフォルダーが表示されます。

6 表示されたフォルダー内の「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧になり、
インストールしてください。

次のソフトウェアはインストール方法が異なります。

● **Adobe Reader**

「AdbeRdr930_ja_JP.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。

 **POINT**

- ▶ インストール中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして操作を進めてください。
- ▶ インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

● **Portshutter**

「Manual」フォルダーにある「操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

● **Roxio Creator**

「Setup.exe」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従ってください。

● **WinDVD**

表示されたフォルダー内の「DVDreadme.txt」をご覧ください。

● **ゆったり設定2 (Windows XPの場合)**

「Program Files」フォルダー→「Fujitsu」フォルダー→「eSet」フォルダー→「Readme.txt」をご覧ください。

「Norton AntiVirus」のインストール

C ドライブに格納されています。

1 管理者権限をもったユーザーとしてWindowsにログオンします。

2 次の操作を行います。

● **Windows 7の場合**

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

● **Windows XPの場合**

「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

C:\fujitsu\bundle\nav\Fujitsu_Ltd_NAV_17[1].0_OEM90_20102995.exe

この後は、メッセージに従って操作してください。インストール後は、必ず本ワークステーションを再起動してください。

「i-フィルター」のインストール

C ドライブに格納されています。インストール方法は「Readme.txt」をご覧ください。

1 次の操作を行います。

● Windows 7の場合

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

● Windows XPの場合

「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

C:\fujitsu\bundle\i-filter\readme.txt

「Readme.txt」が表示されます。

「SMARTACCESS/Basic」のインストール

5

「SMARTACCESS/Basic」は「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」に格納されていますが、インストールの方法や順番が、他のソフトウェアとは異なります。「SMARTACCESS/Basic」のインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

Office製品のインストール

次のソフトウェアのインストール方法については、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- Office Home & Business 2010
- Office Personal 2010

インストール後は「Microsoft Update」を利用するなどして、ソフトウェアを最新の状態に更新してください（→P.102）。

3 アンインストール

注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLLファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「このDLLは複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

このDLLファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合はDLLファイルは削除しないことをお勧めします。

アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用する（Windows 7の場合）
「コントロールパネル」ウインドウ→「プログラム」→「プログラムと機能」→「プログラムのアンインストールまたは変更」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。
- 「プログラムの追加と削除」機能を使用する（Windows XPの場合）
「コントロールパネル」ウインドウの「プログラムの追加と削除」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳しくは、各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

※ 重要

- ▶ 次の認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。
アンインストール方法については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
 - ・スマートカードリーダ／ライタ
 - ・セキュリティチップ
- ▶ Windows 7で「WinDVD」をアンインストールする場合、インストール時に使ったディスクをセットしてからアンインストールを行ってください。

第6章

BIOS

BIOSセットアップについて説明しています。

1 BIOSセットアップ	132
2 BIOSセットアップの操作のしかた	133
3 メニュー詳細	137
4 BIOSのパスワード機能を使う	154
5 BIOSのエラーメッセージ	160

1 BIOSセットアップ

BIOSセットアップは、メモリやハードディスクなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションご購入時には、必要最小限のことは設定されています。次の場合に設定の変更が必要になります。

- ・特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワードを設定するとき
- ・リソースの設定を変更するとき
- ・起動時の自己診断（POST）にBIOSセットアップをうながすメッセージが表示されたとき

POINT

- ▶ 起動時の自己診断（POST）
本ワークステーションの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」（POST：Power On Self Test）といいます。
- ▶ 起動時の自己診断（POST）実行中に、電源を切らないでください。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップ画面を表示させる方法と、BIOS セットアップの操作方法について説明します。

BIOS セットアップを起動する

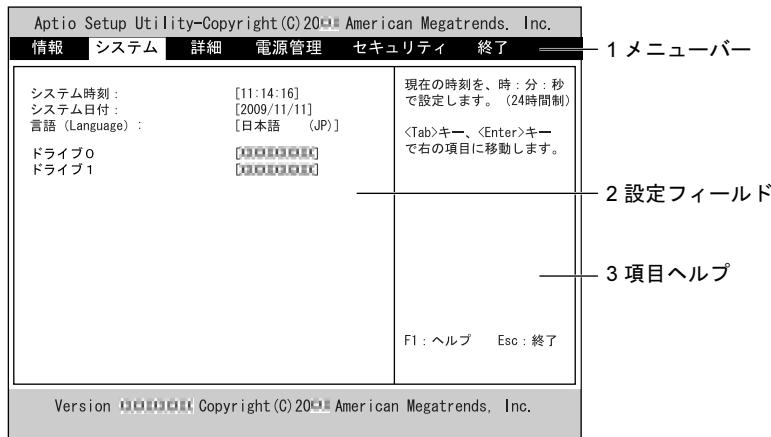
- 1 本ワークステーションの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」ロゴが表示され、画面の下に「[F2] BIOS セットアップ, [F12] 起動メニュー」と表示されたら、【F2】キーを押します。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して【Enter】キーを押してください（→P.156）。
BIOS セットアップ画面が表示されます。

POINT

- ▶ Windows が起動してしまった場合は、本ワークステーションを再起動してもう一度操作してください。
- ▶ FUJITSU ロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューが表示されるまで【F12】キーを何度も押してください。

BIOS セットアップ画面

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。



1. メニューバー
メニューの名称が表示されます。
2. 設定フィールド
各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。
3. 項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目のヘルプが表示されます。

各キーの役割

BIOSセットアップで使う主なキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	BIOSセットアップで使用するキーについて説明しているヘルプ画面が表示されます。 閉じる場合は、【Esc】キーまたは【Enter】キーを押します。
【F11】キー	記録されているイベントログを表示します。 閉じる場合は、【Esc】キーを押します。
【←】【→】キー	メニューを切り替えます。
【↑】【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【-】【Space】キー	各項目の設定値を変更します。
【Tab】キー	時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。
【F7】キー	変更前の設定値を読み込みます。
【F9】キー	標準設定値が読み込まれます。
【Esc】キー	「終了」メニューが表示されます。サブメニューが表示されている場合は、1つ前の画面が表示されます。
【Enter】キー	次のことを行います。 <ul style="list-style-type: none">▶が付いている項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。設定値にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、設定値の一覧が表示され、設定値を選択できます。時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。
【F10】キー	変更した設定値を保存してBIOSセットアップを終了します。

設定を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

POINT

- ▶ BIOS セットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本ワークステーションが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本ワークステーションを再起動してください。

- 1 【←】キーまたは【→】キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。
- 2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
 - ▶ の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
 - ▶ の付いている項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。
- 3 【-】キーまたは【Space】キーを押して、設定を変更します。
サブメニューを表示していた場合は、【Esc】キーを押すと1つ前の画面に戻ります。
さらに他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。

POINT

- ▶ 変更した設定値は、メモしておくことをお勧めします。

- 4 設定を保存して終了します。
終了する手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→P.136) をご覧ください。

BIOSセットアップを終了する

次の操作を行い、BIOSセットアップを終了してください。

- 1 【Esc】キーを押します。
「終了」メニューが表示されます。
サブメニューが表示されている場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを2～3回押してください。
- 2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して終了方法を選択し、【Enter】キーを押します。
 - 変更を保存したい場合
 - ・「変更を保存して終了する（再起動）」
BIOSセットアップ終了後にWindowsが起動します。
 - ・「変更を保存して終了する（電源OFF）」
BIOSセットアップ終了後に本ワークステーションの電源が切れます。
 - 設定を変更しないで終了する場合
 - ・「変更を保存せずに終了する（起動）」
BIOSセットアップ終了後にWindowsが起動します。
- 3 【←】キーまたは【→】キーを押して「はい」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
BIOSセットアップが終了します。
BIOSセットアップ終了後の本ワークステーションの動作は、手順2で選択した終了方法によって異なります。

起動メニューを使用する

どのデバイスから起動するかを選択します。

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F12】キーを押します。
起動メニュー画面が表示されます。
- 3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスから本ワークステーションが起動します。
選択されたデバイスが接続されていない場合は、次のデバイスから起動します。

POINT

- ▶ 「CD/DVD」を選択する場合、CD/DVDドライブのデータの読み出しが停止していることを確認してから【Enter】キーを押してください。
CD/DVDドライブのデータの読み出し中に【Enter】キーを押すと、CD/DVDドライブから正常に起動できません。
- ▶ 起動メニューを終了する場合は、【Esc】キーを押してください。

3 メニュー詳細

ここでは、BIOSセットアップのメニューについて説明しています。

BIOSセットアップのメニューは次のとおりです。

メニュー	概要
「情報」メニュー (→P.138)	BIOSやワークステーション本体についての情報が表示されます。
「システム」メニュー (→P.139)	日時や言語、およびハードディスクドライブなどに関する設定を行います。
「詳細」メニュー (→P.141)	OSを読み込むデバイス、CPUや周辺機器、イベントログなどの設定を行います。
「電源管理」メニュー (→P.146)	停電復旧時の動作や、Wakeup on LAN機能などを設定します。
「セキュリティ」メニュー (→P.148)	本ワークステーションを特定の人だけが使用できるように設定します。
「PC Health」メニュー (→P.152)	メインボードに搭載されているハードウェアモニターの情報が表示されます。
「終了」メニュー (→P.153)	設定値の保存や読み込み、BIOSセットアップの終了などを行います。

重要

- ▶ BIOSセットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。最新のBIOS情報は、富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/>) をご覧ください。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている場合、ユーザー用パスワードでBIOSセットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

「情報」メニュー

「情報」メニューには、BIOSやワークステーション本体についての情報が表示されます。設定の変更はできません。

■ 設定項目の詳細

□ 型名

本ワークステーションの型名が表示されます。

□ カスタムメイド番号

本ワークステーションのカスタムメイド (BTO) 番号が表示されます。

□ 製造番号

本ワークステーションの製造番号が表示されます。

□ BIOS版数

BIOSのバージョンと日付が表示されます。

□ CPUタイプ

本ワークステーションに搭載されているCPUの種類と速度が表示されます。

□ 全メモリ容量

本ワークステーションに搭載されているメインメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。

● メモリスロット1

メモリスロット (DIMM1) に搭載されたメモリの容量が表示されます。

メモリが搭載されていない場合は「None」と表示されます。

● メモリスロット2

メモリスロット (DIMM2) に搭載されたメモリの容量が表示されます。

メモリが搭載されていない場合は「None」と表示されます。

□ MACアドレス

本ワークステーションの内蔵LANのMACアドレスが表示されます。

□ UUID

本ワークステーションのUUIDが表示されます。

「システム」メニュー

「システム」メニューでは、日時や言語、およびハードディスクドライブなどに関する設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ システム時刻

24時間制で時刻を設定します。変更する場合は、キーボードから数値を入力します。【Enter】キーまたは【Tab】キーを押すと、時→分→秒→時・・・の順にカーソルが移動します。

- 00:00:00 ~ 23:59:59

□ システム日付

年月日を設定します。変更する場合は、キーボードから数値を入力します。【Enter】キーまたは【Tab】キーを押すと、年→月→日→年・・・の順にカーソルが移動します。

- 2000/01/01 ~ 2099/12/31

POINT

- ▶ 本ワークステーションの時計機能は、メインボード上の内蔵バッテリにより、電源オフや電源ケーブルを外している間でも動作し続けます。「システム時刻」および「システム日付」は、一度合わせれば電源を入れるたびに設定する必要はありません。

□ 言語 (Language)

BIOSセットアップで表示する言語を設定します。

- 日本語 (JP) (初期値) : 日本語で表示します。
- English (US) : 英語で表示します。

POINT

- ▶ ご購入時は、「日本語 (JP)」に設定されています。本設定は、「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」を実行しても、本ワークステーションご購入時の状態には戻りません。必要に応じて変更してください。

□ ドライブ0、ドライブ1

サブメニューを使用して、シリアルATAコネクタに接続されているデバイスの情報を表示します。各ドライブのデバイス名称が表示され、それにカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

各項目とコネクタの対応関係は次のとおりです。

メニュー項目	コネクタ	ご購入時に接続されているデバイス
ドライブ0	SATA1	標準のハードディスク、またはSATA-RAIDカード (カスタムメイドでHDD変更 (SATA-RAID) を選択した場合)
ドライブ1	SATA2	CD/DVD ドライブ (カスタムメイドでCD/DVD ドライブを選択した場合)

POINT

- ▶ カスタムメイドでHDD変更 (SATA-RAID) を選択した場合、デバイス名称は「TSATA2R2」と表示されます。

- ドライブ0、ドライブ1…ハードディスクドライブやCD/DVDドライブを有効にするかどうかを設定します。
 - ・使用する（初期値）：有効にします。
 - ・使用しない：無効にします。
- タイプ…ドライブの種類が表示されます。
- 型名…ドライブの型名が表示されます。
- 容量…ハードディスクドライブが接続されている場合に、ハードディスクドライブの最大容量が表示されます。

 **POINT**

- ▶ 本項目のディスク容量記載は、1GB=1000³byte換算によるものです。

「詳細」メニュー

「詳細」メニューでは、OSを読み込むデバイス、CPUや周辺機器、イベントログなどの設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ 起動デバイスの優先順位

サブメニューを使用して、起動するデバイスの優先順位を設定します。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

● 1.起動デバイス～4.起動デバイス

それぞれの順位に設定されたデバイスが表示されます。対象のデバイスが搭載／接続されていない場合は、項目名の先頭に「！」が表示されます。

設定を変更するには、変更したい順位を選択して【Enter】キーを押し、リストから新しい項目を選択して【Enter】キーを押します。現在の項目と選択した項目の順位が入れ替わります。

初期値は次のとおりです。

1. 起動デバイス：取外し可能なドライブ
2. 起動デバイス：ハードディスクドライブ
3. 起動デバイス：CD/DVD ドライブ
4. 起動デバイス：ネットワーク起動

・取り外し可能なドライブ

「取外し可能なドライブの優先順位」(→P.141) で設定されているデバイスから起動します。

・ハードディスクドライブ

「ハードディスクドライブの優先順位」(→P.142) で設定されているデバイスから起動します。

・CD/DVD ドライブ

「CD/DVD ドライブの優先順位」(→P.142) で設定されているデバイスから起動します。

POINT

- ▶ CDやDVDから起動するには、起動可能なディスクが必要となります。再起動前にCD/DVD ドライブにディスクをセットしてください。

・ネットワーク起動

「ネットワーク起動デバイスの優先順位」(→P.142) で設定されているデバイスから起動します。

POINT

- ▶ ネットワークサーバーから起動するためには、「Wired for Management Baseline Version 2.0」に準拠したインストレーションサーバーシステムが必要となります。

□ 取外し可能なドライブの優先順位

USB フロッピーディスクドライブの起動順位を設定します。USB フロッピーディスクドライブを接続した場合に表示されます。

【↑】キーまたは【↓】キーを使って優先順位を変更したいデバイスを選択し、【Space】キーを押すと上位に、【-】キーを押すと下位にそれぞれ項目が移動して優先順位が変更されます。

● 1. ドライブ : [お使いのデバイス名称]

[お使いのデバイス名称]には、接続されているフロッピーディスクドライブの名称が表示されます。

□ ハードディスクドライブの優先順位

ハードディスクの起動順位を設定します。拡張カード経由で接続されたハードディスクドライブも設定対象となります。

【↑】キーまたは【↓】キーを使って優先順位を変更したいデバイスを選択し、【Space】キーを押すと上位に、【-】キーを押すと下位にそれぞれ項目が移動して優先順位が変更されます。

● 1. ドライブ : [お使いのハードディスク名称]

[お使いのハードディスク名称]には、接続されているハードディスクドライブの名称が表示されます。

POINT

▶ カスタムメイドでHDD変更 (SATA-RAID) を選択した場合、「[お使いのハードディスク名称]」が「Hard Disk:TSATA2R2」と表示されます。

□ CD/DVD ドライブの優先順位

カスタムメイドで選択したCD/DVDドライブ、外付けCD/DVDドライブの起動順位を設定します。カスタムメイドでCD/DVDドライブを選択した場合や、外付けのCD/DVDドライブを接続した場合に表示されます。

【↑】キーまたは【↓】キーを使って優先順位を変更したいデバイスを選択し、【Space】キーを押すと上位に、【-】キーを押すと下位にそれぞれ項目が移動して優先順位が変更されます。

● 1. ドライブ : [お使いのCD/DVD ドライブ名称]

[お使いのCD/DVD名称]には、接続されているCD/DVDドライブの名称が表示されます。

□ ネットワーク起動デバイスの優先順位

ネットワーク起動デバイスの起動順位を設定します。拡張カードスロットにネットワーク起動をサポートしたネットワークアダプターが接続されている場合も表示されます。

【↑】キーまたは【↓】キーを使って優先順位を変更したいデバイスを選択し、【Space】キーを押すと上位に、【-】キーを押すと下位にそれぞれ項目が移動して優先順位が変更されます。

● 1. ドライブ : [お使いのネットワーク名称]

[お使いのネットワーク名称]には、ネットワーク起動に対応したLANデバイスの名称が表示されます。

□ 起動メニュー

起動時または再起動時に、【F12】キーで起動メニューを表示するかどうかを設定します。

- ・ 使用しない : 起動メニューを表示しません。
- ・ 使用する (初期値) : 起動メニューを表示します。

POINT

▶ 本項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に選択できます。管理者用パスワードが削除されると、本項目は初期値に戻ります。

□ 起動時の自己診断画面

本ワークステーションの起動時または再起動時に自己診断（POST）画面を表示するかどうかを設定します。

- ・**使用しない（初期値）**：起動時または再起動時に「FUJITSU」ロゴを表示します。
- ・**使用する**：起動時または再起動時に自己診断画面を表示します。

□ プライマリディスプレイ

プライマリディスプレイになるビデオデバイスを選択します。各設定項目で選択されるビデオデバイスの優先順位は次のとおりです。

- ・**内蔵ビデオ**：内蔵グラフィックスデバイスをプライマリディスプレイにします。
- ・**PCIE**：PCI Express x16 Graphics カードスロット搭載のグラフィックスカードをプライマリディスプレイにします。
- ・**PCI**：PCI拡張スロットのグラフィックスカードをプライマリディスプレイにします。
PCI拡張スロットにグラフィックスカードを接続していない場合は、内蔵グラフィックス／PCIEデバイスが選択されます。
- ・**自動（初期値）**：PCIE、内蔵グラフィックスの順にプライマリディスプレイを選択します。

□ 起動時のNumLock設定

起動時または再起動時に、キーボードのテンキーをNumLock状態にするかどうかを設定します。NumLock状態にすると、テンキーから数字を入力できます。

- ・**オン（初期値）**：キーボードをNumLock状態にします。
- ・**オフ**：キーボードをNumLock状態にしません。

POINT

- ▶ Windowsにログオンした後は、本設定にかかわらずNumLock状態に戻ります。

□ エラー停止

起動時の自己診断（POST）でエラーを検出したとき、どのデバイスのエラーで起動を停止するかを選択します。

- ・**全てのデバイス（初期値）**：エラーを検出したデバイスにかかわらず、起動を停止します。
- ・**キーボード以外**：キーボード以外のデバイスでエラーが検出された場合に起動を停止します。キーボードエラーでは起動を停止しません。
- ・**なし**：起動を停止しません。

POINT

- ▶ 本設定で停止しないよう設定したデバイスのエラーでも、エラーメッセージは表示されま

□ HTテクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジー機能を使用するかどうかを設定します。

- ・**使用しない**：ハイパースレッディング・テクノロジー機能を使用しません。
- ・**使用する（初期値）**：ハイパースレッディング・テクノロジー機能を使用します。

POINT

- ▶ 本製品のCPUをシングルコアプロセッサーとして使用するには、「HTテクノロジー」と「マルチコア」の両方を「使用しない」に設定する必要があります。

□マルチコア

CPUのマルチコア機能を使用するかどうかを設定します。

- ・**使用する**（初期値）：マルチコア機能を使用します。
- ・**使用しない**：單一コアのみを使用します。

POINT

- ▶ 本製品のCPUをシングルコアプロセッサーとして使用するには、「HTテクノロジー」と「マルチコア」の両方を「使用しない」に設定する必要があります。

□USBコントローラー

USBコントローラーを有効にするかどうかを設定します。

本設定は、起動時の自己診断（POST）終了後に有効になります。

- ・**使用しない**：すべてのUSBコントローラーを無効にして、リソースを解放します。カスタムメイドで選択したスマートカードリーダ／ライタも使用できなくなります。
- ・**背面のみ**：ワークステーション本体背面のUSBコントローラーのみを有効にします。
- ・**使用する**（初期値）：すべてのUSBコントローラーを有効にします。

□USBレガシーサポート

USBに対応していないOSでUSB規格の周辺機器を使用可能にするかどうかを設定します（Windows 7およびWindows XPは、USB対応です）。

- ・**使用しない**：USBに対応していないOSでは、USB規格の周辺機器が使用できません。
- ・**キーボード／マウス**：USBに対応していないOSでも、USBキーボードおよびUSBマウスが使用できます。
- ・**使用する**（初期値）：USBに対応していないOSでも、USB規格の周辺機器が使用できます。

POINT

- ▶ ワークステーションは、すべてのUSB規格に対応した周辺機器の動作を保証するものではありません。USB規格に対応した周辺機器を接続して問題がみられる場合には、本設定を「使用しない」に設定するか、Windowsが起動した後にUSB規格の周辺機器を接続してください。

□内蔵LANデバイス

内蔵LANデバイスを有効にするかどうかを設定します。

- ・**使用しない**：内蔵LANデバイスを無効にします。
- ・**使用する**（初期値）：内蔵LANデバイスを有効にします。

□ネットワークからの起動

ネットワークサーバーからの起動を有効にするかどうかを設定します。本項目は「内蔵LANデバイス」を「使用する」に設定した場合に選択できます。

- ・**使用しない**：ネットワークサーバーからの起動を無効にします。
- ・**PXE**（初期値）：内蔵LANデバイスを経由してネットワークサーバーから起動できるようにします。

□シリアル／パラレルポート設定

サブメニューを使って、シリアルポートの設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- **シリアルポート**…シリアルポートを有効にするかどうかを設定します。

- ・**使用しない**：シリアルポートを無効にして、リソースを解放します。

- ・**使用する（初期値）**：シリアルポートを有効にします。

POINT

▶ 「使用しない」に設定すると、デバイスマネージャーから見えなくなります。

- **I/Oアドレス、割り込み番号**：「シリアルポート」を「使用する」に設定した場合に、本項目を設定できます。シリアルポートのI/Oアドレスと割り込み番号を設定します。

- ・3F8/IRQ 4（初期値）、2F8/IRQ 3、3E8/IRQ 4、2E8/IRQ 3

□イベントログ設定

サブメニューを使って、イベントログに関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- **イベントログ領域の状態**…イベントログを保存可能かどうかが表示されます。

- ・**保存可能**：イベントログは保存可能です。

- ・**保存不可能**：イベントログが一杯になっています。イベントログを消去するまで、新たなイベントログは記録されません。

- **イベントログ内容の状態**…イベントログの内容が有効かどうかが表示されます。

- ・**有効**：イベントログの内容は有効です。

- ・**無効**：イベントログの内容は無効です。内容が壊れている可能性があります。

- **イベントログの表示**…【Enter】キーを押すと、イベントログの詳細が表示されます。

- **イベントログの消去**…【Enter】キーを押すと、「イベントログを消去しますか？」と表示されます。イベントログを消去する場合は「はい」、消去しない場合は「いいえ」を選択してください。

- **イベントログ**…イベント発生時にイベントログを記録するかどうかを設定します。

- ・**保存しない**：イベントログを保存しません。

- ・**保存する（初期値）**：イベント発生時にイベントログを保存します。

「電源管理」メニュー

「電源管理」メニューでは、Wakeup on LAN機能を利用して自動的に起動する場合や、AC電源の復旧時における動作に関する設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ AC通電再開時の動作

停電などで電源が切断された場合に、通電再開時の動作を設定します。

- ・**使用しない**：電源が切れたままになります。
- ・**電源OFF（初期値）**：通電再開時に一瞬電源が入り、その後電源が切れます。
- ・**電源ON**：電源が入ります。
- ・**自動**：電源が切断されたときの状態に戻ります。

POINT

- ▶ 「電源OFF」に設定した場合、または「自動」に設定し、AC電源が切れる前の状態がシャットダウンや休止状態の場合、通電再開時に一瞬電源が入りますが、故障ではありません。この現象を回避する場合は「使用しない」に設定してください。
- ▶ AC電源切断後30秒以上待ってから電源を入れてください。30秒以内に入れると正常に動作しない場合があります。
- ▶ 「自動」に設定した場合、AC電源が切れる前の状態が起動中、または省電力状態（スリープ、スタンバイ）のときに、ワークステーション本体の電源が入ります。休止状態のときには、電源は入りません。
- ▶ UPSなどを使って通電再開時に電源を投入させたい場合は、「電源ON」に設定してください。
- ▶ 本設定を変更した場合は、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を選択し、本ワークステーションを再起動してください。「終了」メニューの「変更を保存して終了する（電源OFF）」を選択した場合は、一度本ワークステーションを起動しない限り、変更した設定は有効になりません。

□ LANによるウェイクアップ

内蔵LANデバイスおよびPME対応のLANカードがMagic Packetを受信したときに電源を入れるかどうかを設定します。

- ・**使用しない（初期値）**：電源を入れません。
- ・**使用する**：電源を入れます。

POINT

- ▶ 本項目を設定しても、省電力状態（スリープ、スタンバイ、休止状態）からレジューム（復帰）させることはできません。デバイスマネージャーで設定してください。設定方法については、「取り扱い」—「スリープ／休止状態の使い方」(→P.67)、または「取り扱い」—「スタンバイ／休止状態の使い方」(→P.75)をご覧ください。
- ▶ 電源オフからの動作は、OSにかかわらず本設定が有効です。
- ▶ 「AC通電再開時の動作」を「使用しない」に設定している場合、停電などのAC電源切断が発生すると、次に本製品の電源を入れるまで本機能は使用できなくなります。
- ▶ 本設定を変更した場合は、「終了」メニューの「変更を保存して終了する（再起動）」を選択し、本ワークステーションを再起動してください。「終了」メニューの「変更を保存して終了する（電源OFF）」を選択した場合は、一度本ワークステーションを起動しない限り、変更した設定は有効なりません。

□ 時刻による電源ON

「時刻」、「日付（日）」で指定した時刻に電源を入れるかどうかを設定します。

- ・**使用しない（初期値）**：電源を入れません。
- ・**使用する**：電源を入れます。

● **時刻**…「時刻による電源ON」が「使用する」に設定されている場合に設定できます。ウェイクアップする時刻を設定します。

- ・00:00:00（初期値）～23:59:59

● **日付（日）**…「時刻による電源ON」が「使用する」に設定されている場合に設定できます。ウェイクアップする日付を設定します。

- ・00（初期値）：毎日、指定した時刻に電源が入ります。
- ・01～31：指定した日付に電源が入ります。日付は01～31の間で指定します。

POINT

- ▶ 本項目を設定しても、省電力状態（スリープ、スタンバイ、休止状態）からレジュームさせることはできません。タスクスケジューラまたはタスクで設定してください。設定方法については、「取り扱い」－「スリープ／休止状態の使い方」（→P.67）、または「取り扱い」－「スタンバイ／休止状態の使い方」（→P.75）をご覧ください。
- ▶ 電源オフからの動作は、OSにかかわらず本設定が有効です。
- ▶ 「AC通電再開時の動作」を「使用しない」に設定している場合、停電などのAC電源切断が発生すると、次に本製品の電源を入れるまで本機能は使用できなくなります。

「セキュリティ」メニュー

「セキュリティ」メニューでは、本ワークステーションを特定の人だけが使用できるように設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ 管理者用パスワード

管理者用パスワードの設定状況が表示されます。

- ・未設定（初期値）：管理者用パスワードは設定されていません。
- ・設定済み：管理者用パスワードは設定されています。

□ ユーザー用パスワード

ユーザー用パスワードの設定状況が表示されます。

- ・未設定（初期値）：ユーザー用パスワードは設定されていません。
- ・設定済み：ユーザー用パスワードは設定されています。

□ 管理者用パスワード設定

【Enter】キーを押して、システム管理者用のパスワードを設定します。BIOSのパスワードの設定方法については、「BIOSのパスワード機能を使う」（→P.154）をご覧ください。

※ 重要

- ▶ 管理者用パスワードを忘れると、BIOSセットアップを管理者権限で起動することができなくなります。「パスワードを忘れてしまったら」（→P.157）をご覧ください。

POINT

- ▶ 「管理者用パスワード」を設定すると、BIOSセットアップの起動時にパスワード入力を要求されます。

□ ユーザー用パスワード設定

「管理者用パスワード」が設定されている場合に設定できます。【Enter】キーを押して、一般利用者用のパスワードを設定します。BIOSのパスワードの設定方法については、「BIOSのパスワード機能を使う」（→P.154）をご覧ください。

POINT

- ▶ 「ユーザー用パスワード」でBIOSセットアップを起動した場合、変更できる項目は「システム時刻」、「システム日付」、「ユーザー用パスワード設定」のみに制限されます。
- ▶ 「管理者用パスワード」が設定されていないと、「ユーザー用パスワード」は設定できません。

□ 起動時のパスワード

「管理者用パスワード」が設定されている場合に設定できます。本ワークステーションの起動時にパスワードの入力を要求するかどうかを設定します。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの起動時には、本設定にかかわらずパスワード入力が必要です。ただし、OS起動時のパスワード認証直後にBIOSセットアップを起動した場合は、BIOS起動時のパスワード入力は省略されます。
- ▶ 管理者用パスワードが削除されると、本項目は初期値に戻ります。

- ・**使用しない（初期値）**：OS起動時にパスワードの入力を要求しません。
- ・**最初のみ**：OS起動時にパスワードの入力を要求します。ただし、再起動時にはパスワードを要求しません。
- ・**毎回**：OS起動時、および再起動時にパスワードの入力を要求されます。

- **自動ウェイクアップ時…** 「起動時のパスワード」が「最初のみ」または「毎回」に設定されている場合に選択できます。

- ・**使用しない**：LAN またはタイマーなどの自動ウェイクアップ時にはパスワード入力を要求しません。
- ・**使用する（初期値）**：LAN またはタイマーなどの自動ウェイクアップ時もパスワード入力を要求します。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが削除されると、本項目は初期値に戻ります。

□ ハードディスクセキュリティ

ハードディスクのセキュリティ機能を設定します。カスタムメイドでHDD変更 (SATA-RAID) を選択した場合、本項目は設定できません。

- **ドライブ0用パスワード、ドライブ1用パスワード…** ハードディスクパスワードの設定状況が表示されます。

- ・**未設定（初期値）**：ハードディスクパスワードが設定されていません。
- ・**設定済み**：ハードディスクパスワードが設定されています。
- ・**使用不可**：ハードディスクパスワードに対応していません。

- **ドライブ0用パスワード設定、ドライブ1用パスワード設定**

「管理者用パスワード」が設定されており、ハードディスクパスワードに対応したハードディスクが接続されている場合に設定できます。

【Enter】キーを押して、ハードディスクパスワードを設定します。BIOSのパスワードの設定方法については、「BIOSのパスワード機能を使う」(→P.154) をご覧ください。

- **起動時のパスワード入力…** 管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。本ワークステーションの起動時にパスワードの入力を要求するかどうかを設定します。ただし、再起動時には本設定にかかわらず、パスワードを要求しません。

- ・**使用しない**：パスワード入力を要求しません。
- ・**使用する（初期値）**：パスワード入力を要求します。

※ 重要

- ▶ パスワードを忘れる、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクセキュリティ機能を無効にできなくなったりします。「パスワードを忘れてしまったら」(→P.157) をご覧ください。
- ▶ ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更する場合は、必ず電源を切り、再度本ワークステーションの電源を入れてから、BIOSセットアップを起動してください。また、ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更した後は、BIOSセットアップの「終了」メニューの「変更を保存して終了する(電源OFF)」を実行して本ワークステーションの電源を切ってください。

これらの手順を守らないと、変更した内容が正しく反映されない場合があります。

POINT

- ▶ 本項目は、管理者用パスワードでBIOSを起動した場合のみ設定できます。
- ▶ 管理者用パスワードが削除されると、本項目は初期値に戻ります。
- ▶ 拡張カード経由で接続されているハードディスクでは、本機能はお使いになれません。
- ▶ ハードディスクがセキュリティ機能に対応していない場合や、ハードディスク以外の装置が接続されている場合は、グレーで表示され、本設定を変更することはできません。

□ Virtualization Technology

本項目はバーチャライゼーション・テクノロジーに対応したCPUを搭載している場合に表示されます。バーチャライゼーション・テクノロジーを有効にするか無効にするかを設定します。

- 使用しない(初期値)：無効にします。
- 使用する：有効にします。

※ 重要

- ▶ 本ワークステーションにてこの機能の動作が確認されたソフトウェアを搭載していない場合は、「使用しない」に設定してください。「使用する」に設定した場合の動作保証はできません。

POINT

- ▶ 本項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に選択できます。

□ TPM (セキュリティチップ) 設定

サブメニューを使って、TPM (セキュリティチップ) に関する設定を行います。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

POINT

- ▶ Windowsからセキュリティチップの設定変更を実行した場合、次の画面が表示されます。
 - ・ TPM (セキュリティチップ) 設定
セキュリティチップの状態の変更を実行します。本項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に選択できます。本項目で設定をした後、ワークステーション本体が再起動します。
 - いいえ：設定の変更を実行しません。
 - はい：設定の変更を実行します。

- セキュリティチップ…セキュリティチップによるセキュリティ機能を使うかどうかを設定します。
 - ・ 使用しない：セキュリティチップによるセキュリティ機能を使いません。
 - ・ 使用する（初期値）：セキュリティチップによるセキュリティ機能を使います。

重要

- ▶ セキュリティチップを使用する場合は、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。
- ▶ セキュリティチップを有効にするには、BIOSセットアップ終了後に本ワークステーションを再起動してください。

POINT

- ▶ 本項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に選択できます。

- 現在のTPM状態…セキュリティチップの状態を表示します。
 - ・ 有効かつ使用可：セキュリティチップが有効で使用可能の状態です。
 - ・ 有効かつ使用不可：セキュリティチップが有効で使用不可の状態です。
 - ・ 無効かつ使用可：セキュリティチップが無効で使用可能の状態です。
 - ・ 無効かつ使用不可（初期値）：セキュリティチップが無効で使用不可の状態です。
- TPM状態の変更…セキュリティチップの状態を変更します。
 - ・ 変更しない（初期値）：変更しません。
 - ・ 有効かつ使用可：有効かつ使用可の状態にします。
 - ・ 無効かつ使用不可：無効かつ使用不可の状態にします。

POINT

- ▶ セキュリティチップの状態によっては、表示されない項目があります。

- セキュリティチップのクリア…セキュリティチップの情報を削除します。現在のTPMの状態が「無効かつ使用不可」の場合には選択できません。【Enter】キーを押すと「本操作により、チップ内のセキュリティ情報はクリアされます。続行しますか？」と表示されます。情報を削除する場合は「はい」、削除しない場合は「いいえ」を選択してください。

「PC Health」メニュー

「PC Health」メニューでは、メインボードに搭載されているハードウェアモニター機能によって、本ワークステーションの状態が表示されます。設定の変更はできません。

POINT

- ▶ メインボード上の簡易センサーを使用しているため、計測器などを使用して測定した値とは異なる場合があります。

□ Temperature

本ワークステーション各部の温度状態を表示します。

- ・CPU : CPUの現在の温度（異常動作温度からの相対温度）が表示されます。
- ・SYSTEM : 温度センサー（SYSTEM）（→P.19）の現在の温度が表示されます。
- ・REAR : 温度センサー（REAR）（→P.19）の現在の温度が表示されます。

□ Voltage

本ワークステーションの電圧の情報を表示します。

- ・+3.3V : 3.3V ラインの現在の電圧が表示されます。
- ・+12V : 12V ラインの現在の電圧が表示されます。
- ・VBAT : 内蔵バッテリの現在の電圧が表示されます。

□ FAN

本ワークステーション各部のファンの情報を表示します。

- ・CPU : CPU ファンの、現在の回転数 (rpm) が表示されます。
- ・SYSTEM : カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合に、拡張カード取り付け金具に固定されているシステムファンの、現在の回転数 (rpm) が表示されます。
- ・PSU : 電源ユニットファンの、現在の回転数 (rpm) が表示されます。

「終了」メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOSセットアップの終了などを行います。

■ 設定項目の詳細

□ 変更を保存して終了する（再起動）

設定した内容を保存してBIOSセットアップを終了するときに選びます。

この項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「変更した内容を保存して終了しますか？（再起動）」というメッセージが表示されます。「はい」を選択し、【Enter】キーを押してください。

□ 変更を保存して終了する（電源OFF）

設定した内容を保存してワークステーションの電源を切るときに選びます。

この項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「変更した内容を保存して終了しますか？（電源OFF）」というメッセージが表示されます。「はい」を選択し、【Enter】キーを押してください。

□ 変更を保存せずに終了する（起動）

設定した内容を保存しないでBIOSセットアップを終了するときに選びます。

設定を変更している場合、この項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。「いいえ」を選択し、【Enter】キーを押してください。

「はい」を選択すると、保存されます。

□ 標準設定値を読み込む

すべての設定項目を標準設定値にするときに選びます。

この項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「標準設定値を読み込みますか？」というメッセージが表示されます。「はい」を選択し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ▶ 「標準設定値を読み込む」を実行しても、「システム」メニューの「言語（Language）」、「セキュリティ」メニューの「ハードディスクセキュリティ」、およびBIOSのパスワードの設定は、現在お使いの状態のまま変更されません。

4 BIOSのパスワード機能を使う

ここでは、BIOSセットアップで設定できるパスワードについて説明します。本ワークステーションは、不正使用を防止するために、BIOSセットアップでパスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本ワークステーションを使用できなくなります。

パスワードの種類

本ワークステーションで設定できるパスワードは次のとおりです。

- **管理者用パスワード**

本ワークステーションのご購入者などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用する場合は、必ず設定してください。

- **ユーザー用パスワード**

本ワークステーションの「管理者」以外のユーザーが使用するパスワードです。「管理者用パスワード」が設定されている場合のみ設定できます。

- **ハードディスクパスワード**

本ワークステーションのハードディスクを、他のユーザーが使用したり、他のコンピューターで使用したりできないようにするためのパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

BIOSのパスワードの設定方法は、次のとおりです。

■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

POINT

▶ ユーザー用パスワードを設定する前に、管理者用パスワードを設定してください。

1 「セキュリティ」メニューで「管理者用パスワード設定」、または「ユーザー用パスワード設定」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを入力して下さい」 ウィンドウが表示されます。

—— 新しいパスワードを入力して下さい ——

—

2 1~32桁までのパスワードを入力します。

アルファベットと数字が入力できます。

入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。

3 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい」 ウィンドウが表示され、パスワードの再入力を求められます。

新しいパスワードを確認して下さい

—

4 手順2で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」 という画面が表示されます。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」 という画面が表示されます。

5 【Enter】キーを押します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、手順1からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

6 BIOS セットアップを終了します。

終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」 (→P.136) をご覧ください。

 **POINT**

- ▶ 設定したパスワードは忘れないようにしてください。何かに書き留める場合は、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

■ ハードディスクパスワードを設定する

 **重要**

- ▶ ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更する場合は、必ず電源を切り、再度本ワークステーションの電源を入れてから、BIOS セットアップを起動してください。また、ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更した後は、BIOS セットアップの「終了」メニューの「変更を保存して終了する（電源OFF）」を実行してワークステーションの電源を切ってください。

これらの手順を守らないと、変更した内容が正しく反映されない場合があります。

1 ワークステーション本体の電源を切ります。

ハードディスクパスワードは、一度電源が切れた状態から設定します。

2 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」 (→P.133) をご覧ください。

3 「セキュリティ」メニューで「ハードディスクセキュリティ」→「ドライブn用パスワード設定」の順にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。

nは、ハードディスクが接続されているSATAコネクタの番号（0～2）です。

「新しいパスワードを入力して下さい」 ウィンドウが表示されます。

4 1～32桁までのパスワードを入力します。

アルファベットと数字が入力できます。

入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。

5 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい」 ウィンドウが表示され、パスワードの再入力を求められます。

—— 新しいパスワードを確認して下さい ——

—

6 手順4で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました。」 という画面が表示されます。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」 という画面が表示されます。

7 【Enter】キーを押します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

8 BIOSセットアップを終了します。

終了の手順については、「BIOSセットアップを終了する」 (→P.136) をご覧ください。

パスワードを使う

パスワードを設定すると、設定状態により、次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- BIOSセットアップを起動するとき
- 本ワープロセッサーを起動するとき
- レジューム（復帰）するとき

POINT

- ▶ 管理者用またはユーザー用パスワードとハードディスク用パスワードを同じパスワードに設定した場合
OS起動時に管理者用またはユーザー用パスワード入力ウィンドウとハードディスク用パスワード入力ウィンドウの両方を表示させるように設定していても、ハードディスク用パスワード入力ウィンドウは表示されません。

■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを入力する

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

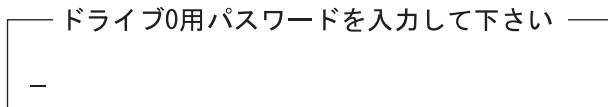
—— パスワードを入力して下さい ——

—

誤ったパスワードを3回入力すると、ビープ音が鳴りシステムが停止します。この場合は、電源ボタンを押して電源を切り、30秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

■ ハードディスクパスワードを入力する

ハードディスクパスワードを設定し、「起動時のパスワード入力」を「使用する」に設定すると、OS起動時にハードディスクパスワード入力用のウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。



(ドライブ0のパスワードを入力する場合)

POINT

- ▶ ハードディスクパスワードを設定していても、「起動時のパスワード入力」を「使用しない」に設定している場合は、ハードディスクパスワード入力用のウィンドウは表示されません。
- ▶ ハードディスクパスワードを設定後、「起動時のパスワード入力」を「使用する」に設定していても、次の場合はハードディスクパスワード入力用のウィンドウは表示されません。
 - ・ OS起動時に管理者用／ユーザー用パスワードを入力するよう設定されており、管理者用パスワードとハードディスクパスワードが同一の場合。
 - ・ OS起動時に管理者用／ユーザー用パスワードを入力するよう設定されており、ユーザー用パスワードとハードディスクパスワードが同一の場合。

パスワードを忘れてしまったら

パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。

パスワードを忘れてしまうと、パスワードの種類によっては、修理（有償）や、最悪の場合データの損失につながるおそれがあります。

パスワードは、何かに書き留めて、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

6

■ 管理者用パスワードやハードディスクパスワードを忘れてしまったら

管理者用パスワードを忘れると、パスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。また、ハードディスクパスワードを忘れると、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりして、修理が必要になります。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。修理は保証期間にかかるわらず、有償になります。

なお、セキュリティチップを使用している場合、修理の後にセキュリティチップのリストアが必要となります。

重要

- ▶ データのバックアップをとっておいてください
ハードディスクの修理を行うと、ハードディスク内のデータは初期化されるため、復旧できません。データのバックアップができる場合は、必ず修理の前にバックアップをとっておいてください。
- ▶ ハードディスクパスワードは、盗難などによる不正使用を防止することを目的としています。強固なセキュリティであるため、パスワードを忘れてしまうと、修理をしてもパスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、データが完全に失われてしまいます。パスワードの管理には充分ご注意ください。

■ ユーザー用パスワードを忘れてしまったら

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードを削除することで解除できます。

パスワードを変更／削除する

◀ 重要

▶ ハードディスクセキュリティ機能を有効に設定している場合

ハードディスクパスワードを変更したり削除したりする場合には、Windowsで、「シャットダウン」(Windows 7の場合) または「電源を切る」(Windows XPの場合) を実行して本ワークステーションの電源を切り、再度本ワークステーションの電源を入れてからBIOSセットアップを起動してください。また、パスワードの設定を変更したり削除したりした後は、必ず「終了」メニューの「変更を保存して終了する(電源OFF)」を実行して本ワークステーションの電源を切ってください。

これらの手順を守らないと、変更した内容が正しく反映されない場合があります。

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するには、次のように操作してください。

1 BIOSセットアップを起動します。

ハードディスクパスワードは、一度電源が切れた状態から設定してください。

BIOSセットアップの起動の手順については、「BIOSセットアップを起動する」(→P.133)をご覧ください。

2 「セキュリティ」メニューで設定したいパスワードを選択し、【Enter】キーを押します。

・「管理者用パスワード設定」

・「ユーザー用パスワード設定」

・「ハードディスクセキュリティ」→「ドライブn用パスワード設定」

(nはハードディスクが接続されているSATAコネクタの番号(0~1)です)

「現在のパスワードを入力して下さい」 ウィンドウが表示されます。

3 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを入力して下さい」 ウィンドウが表示されます。

4 1~32桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

「新しいパスワードを確認して下さい」 ウィンドウが表示されます。

5 手順4で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

「変更が保存されました」という画面が表示されます。

6 【Enter】キーを押します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、手順2からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

7 BIOS セットアップを終了します。

終了の手順については、「BIOS セットアップを終了する」(→P.136) をご覧ください。

■ パスワードを削除する

- パスワードを削除するには、「管理者用パスワード設定」、「ユーザー用パスワード設定」、または「ドライブ0用パスワード設定」の項目で、いったん現在のパスワードを入力し、その後新しいパスワードを入力しないで【Enter】キーを押します。
管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも削除されます。

5 BIOSのエラーメッセージ

ここでは、BIOSが表示、または記録するエラーメッセージについて、対処方法を説明しています。必要に応じてお読みください。

エラーメッセージが表示されたときは

本ワークステーション起動時にエラーメッセージが表示された場合は、エラーメッセージを確認し、次の処置を行ってください。

- BIOSセットアップの設定値を確認する

BIOSに関するエラーメッセージが表示された場合は、ワークステーションを再起動して BIOSセットアップを起動し、設定値が正しいか確認してください。

- 周辺機器の取り付けを確認する

オプションの拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込みレベルなど正しく設定されているかどうかも確認してください。

このとき、拡張カードに添付のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルもあわせてご覧ください。

これらの処置を実行しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

起動時に表示されるエラーメッセージ一覧

- <F2>キーを押すとBIOSセットアップを起動します。

起動時の自己診断（POST）中にエラーが発生すると本メッセージが表示されます。【F2】キーを押すとBIOSセットアップを起動します。

- 前回使用中にシステムのエラーを検出しました。

BIOSセットアップを起動して、イベントログを確認してください（→P.162）。

- イベントログの記録領域が一杯になりました。BIOSセットアップを起動して、イベントログを削除してください。

BIOSイベントログがいっぱいになった場合、次回起動時に本メッセージが表示されます。 BIOSイベントログを確認して処置した後に、BIOSイベントログをクリアしてください。

- システムCMOSのチェックサムが正しくありません。

CMOSチェックサムが間違っています。すべてのBIOS設定項目が標準設定値に変更されました。BIOS設定を保存してBIOSセットアップを終了してください。

BIOS設定を標準設定値から変更している場合は設定変更後、設定した内容を保存してBIOSセットアップを終了してください。

- 日付と時刻の設定を確認してください。

日付/時刻がリセットされました。正しい日付/時刻を設定してください。

● キーボードエラーまたはキーボードが接続されていません。

キーボードテストでエラーが発生しました。電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、30秒以上待ってから電源を入れ直してください。

また、キーボードを接続せずに使いになる場合は、エラーが表示されないようにBIOS セットアップの「詳細」メニュー→「エラー停止」を「All, But Keyboard」に設定してください。

● ECC未サポートメモリです。

サポート外のメモリが取り付けられています。弊社純正品のメモリが取り付けられているかを確認してください。

● CPUファンエラーまたはCPUファンが接続されていません。

● システムファンエラーまたはシステムファンが接続されていません。

● 電源ファンエラーまたは電源ファンが接続されていません。

FAN確認時にエラーが発生しました。電源を切って、FANが壊れていないことまたはFAN のケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

● VBAT Voltage Error

内蔵バッテリの電圧確認時にエラーが発生しました。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● PXE-E32:TFTP open timeout

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「詳細」メニュー→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。

● PXE-E61:Media test failure, Check cable

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LANケーブルが正しく接続されていません。LANケーブルを正しく接続してください。

● PXE-E51:No DHCP or proxyDHCP offers were received

● PXE-E53:No boot filename received

● PXE-E78:Could not locate boot server

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「詳細」メニュー→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。

● PXE-E89:Could not download boot image

● PXE-T01:File not found + PXE-E3B:TFTP Error - File Not found

● PXE-T01:File not found

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートファイルイメージが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップの「詳細」メニュー→「ネットワークからの起動」を「使用しない」に設定してください。

● BOOT: Couldn't find NTLDR

Please insert another disk

フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。

● Boot Failure Press any key to continue

OSが見つかりませんでした。BIOS セットアップでドライブが正しく設定されているか、指定したドライブにOSが入っているかを確認してください。

● Non - System disk or disk error Replace and press any key to ready

フロッピーディスクドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。

● **NTLDR is missing Press any key to restart**

フロッピーディスク ドライブにシステム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると、表示されます。フロッピーディスクを取り出して何かキーを押してください。

BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ

本ワークステーション起動時にエラーが発生した場合、一部のエラーは BIOS イベントログに記録され、BIOS セットアップの「詳細」メニュー→「イベントログ設定」→「イベントログの表示」から確認することができます。

BIOS イベントログにエラーが記録されていた場合は、「BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧」の記載に従って処置をしてください。

処置を実行しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧

BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージの一覧は、次のとおりです。

● **CMOS Checksum Error**

CMOS チェックサムエラー

CMOS チェックサムが間違っています。すべての BIOS 設定項目が標準設定値に変更されました。

BIOS 設定を保存して BIOS セットアップを終了してください。

BIOS 設定を標準設定値から変更している場合は設定変更後、設定した内容を保存して BIOS セットアップを終了してください。

● **CMOS Time Not Set**

日付/時刻不正

日付/時刻がリセットされました。

正しい日付/時刻を設定してください。

● **Keyboard error or no keyboard present**

キーボードエラーまたはキーボードが接続されていません。

キーボードテストでエラーが発生しました。

電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、30秒以上待ってから電源を入れ直してください。

また、キーボードを接続せずにお使いになる場合は、エラーが表示されないように BIOS セットアップの「詳細」→「エラー停止」を「キーボード以外」に設定してください。

● **Non-ECC DIMM detected**

ECC 未サポートメモリです。

サポート外のメモリが取り付けられています。

弊社純正品のメモリが取り付けられているかを確認してください。

● **CPU Fan Error, System Fan Error, PSU Fan Error**

CPU ファンエラー、システムファンエラー、電源ファンエラー

起動時の自己診断 (POST) で、ファンの異常を検出しました。

電源を切って、ファンが壊れていないこと、ファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

● CPU Temperature Error, SYSTEM Temperature Error, REAR Temperature Error

温度異常を検出しました。

電源を切って、ファンが壊れていないことまたはファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

10分ほど待ってから電源を入れ直してください。

● Password Failure

パスワード入力不正

誤ったパスワードが3回入力されました。

● Diagnostic Program found error (Code=004100001)

診断プログラムが異常を検出（詳細コード=004100001）

診断プログラム実行結果でエラーを検出しました。

Memo

第7章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

1 ワークステーション本体のお手入れ	166
2 周辺機器のお手入れ	173

1 ワークステーション本体のお手入れ

ここでは、ワークステーション本体のお手入れについて説明しています。

△ 警告



- お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようしてください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。
- 清掃のときは、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。
故障・火災の原因となります。

本ワークステーションを長期間お使いになると、ワークステーション本体に汚れが付着したり、ほこりがたまったりすることがあります。そのままお使いになると、ワークステーションが故障しやすくなります。ワークステーション本体は、定期的に清掃してください。

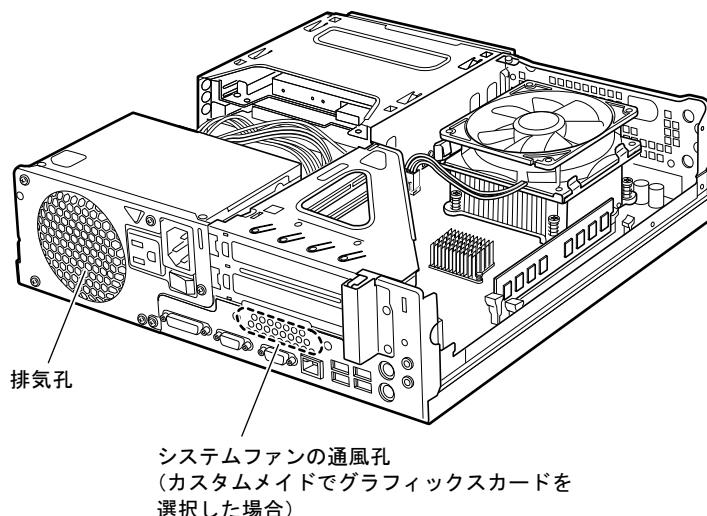
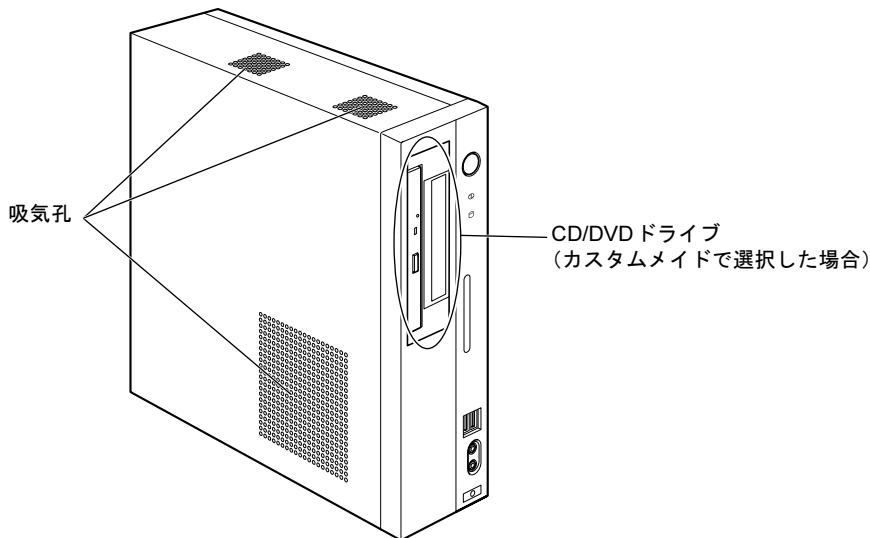
手 重要

- ▶ 清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。

ワークステーション本体外部

■ ほこりがたまりやすい箇所

次のイラストの箇所にはほこりがたまらないよう、定期的に清掃してください。



■ お手入れのしかた

- ワークステーション本体の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- 汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

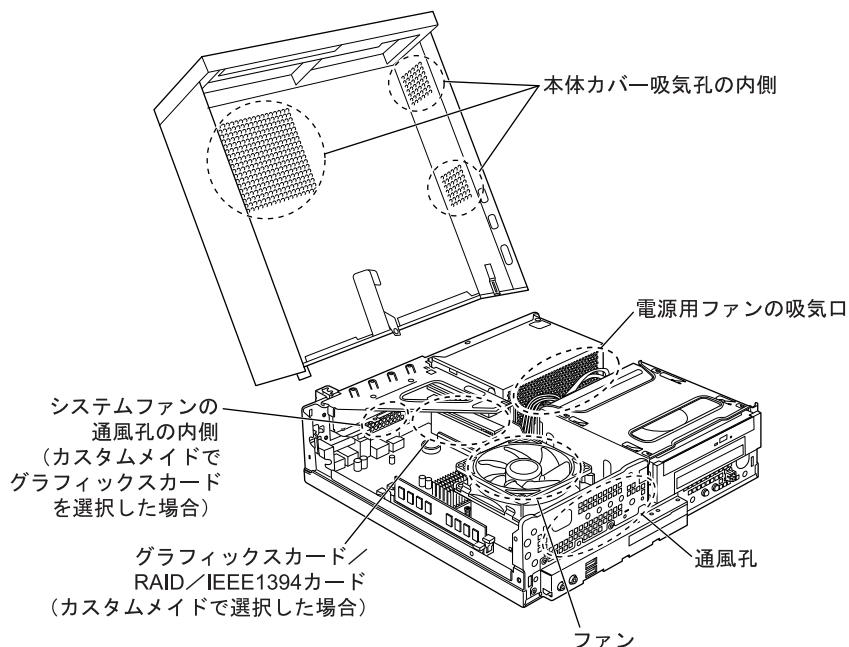
重要

- ▶ 拭き取るときは、ワークステーション本体に水が入らないよう充分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。ワークステーション本体を損傷する原因となります。
- 吸気口などのほこりは、掃除機で吸い取ってください。

ワークステーション本体内部

■ ほこりがたまりやすい箇所

次のイラストの箇所にほこりがたまらないよう、定期的に清掃してください。



■ お手入れのしかた

◀ 重要

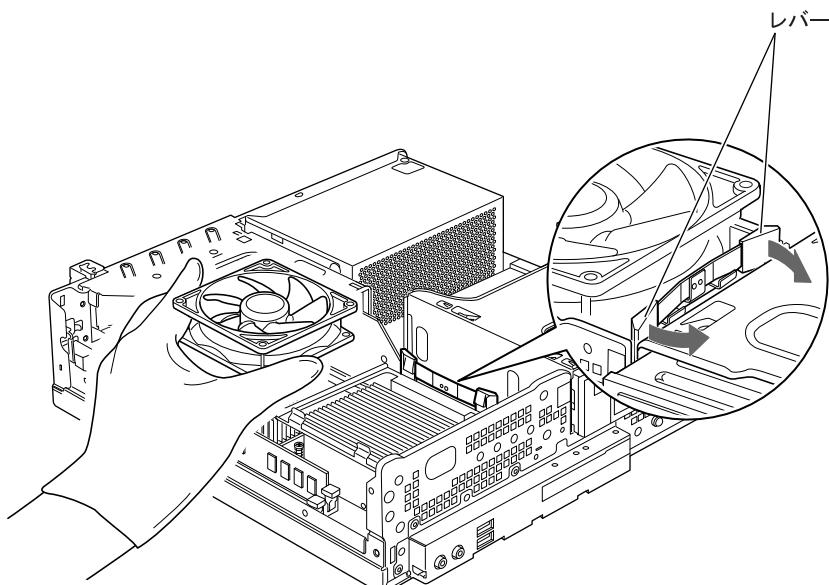
- ▶ 清掃前には必ずワークステーション本体や周辺機器の電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。感電のおそれがあります。
- ▶ ワークステーション本体内部のファンの羽根、およびその他のワークステーション本体内部の突起物には、極力手を触れないでください。異音や故障の原因となります。
- ▶ ワークステーション本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れたり金属質のものに掃除機の吸引口先端を触れさせたりして、静電気を放電してください。ワークステーション本体内部は静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまたま静電気によって破壊される場合があります。
- ▶ 洗剤を使用しないでください。故障の原因となります。
- ▶ 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。

1 本体カバーを取り外します。

本体カバーの取り外し方は、「周辺機器の設置／設定／増設」－「本体カバー」（→P.82）をご覧ください。

2 レバーを操作してファンを外し、ファンの外枠のフレームを持って、ファンをヒートシンクから取り外します。

2本のレバーをつまむように押さえながら、ファンを持ち上げて取り外します。

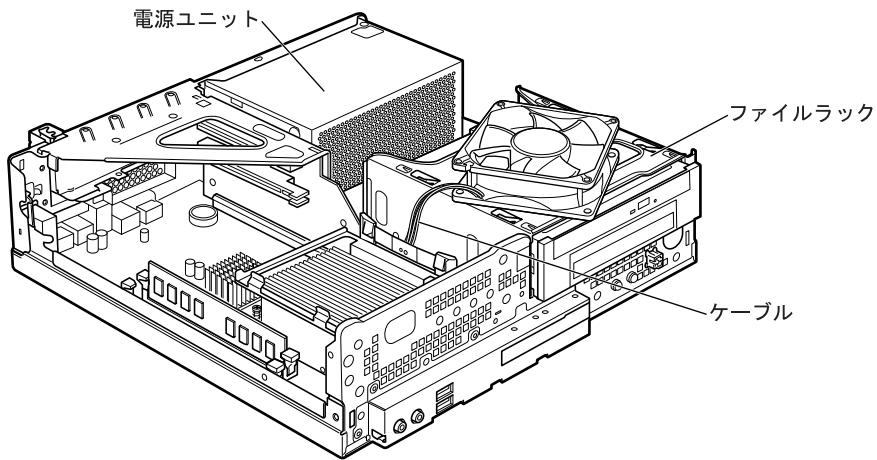


（これ以降のイラストは機種や状況により異なります）

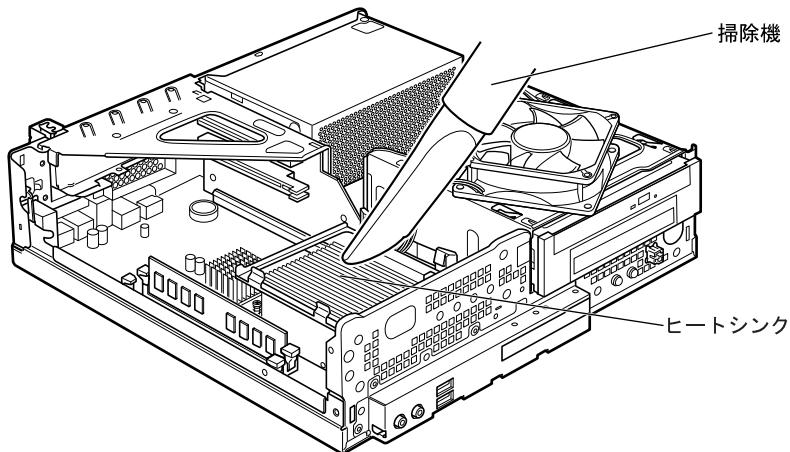
◀ 重要

- ▶ ファンダクトを持つときは、ファンの羽根に触れないようにしてください。

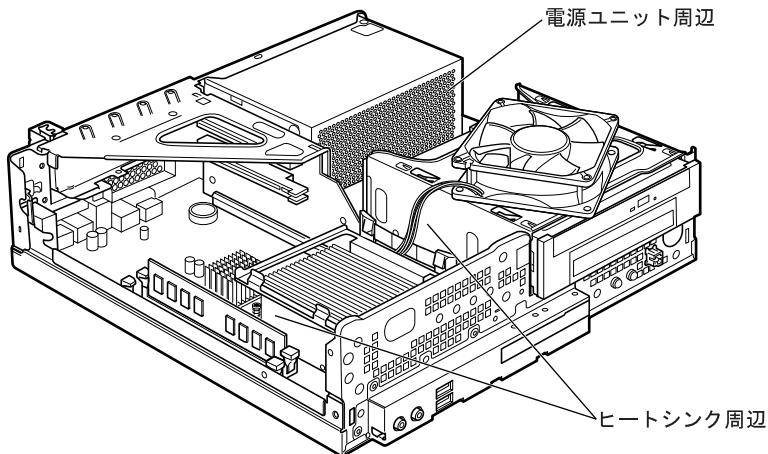
- 3** 取り外したファンを、電源ユニットまたはファイルラック部の上に置きます。
ファンのケーブルコネクタが抜けないように注意してください。強く引っ張るとケーブルコネクタが抜ける場合があります。



- 4** ヒートシンク上のほこりを、掃除機で吸い取ります。



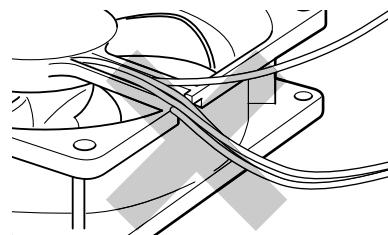
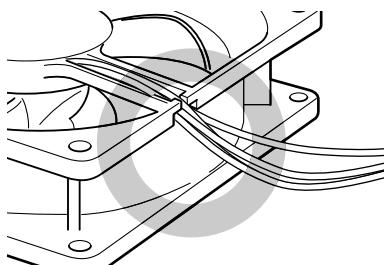
5 電源ユニット周辺やヒートシンク周辺のほこりを、掃除機で吸い取ります。



重要

- ▶ ヒートシンクに掃除機の吸引口を強くぶつけたり、綿棒やつまようじを使用してほこりを取ったりしないでください。ヒートシンクが変形する場合があります。
- ▶ 故障の原因となりますので、ヒートシンク周辺の電気部品には触れないようにご注意ください。

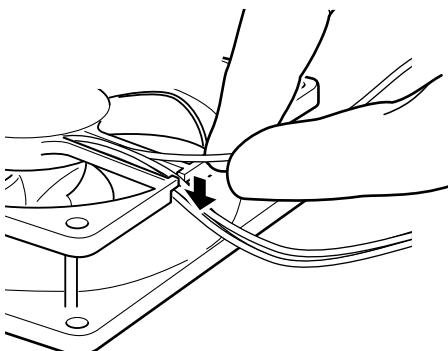
6 CPUファンのラベルがある面を表側に向け、CPUファンのケーブルが切り欠け部分から外れていないことを確認します。



ケーブルが切り欠け部分に入っている

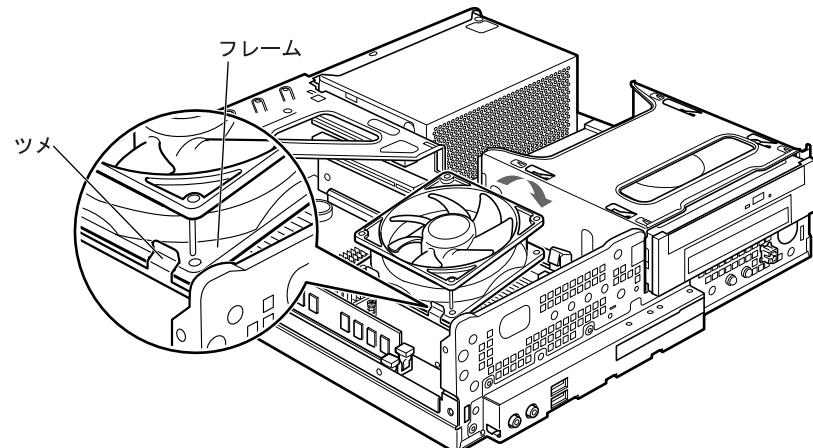
ケーブルが切り欠け部分から外れている

少しでも外れている場合は、外れているケーブルを切り欠けの中に入れてください。



7 ファンを、ヒートシンクの上に置きます。

ラベルのない面を上側に向け、ヒートシンクのツメ（2ヶ所）にファンのフレームを差し込んでから、ファンが固定されるまでしっかりと下ろしてください。



重要

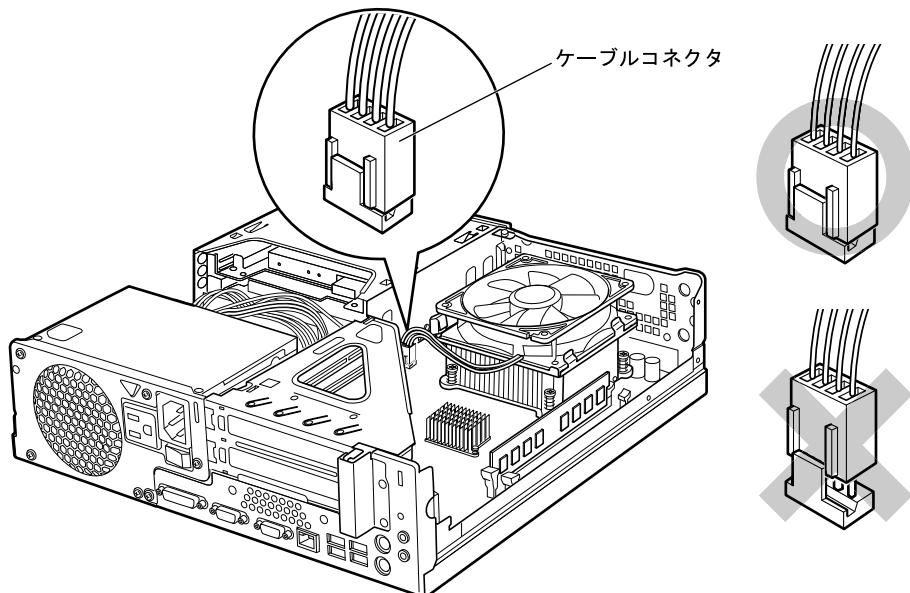
- ▶ ファンを置くときに、ケーブルをはさまないように気をつけてください。

8 ファンを固定します。

そのままファンを下に押し込みます。カチッと音がしてファンがレバーに固定されます。

9 ファンのケーブルコネクタがきちんと接続されていることを確認します。

少しでも外れていた場合は、きちんと接続してください。



10 本体カバーを取り付けます。

2 周辺機器のお手入れ

キーボード

■ キーボード表面の汚れ

- キーボード表面の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- 汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

■ 重要

- ▶ 拭き取るときは、キーボード内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

■ キーの間のほこり

キーボードの、キーとキーの間のほこりなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って、軽くほこりを取り除いてください。

■ 重要

- ▶ 清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。
- ▶ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。
- ▶ 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ▶ 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

マウス

7

■ マウス表面の汚れ

- マウスをお手入れするときは、ワークステーション本体からマウスを取り外し、表面の汚れを柔らかい布でから拭きしてください。
- 汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

■ 重要

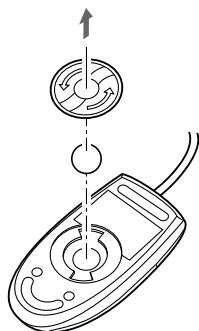
- ▶ 拭き取るときは、マウス内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

■ マウス (ボール)

マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。
ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

1 マウスの裏ブタを取り外します。

マウス底面にある裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。

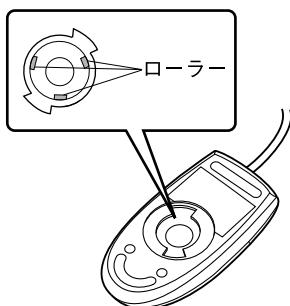


2 ボールを取り出して、水洗いします。

ボールを水洗いした後は、充分に乾燥させてください。

3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、および裏ブタを、水に浸して固く絞った布で拭きます。
ローラーは、綿棒で拭きます。



4 ボールと裏ブタを取り付けます。

ボールとマウスの内部を充分乾燥させたら、ボールと裏ブタを取り付けます。

8

第8章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことが
あったときの対処方法について説明していま
す。

1	トラブル発生時の基本操作	176
2	よくあるトラブルと解決方法	182
3	それでも解決できないときは	210

1 トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

落ち着いて状況を確認する

トラブルが発生したときは、落ち着いて、直前に行った操作や現在のコンピューターの状況を確認しましょう。

■ メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■ 本ワークステーションや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本ワークステーションや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？ またゆるんだりしていませんか？
 - 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
 - OAタップを使用している場合、OAタップ自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
 - 使用する装置の電源はすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
 - キーボードの上にものを載せていませんか？
キーが押され、本ワークステーションが正常に動作しないことがあります。
- この他、「起動・終了時のトラブル」(→P.184) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いつたん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
 - ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。
- その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

■ セーフモードで起動する

問題が発生した周辺機器を取り外したり、ソフトウェアなどをアンインストールしたりしてもWindowsが起動しない場合は、セーフモードで起動できるか確認してください。セーフモードは、Windowsが正常に起動できないとき、必要最低限の機能で起動するモードです。そのためトラブルの原因を突き止めるのに適しています。

起動方法は次のとおりです。

1 本ワークステーションの電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。

「詳細ブートオプション」または「Windows拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。

3 次の操作を行います。

● Windows 7の場合

1. 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
2. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windowsヘルプとサポート」ウィンドウが表示されます。

● Windows XPの場合

1. 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
2. お使いのWindowsが選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。
3. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
「Administratorパスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windowsはセーフモードで実行されています。」と表示されます。
4. 「はい」をクリックします。

■ Windowsを「前回正常起動時の構成」に戻す

セーフモードで起動できない場合は、次の手順で前回起動時の構成に戻してみてください。

1 本ワークステーションの電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。

「詳細ブートオプション」または「Windows拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。

3 「前回正常起動時の構成（詳細）」または「前回正常起動時の構成（正しく動作した最新の設定）」を選択し、【Enter】キーを押します。

画面の指示に従って操作します。

トラブルシューティングで調べる

「よくあるトラブルと解決方法」(→P.182)は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

インターネットで調べる

弊社の富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) では、本ワークステーションに関連したサポート情報やドライバーを提供しております。また、注意事項や補足情報を公開しています。解決方法がないかご覧ください。

診断プログラムを使用する

Windows が起動しなくなったときは、BIOS の起動メニューから診断プログラムを使用することで、コンピューターの障害箇所を診断できます。

診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお問い合わせのときにお知らせください。

診断時間は通常5～10分程度ですが、診断するコンピューターの環境によっては長時間かかる場合があります。

※ 重要

- ▶ BIOS の設定をご購入時の状態に戻してください。
診断プログラムを使用する前に、必ず、BIOS をご購入時の状態に戻してください。詳しくは『取扱説明書』をご覧ください。
- ▶ 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
USB メモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

■ W480、W380の場合

「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」を用意してください。

また、CD/DVD ドライブが搭載されていない機種をお使いの場合は、ポータブル CD/DVD ドライブを接続してください。

ポータブル CD/DVD ドライブをお使いになる場合は、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syukou/>) をご覧ください。

1 本ワークステーションの電源を一度切り、再び電源を入れます。

2 「Fujitsu」ロゴの下に文字が表示されている間に【F12】キーを押します。
「Boot Menu」が表示されます。表示されない場合は、すぐに【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本ワークステーションを再起動してください。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、本ワークステーションの再起動後に【F12】キーを数回押してください。
- ▶ 「Boot Menu」が表示されない場合は、本ワークステーションを再起動しても一度操作してください。

3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「Diagnostic Program」を選択し、【Enter】キーを押します。

「診断プログラムを実行しますか？」と表示されます。

4 【Y】キーを押します。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にコンピューターが再起動する場合があります。

5 次の操作を行います。

● トラブルが検出されなかった場合

手順6に進んでください。

● トラブルが検出された場合

画面に表示された内容をメモなどに控え、お問い合わせのときにお伝えください。

その後、キーボードの【Y】キーを押してコンピューターの電源を切ってください。

6 「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」をセットして【Enter】キーを押します。

ワークステーションが再起動します。

7 「Fujitsu」ロゴの下に文字が表示されている間に【F12】キーを押します。

「Boot Menu」が表示されます。

8 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「SATA CD」または「USB CDROM」を選択し、【Enter】キーを押します。

「トラブル解決ナビ」が起動します。

9 「富士通ハードウェア診断ツール」を選んで「実行」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。

 **POINT**

▶ 本ワークステーションでは、「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウ内の「型名」と「製造番号」は表示されません。

10 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックして閉じます。

11 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

 **POINT**

▶ 「[ハードウェア名] に [媒体] をセットしてください」などと表示された場合、本ワークステーションに添付の、メッセージに表示されたディスク（「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」など）をセットして、「診断開始」をクリックしてください。診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

12 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には、メモなどに控え、お問い合わせのときにお伝えください。

13 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

14 「終了」をクリックします。

「終了」 ウィンドウが表示されます。

15 「はい」をクリックします。

「トラブル解決ナビ」 ウィンドウが表示されます。

16 「終了」をクリックします。

17 「トラブル解決ナビを終了します。」というメッセージが表示されたら、ディスクを取り出して「再起動」をクリックします。

ワークステーションが再起動して、診断プログラムが終了します。

■ J380の場合

1 本ワークステーションの電源を一度切り、再び電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されている間に【F12】キーを押します。
「起動メニュー」が表示されます。表示されない場合は、すぐに【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本ワークステーションを再起動してください。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、本ワークステーションの再起動後に【F12】キーを数回押してください。
- ▶ 「起動メニュー」が表示されない場合は、本ワークステーションを再起動してもう一度操作してください。

3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して、「診断プログラム」を選択し、【Enter】キーを押します。

「診断プログラムを実行しますか?」と表示されます。

4 【Y】キーを押します。

ハードウェア診断が始まります。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にコンピューターが再起動する場合があります。

5 次の操作を行います。

● トラブルが検出されなかった場合

【Enter】キーを押してください。「富士通ハードウェア診断ツール」 ウィンドウと「注意事項」 ウィンドウが表示されます。

手順6に進んでください。

● トラブルが検出された場合

画面に表示された内容をメモなどに控え、お問い合わせのときにお伝えください。

その後、キーボードの【Y】キーを押してコンピューターの電源を切ってください。

6 「注意事項」 ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックして閉じます。

7 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

 **POINT**

- ▶ 「[ハードウェア名] に [媒体] をセットしてください」などと表示された場合、「ドライブディスクを作成する」や「リカバリデータディスクを作成する」(→『取扱説明書』)で作成したディスクをセットして、「診断開始」をクリックしてください。診断を取りやめる場合は、「スキップ」をクリックしてください。

8 「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。

表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には、メモなどに控え、お問い合わせのときにお伝えください。

9 「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。

「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

10 「終了」をクリックします。

「終了」ウィンドウが表示されます。

11 「はい」をクリックします。

- 「システム回復オプション」ウィンドウが表示された場合

1. 「キャンセル」をクリックします。

コンピュータを再起動するメッセージが表示されます。

2. 「はい」をクリックします。

- 「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示された場合

1. 「終了」をクリックします。

「トラブル解決ナビを終了します。」というメッセージが表示されます。

2. 「再起動」をクリックします。

コンピューターが再起動して、診断プログラムが終了します。

サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「それでも解決できないときは」(→P.210)をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

2 よくあるトラブルと解決方法

トラブル一覧

■ 起動・終了時のトラブル

- 「電源が入らない」(→P.184)
- 「メッセージが表示された」(→P.184)
- 「ビープ音が鳴った」(→P.185)
- 「画面に何も表示されない」(→P.185)
- 「Windowsが起動しない」(→P.186)
- 「マウスが使えないため、Windowsを終了できない」(→P.187)
- 「Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない」(→P.187)

■ Windows・ソフトウェア関連のトラブル

- 「Windowsにログオンできない」(→P.188)
- 「プログラムが動かなくなってしまった」(→P.189)
- 「Windowsやソフトウェアの動作が遅くなった」(→P.189)
- 「省電力機能が実行されない」(→P.189)
- 「周辺機器の動作が不安定になった」(→P.189)
- 「システムのプロパティ」ウィンドウの「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャー」で、「不明なデバイス」がある」(→P.190)
- 「ソフトウェアのインストールが正常に行われない」(→P.190)
- 「画面右下の通知領域にソフトウェアのアイコンが表示されない」(→P.190)

■ ハードウェア関連のトラブル

□ BIOS

- 「管理者用パスワードを忘れてしまった」(→P.191)
- 「ユーザー用パスワードを忘れてしまった」(→P.191)
- 「ハードディスクパスワードを忘れてしまった」(→P.191)
- 「エラーメッセージが表示された」(→P.192)

□ メモリ

- 「仮想メモリが足りない」(→P.192)

□ 内蔵LAN

- 「ネットワークに接続できない」(→P.193)
- 「ネットワーククリソースに接続できない」(→P.195)
- 「同じ名前のネットワークアダプターが複数ある」(→P.195)
- 「1000BASE-Tを使用しているが、速度が遅い」(→P.196)

□ ハードディスク

- 「ハードディスクが使えない」 (→P.196)
- 「ハードディスクからカリカリ音がする」 (→P.196)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる」 (→P.197)
- 「ハードディスクに読み書きを行う操作をしていないのに、ディスクアクセスランプが定期的に点滅する」 (→P.198)

□ デバイス

- 次の「機器が使用できない」 (→P.198)
 - ・ USB
 - ・ IEEE1394a
 - ・ CD/DVD
 - ・シリアル
 - ・パラレル

□ CD/DVD

- 「ディスクからデータの読み出しができない」 (→P.199)
- 「ディスクが取り出せない」 (→P.199)
- 「WinDVDが起動しない」 (→P.199)
- 「DVDが再生されない、DVDの再生が円滑に行われない」 (→P.200)
- 「デジタルディスプレイに再生画面が表示されない」 (→P.200)
- 「DVDの再生音が小さい」 (→P.201)
- 「DVD-RAMディスクにデータが書き込めない(Windows XPの場合)」 (→P.201)
- 「ディスクへの書き込み速度が遅い」 (→P.201)
- 「CD/DVDに読み書きを行う操作をしていないのに、CD/DVDアクセスランプが定期的に点滅する」 (→P.201)

□ スマートカード

- 「スマートカードが使えない」 (→P.201)

□ ディスプレイ

- 「画面に何も表示されない」 (→P.202)
- 「ディスプレイの表示が見にくく」 (→P.202)
- 「表示が乱れる」 (→P.202)
- 「画面の両サイドが欠ける」 (→P.203)

□ サウンド

- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」 (→P.203)
- 「マイクからうまく録音ができない」 (→P.204)

□ キーボード

- 「キーボードから入力した文字が表示されない」 (→P.204)
- 「押したキーと違う文字が入力される」 (→P.204)
- 「キーボード上に水や液体をこぼしてしまった」 (→P.205)

□ マウス

- 「マウスポインターが動かない」 (→P.205)
- 「マウスポインターが正しく動作しない」 (→P.205)
- 「マウスの中ボタンが動作しない」 (→P.205)
- 「マウスが使えないため、Windowsを終了できない」 (→P.206)

□ USB

- 「USBデバイスが使えない」 (→P.206)
- 「USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」 (→P.207)

□ IEEE1394a

- 「IEEE1394aデバイスが使えない」 (→P.208)
- 「IEEE1394aデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される」 (→P.208)

□ プリンター

- 「プリンターを使用できない」 (→P.208)

□ その他

- 「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」 (→P.209)

起動・終了時のトラブル



電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
接続を確認してください。
- ワークステーション本体背面のメインスイッチはオンになっていますか？
- 電源スイッチのあるOAタップをお使いの場合、OAタップの電源は入っていますか？



メッセージが表示された

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、「BIOS」－「BIOSのエラーメッセージ」 (→P.160) をご覧ください。



ビープ音が鳴った

- 電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ビープ音が鳴る場合があります。ビープ音が鳴る原因と対処方法は、次のとおりです。
 - ・ビープ音によるエラー通知は、「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」のように、1回または連続したビープ音の組み合わせにより行われます。ここでは、ビープ音の回数の組み合わせを、「1-2-2-3」のように表記しています。
 - ・表の組み合わせ以外の鳴り方をした場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
 - ・グラフィックスカード上の ROM でエラーが発生した場合やメモリテストエラーの場合には、画面には何も表示されません。

ビープ音の回数		原因と対処方法
W480、W380	1-2	グラフィックスカードの初期化（認識）に失敗しました。 グラフィックスカードが正しく取り付けられているか確認してください。 また、Quadro FX 4800、Quadro FX 3800 をお使いの場合は、電源ケーブルが正しく取り付けられているか確認してください。 正しく取り付けられていても同じビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元に連絡してください。
J380	1 (「ピーッ」と鳴り続けます)	メモリにエラーが発生しました。 メモリが正しく取り付けられているか確認してください。 正しく取り付けられていても同じビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元にご連絡ください。
	5	グラフィックスカードの初期化（認識）に失敗しました。 グラフィックスカードが正しく取り付けられているか確認してください。 正しく取り付けられていても同じビープ音が鳴る場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」またはご購入元に連絡してください。



画面に何も表示されない

- ワークステーション本体の電源は入っていますか？
- ワークステーション本体背面のメインスイッチはオンになっていますか？
- メモリなどの周辺機器は正しく取り付けられていますか？
- デジタルディスプレイを使用する場合、ワークステーション本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？

- ディスプレイに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源スイッチは入っていますか？
 - ・ディスプレイケーブルは、正しく接続されていますか？
 - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
 - ・ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットまたはコンセントに接続されていますか？
 - ・ディスプレイのブライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
- 複数台のディスプレイを接続している場合、次の項目を確認してください。
 - ・ワークステーション本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？必ずワークステーション本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を入れてください。

ワークステーション本体の電源を入れた後にディスプレイの電源を入れると、画面が表示されないことがあります。そのような場合は、いったん電源を切ってから入れ直してください。
 - ・セットアップ前に、2台目のディスプレイを接続していませんか？必ずWindowsのセットアップが終了した後に接続してください。
 - ・「取り扱い」(→P.21)の「2台目のディスプレイ」をご覧になり、設定を確認してください。
- グラフィックスカードへの補助電源ケーブルを正しく接続していますか？

Quadro FX 4800およびQuadro FX 3800の場合、グラフィックスカードへの補助電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- メモリなどの周辺機器は正しく取り付けられていますか？



Windowsが起動しない

- 周辺機器を取り付けませんでしたか？
 - ・拡張カードの取り付けや取り外しを行うと、OSを読み込むデバイスの優先順位が変わり、Windowsが起動しないことがあります。この場合は、BIOSセットアップの「詳細」→「詳細設定」→「ハードディスク起動順位」で起動したいデバイスの順位を最上位に設定してください。
 - ・周辺機器が正しく取り付けられていないと、Windowsが起動しないことがあります。いったん周辺機器を取り外し、Windowsが起動するか確認してください(→P.176)。もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。
- セーフモードで起動できますか？

いったんセーフモードで起動し(→P.177)、問題を解決(ドライバーの再インストールなど)してください。
- Windows 7起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示された場合は、Windowsが起動するまでそのままお待ちください。

Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に「スタートアップ修復」ウィンドウが表示され、Windowsの修復が行われることがあります。修復後は自動的に再起動されます。
- Windows起動時にセーフモードになり「キーボードの選択」画面が表示された場合は、そのままセーフモードで起動してください。

Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本ワークステーションを再起動してください。

● 診断プログラムでコンピューターの診断をしてください (→P.178)。

診断結果をメモして、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

● 次の認証デバイスを使用してWindowsにログオンしている場合、認証デバイスのドライバーをアンインストールしないでください。

- ・スマートカードリーダ／ライタ
- ・セキュリティチップ

Windowsが正常に起動できなくなります。認証デバイスのドライバーをアンインストールする場合は、「SMARTACCESS/Basic」をアンインストールした後で行うようにしてください。アンインストール方法については、『SMARTACCESSファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

Windowsが正常に起動できなくなった場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」または、ご購入元にお問い合わせください。



マウスが使えないため、Windowsを終了できない

● キーボードを使ってWindowsを終了させることができます。

- ・Windows 7の場合

1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。

2. カーソルキーで「シャットダウン」を選択し、【Enter】キーを押して決定を行なうことでWindowsの終了操作を行います。

- ・Windows XPの場合

1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。

2. カーソルキーで「終了オプション」を選択し、【Enter】キーを押して決定を行なうことでWindowsの終了操作を行います。

マウスが故障している場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。



Windowsが動かなくなってしまい、電源が切れない

● 次の手順でWindowsを終了させてください。

1. ディスクアクセスランプやCD/DVDアクセスランプが点灯または点滅している場合は、ランプが消えるまで3分程度待ちます。

ハードディスクやCD/DVDが動作しているときに電源を切ってしまうと、ファイルが失われたり、ハードディスクが壊れたりするおそれがあります。ハードディスクやCD/DVDの動作が止まってから電源を切ってください。

それでもランプが消灯しない場合、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。動作が止まることがあります。

まだ動作が止まらない場合、「Windowsタスクマネージャー」から動作中のプログラムを終了させてください (→P.189)。

2. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。

3. Windowsを終了します。

・Windows 7の場合

表示された画面の右下にある「シャットダウン」をクリックします。

・Windows XPで「Windowsタスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合

「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。

・Windows XPで「Windowsのセキュリティ」ウィンドウが表示された場合

「シャットダウン」をクリックし、「Windowsのシャットダウン」ウィンドウが表示されたら、「シャットダウン」を選択して「OK」をクリックします。

 **POINT**

▶ 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。

▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→P.197）。

この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、30秒以上待ってから電源を入れてください。

Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関するトラブルを説明しています。トラブルにあわせてご覧ください。



Windowsにログオンできない

● セキュリティチップを使用し、「SMARTACCESS/Basic」による機器監査機能を使用している場合、ハードウェアの構成を変更すると、Windowsにログオンできなくなります。この場合、ハードウェアの構成を登録したときの設定に戻すか、機器構成を登録し直す必要があります。

機器監査機能については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

● セキュリティチップを使用してWindowsにログオンしている場合、BIOSセットアップの設定を次のようにすると、Windowsにログオンできなくなります。この場合、BIOSセットアップの設定を「使用する」に設定し直してください。

・「セキュリティ」メニュー→「TPM（セキュリティチップ）設定」→「セキュリティチップ」を「使用しない」に設定する。

● 認証デバイスを忘れたり、紛失したり、破損したりして、Windowsにログオンできないときは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。



プログラムが動かなくなってしまった

- 次の手順でプログラムを終了させてください。
 1. 【Ctrl】 + 【Shift】 + 【Esc】キーを押します。
「Windowsタスクマネージャー」ウィンドウが表示されます。
 2. 「アプリケーション」タブをクリックします。
 3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。

「Windowsタスクマネージャー」ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックして、
ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします(→P.197)。



Windowsやソフトウェアの動作が遅くなった

- カスタムメイドでHDD変更(SATA-RAID)を選択した場合、SATA-RAIDでリビルド中は充分なI/O処理性能が得られないため、ディスクアレイの状態によって、システムのパフォーマンスが低下します。
『SATA-RAIDをお使いの方へ』をご覧ください。



省電力機能が実行されない

- 電源オプションの設定を確認してください。
省電力機能について、詳しくは「取り扱い」－「スリープ／休止状態(Windows 7の場合)」(→P.64)、または「取り扱い」－「スタンバイ／休止状態(Windows XPの場合)」(→P.72)をご覧ください。



周辺機器の動作が不安定になった

- なんらかの理由でドライバーが削除されているか破損している場合があります。
「ソフトウェア」－「インストール」(→P.127)をご覧になり、ドライバーを再インストールしてください。



「システムのプロパティ」ウィンドウの「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャー」で、「不明なデバイス」がある

対象 J380

- 「FUJ02E3 デバイスドライバー」がインストールされていない可能性があります。「デバイスマネージャー」の「システムデバイス」に「Fujitsu FUJ02E3 DeviceDriver」が表示されているかどうかを確認してください。
表示されていない場合は、「FUJ02E3 デバイスドライバー」をインストールしてください。
インストール方法は次のとおりです。
「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」をセットし、「ドライバーズディスク検索ツール」(→P.127) の「ソフトウェア」から次のファイルを選択します。
 - Windows 7 Professional (32ビット版) の場合
「富士通拡張機能ユーティリティ」を選択し、表示されたフォルダー内の「Win7-32」フォルダー→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。
 - Windows 7 Professional (64ビット版) の場合
「FUJ02E3 デバイスドライバー」を選択し、表示されたフォルダー内の「FUJ02E3.txt」をご覧ください。
 - Windows XP の場合
「富士通拡張機能ユーティリティ」を選択し、表示されたフォルダー内の「WinXP-32」フォルダー→「FUJ02E3.txt」をご覧ください。
- インストール手順については「ソフトウェア」-「インストール」(→P.127)をご覧ください。



ソフトウェアのインストールが正常に行われない

- ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、ソフトウェアのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各ソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。



画面右下の通知領域にソフトウェアのアイコンが表示されない

- Windows を起動した後、通知領域に表示されるはずのソフトウェアのアイコンが表示されないことがあります。
通知領域にアイコンが表示されなかったソフトウェアをお使いになる場合は、次のいずれかの方法を実行してください。
 - ・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」の順にクリックし、表示されるメニューからソフトウェアを選択する
 - ・次の手順で、Windows を再起動する
 - Windows 7 の場合
「スタート」ボタン→[シャットダウン]の[再起動]→「再起動」の順にクリックする

- Windows XPの場合

「スタート」ボタン→「終了オプション」→「再起動」の順にクリックする

 **POINT**

- Windowsを起動した後、通知領域にアイコンが表示されなかった場合、ソフトウェアによっては起動できなかったことを通知するメッセージが表示されることがあります。この場合、メッセージに従って、Windowsを再起動してください。

ハードウェア関連のトラブル

■ BIOS



管理者用パスワードを忘れてしまった

- 管理者用パスワードを忘れると、BIOSセットアップを管理者権限で起動できなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。



ユーザー用パスワードを忘れてしまった

- ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。ワークステーションの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。パスワードの設定方法については、「BIOS」－「BIOSのパスワード機能を使う」(→P.154)をご覧ください。



ハードディスクパスワードを忘れてしまった

- ハードディスクパスワードを忘れる、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を解除できなくなったりします。この場合は、修理が必要になりますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。



エラーメッセージが表示された

- ワークステーション本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。エラーメッセージの内容と意味については、「BIOS」－「BIOSのエラーメッセージ」(→P.160)をご覧ください。

■ メモリ



仮想メモリが足りない

- 仮想メモリ（ページングファイル）を設定してください。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに充分な空き容量がないときは、別のドライブに設定してください。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

- ▶ 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、パーティションタイプを変更するか、ブートパーティション以外のパーティションに設定してください。

ファイル形式	ファイルサイズ上限	備考
NTFS	パーティションサイズと同じ	ご購入時のブートパーティション

- ▶ 仮想メモリを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。最良のシステム効率を得るには、「初期サイズ」に、「すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ」の「推奨」に表示されている数値以上の値を設定してください。システムの搭載メモリ総量の1.5倍の値に設定することをお勧めします。

ただし、メモリを大量に消費するソフトウェアを定期的に使用する場合は、必要に応じてサイズを大きい値に設定してください。

- Windows 7の場合

1. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます
3. 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
「システム」ウィンドウが表示されます。
4. 「システム」ウィンドウの左画面の「システムの詳細設定」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
5. 「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。

6. 「詳細設定」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」ウィンドウが表示されます。
 7. 「すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する」のチェックを外します。
 8. ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに充分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
 9. 「カスタムサイズ」をクリックし、「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
「初期サイズ」には「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」の「推奨」の値より大きい値を設定してください。
「最大サイズ」には「初期サイズ」に設定した値より大きい値を設定します。
 10. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
 11. 本ワークステーションを再起動します。
- Windows XPの場合
1. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
 2. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。
 4. 「詳細設定」タブをクリックします。
 5. 「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」ウィンドウが表示されます。
 6. ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに充分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
 7. 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
「初期サイズ」には「すべてのドライブの総ページングファイルサイズ」の「推奨」の値より大きい値を設定してください。
「最大サイズ」には「初期サイズ」に設定した値より大きい値を設定します。
 8. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
 9. 本ワークステーションを再起動します。

■ 内蔵LAN



ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか?
ワークステーション本体との接続、ハブとの接続を確認してください。

- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・使用するネットワーク環境に合ったケーブルをお使いください。
- LAN ドライバーは正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」－「インストール」(→P.127) をご覧になり、再インストールしてください。
- TCP/IP プロトコルをお使いの場合は、コマンドプロンプトで次のように入力し、「Reply from～」という応答が表示されるか確認してください。

```
ping nnn.nnn.nnn.nnn
```

(nnnには通信相手のIP アドレスを入力します)
- ハブに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源は入っていますか？
 - ・ACT/LNK ランプは点灯していますか？
 - ・Speed (1Gbps/100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、ワークステーション側の設定と合っていますか？
- 省電力状態（スリープ、スタンバイ、休止状態）にしませんでしたか？
LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、省電力状態（スリープ、スタンバイ、休止状態）にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。
設定方法については、「取り扱い」－「スリープ／休止状態（Windows 7の場合）」(→P.64)、または「取り扱い」－「スタンバイ／休止状態（Windows XPの場合）」(→P.72) をご覧ください。
- ネットワーク機器の電源をオンにしてから本ワークステーションの電源を入れてください。また、本ワークステーションをご使用中に LAN ケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。
ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度がおかしくなったりする場合があります。
例：1Gbps で通信していたのに 10Mbps の速度になる
ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、および LAN ケーブルで本ワークステーションとネットワーク機器が接続されていることをご確認後、ワークステーション本体を再起動してください。
- Link 速度を 100/10Mbps に固定して接続できます。Link 速度を固定して接続する場合、AutoNegotiation のみサポートしているネットワーク機器では、「デュプレックス」の設定は「半二重／Half Duplex」に設定してください。
「全二重／Full Duplex」に設定すると、次のような問題が発生する場合があります。
 - ・Link ランプが点灯しない
 - ・通信できない
 - ・通信速度が異常に遅い

△ 重要

- ▶ J380 の場合、Link 速度を 1Gbps に固定して接続することはできません。



ネットワークリソースに接続できない

- 各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。

一般的に、次の点を確認します。

- ・お使いのネットワークに適したコンポーネント（クライアント／サービス／プロトコル）をインストールしていますか？
- ・各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- ・サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- ・サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- ・サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？



同じ名前のネットワークアダプターが複数ある

- 複数LANカードを使用している場合、デバイスマネージャーで表示されるネットワークアダプターナーが同じ名前で表示され、ネットワークアダプターの判別が困難なため、設定環境の構築ができないことがあります。

この場合、次の手順によりネットワークアダプターを判別し、設定を行います。なお、設定内容については、ドライバーに添付されている「Readme.txt」および「Install.txt」を参照してください。

- ・Windows 7の場合

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「ネットワークとインターネット」をクリックします。
「ネットワークとインターネット」ウィンドウが表示されます。
3. 「ネットワークと共有センター」をクリックします。
「ネットワークと共有センター」ウィンドウが表示されます。
4. ウィンドウ左の「アダプターの設定の変更」をクリックします。
「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。
5. 使用しているどちらか片方のLANケーブルを外します。
LANケーブルを外すと、「ローカルエリア接続」に赤い×が表示されます。
6. 赤い×が表示された「ローカルエリア接続」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
7. 「構成」をクリックします。
「[お使いのLANデバイス] のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- ・Windows XPの場合

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
「ネットワークとインターネット接続」ウィンドウが表示されます。
3. 「ネットワーク接続」をクリックします。
「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。

4. 使用しているどちらか片方のLANケーブルを外します。
LANケーブルを外すと、「ローカルエリア接続」に赤い×が表示されます。
5. 赤い×が表示された「ローカルエリア接続」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
6. 「構成」をクリックします。
「[お使いのLANデバイス] のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

 **POINT**

- ▶ LANデバイスの設定は、「詳細設定」タブで行います。
- ▶ ドライバーの更新は、「ドライバー」タブで行います。



1000BASE-Tを使用しているが、速度が遅い

- LANデバイスで速度は正しく設定されていますか？
- お使いのネットワークケーブルやハブは1000BASE-Tに対応していますか？
- 通信相手の機器は1000BASE-Tに対応していますか？
- ネットワーク機器の電源をオンにしてから本ワークステーションの電源を入れてください。また、本ワークステーションをご使用中にLANケーブルを抜いたり、ネットワーク機器の電源をオフにしたりしないでください。

ネットワーク機器との接続ができなくなったり、通信速度がおかしくなったりする場合があります。

例：1Gbpsで通信していたのに10Mbpsの速度になる

ネットワーク機器との接続ができない場合は、ネットワーク機器の電源が入っていること、およびLANケーブルで本ワークステーションとネットワーク機器が接続されていることを確認後、ワークステーション本体を再起動してください。

■ ハードディスク



ハードディスクが使えない

- エラーメッセージは出ていますか？
「BIOS」—「BIOSのエラーメッセージ」(→P.160)をご覧ください。



ハードディスクからカリカリ音がする

- 次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
 - ・ Windowsを終了した直後
 - ・ 省電力状態（スリープ、スタンバイ、休止状態）にした直後
 - ・ ワークステーションの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）

- ・中断した状態から再度ワークステーションを操作させた場合
 - ・ワークステーションを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
- これらはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。



頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

● 次の手順でハードディスクをチェックしてください。

1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
2. 「スタート」ボタン→「コンピューター」または「マイコンピュータ」の順にクリックします。
3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。
5. 必要に応じて「チェックディスクのオプション」内の項目にチェックを付けて、「開始」をクリックします。

チェック後は、内容を確認し、「閉じる」または「OK」をクリックしてすべてのウィンドウを閉じます。

修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください（→『取扱説明書』）。

「チェックディスクのオプション」内の項目については、次をご覧ください。

- ・「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」にチェックを付けてCドライブを検査する場合

「次回コンピューター起動時にハードディスクのエラーを検査しますか？」または「次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか？」と表示されます。

「ディスク検査のスケジュール」または「はい」をクリックすると、次回Windows起動時にエラーのチェックが行われます。

- ・上記以外の項目にチェックを付けた場合
ディスクのチェックが開始されます。

終了すると、検査結果のメッセージが表示されます。

● Cドライブの空き容量が充分か確認してください。

Windowsのシステムファイルが格納されているCドライブの空き容量が少ないと、Windowsの動作が不安定になることがあります。

Cドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やすしてください。

空き容量を増やすには次のような方法があります。

- ・ごみ箱を空にする
ファイルを削除しても「ごみ箱」に移動されるだけなので、ハードディスクの中にはデータが残っています。
- 「ごみ箱」を空にしてください。

- 不要なファイルを削除する

自分で作成したファイルのうち、不要になったファイルを削除します。

ファイルのサイズや最後に更新した日付などを確認しながら削除してください。

自分で作ったファイル以外は、削除しないことをお勧めします。内容がよくわからないファイルをむやみに削除してしまうと、他のソフトウェアが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

- 不要なソフトウェアを削除する

普段使用していないソフトウェアがある場合は削除します。

- 「ディスクのクリーンアップ」をする

インターネットからダウンロードしたプログラムファイル、テンポラリインターネットファイル、削除して「ごみ箱」に移動したファイル、一時ファイル、カタログファイルなど、たまたま使用済みファイルの容量を確認し、不要なものを選択して削除できます。

- 実行中のプログラムをすべて終了します。

- 「スタート」ボタン→「コンピューター」または「マイコンピュータ」の順にクリックします。

- 「ローカルディスク (C:)」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

- 「全般」タブをクリックし、「ディスクのクリーンアップ」をクリックします。

「ディスククリーンアップのオプション」ウィンドウが表示された場合は、クリーンアップを行うファイルをクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。

- 「削除するファイル」内の項目にチェックを付けて、「OK」をクリックします。

- 「ファイルの削除」をクリックします。



ハードディスクに読み書きを行う操作をしていないのに、ディスクアクセスランプが定期的に点滅する

- これは本ワークステーションの仕様です。故障ではありませんので、そのままご使用ください。

■ デバイス



機器が使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？

次の機器が使用できない場合は、システム管理者に「Portshutter」のポート設定が有効になっているか確認してください。

情報漏えいや不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。

- USB
- IEEE1394a
- CD/DVD
- シリアル
- パラレル

■ CD/DVD



ディスクからデータの読み出しができない

- ディスクが正しくセットされていますか?
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。詳しくは、「取り扱い」－「ディスクをセットする／取り出す」(→P.36)をご覧ください。
- ディスクが汚れていますか、水滴が付いたりしていませんか?
汚れたり水滴が付いたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ディスクが傷付いていたり、極端に反っていたりしませんか?
ディスクを交換してください。
- 規格外のディスクを使用していませんか?
規格にあつたディスクをお使いください。詳しくは、「取り扱い」－「使用できるディスク」(→P.33)をご覧ください。
- ドライブはワークステーション本体にしっかり装着されていますか?
しっかり装着し直してください。



ディスクが取り出せない

- ワークステーション本体は動作状態になっていますか?
本ワークステーションの内蔵ドライブは電子ロックのため、ワークステーション本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。
なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、「取り扱い」－「ディスクが取り出せなくなったら」(→P.38)をご覧ください。



WinDVDが起動しない

- 市販されているウイルス対策ソフトを起動していませんか?
市販されているウイルス対策ソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。ウイルス対策ソフトを終了してから、「WinDVD」を起動してください。なお、本ワークステーションに添付の「Norton AntiVirus」は問題ありません。
- 自動検索機能付のウイルス対策ソフト（市販）をインストールしていませんか?
自動検索機能付のウイルス対策ソフトをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。
ウイルス対策ソフトをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。なお、本ワークステーションに添付の「Norton AntiVirus」は問題ありません。



DVDが再生されない、DVDの再生が円滑に行われない

- 管理者権限をもったユーザーとしてログオンしてからインストールしましたか？

いったんアンインストールしてから管理者権限をもったユーザーとしてログオンし直し、再インストールしてください。

インストール方法およびアンインストール方法については、「ソフトウェア」－「インストール」(→P.127)をご覧ください。

- Wave音源の再生、またはAVIファイルなどの映像再生をしていませんか？

Wave音源またはAVIファイルなどの映像と同時再生はできません。

- 電源オプションを確認し、ハードディスクの電源が切れないように設定してください。

ただし、この設定では電力の消費量が多くなりますので、ご注意ください。

- Windows 7の場合

「取り扱い」－「スリープ／休止状態の設定を変更する」(→P.69)をご覧になり、「プラン設定の編集」ウィンドウを表示します。

「詳細な電源設定の変更」をクリックし、「電源オプション」ウィンドウを表示します。

「詳細設定」タブの「ハードディスク」で「次の時間が経過後ハードディスクの電源を切る」を「なし」にしてください。

- Windows XPの場合

「取り扱い」－「スタンバイ／休止状態の設定を変更する」(→P.77)をご覧になり、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウを表示します。

「電源設定」タブで、変更したい電源設定の「ハードディスクの電源を切る」を「なし」にしてください。



デジタルディスプレイに再生画面が表示されない

- HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) に対応していないデジタルディスプレイをDVI-Iコネクタに接続して使用していませんか？

HDCPに対応していないディスプレイには、著作権保護のされた映像を再生できません。

HDCPに対応したデジタルディスプレイをお使いください。またはアナログディスプレイをお使いください。

また、DVDの再生にはHDCPに対応した「WinDVD」をお使いください。スーパーマルチドライブ搭載機種に添付される「WinDVD」はHDCPに対応しています。

なお、「WinDVD」での再生時は、2台のディスプレイに同時に表示することはできません。



DVDの再生音が小さい

- ワークステーション本体のボリュームの設定は正しいですか？

DVDディスクによっては音のレベルが小さく録音されているものがあります。「取り扱い」—「音量（Windows 7の場合）」（→P.56）、または「取り扱い」—「音量（Windows XPの場合）」（→P.59）をご覧になり、音量を調節してください。



DVD-RAMディスクにデータが書き込めない（Windows XPの場合）

- FAT32形式でフォーマットされていますか？

UDF形式でフォーマットされたディスクは、Windows XPでは書き込めません。FAT32形式でフォーマットされたディスクをお使いください。



ディスクへの書き込み速度が遅い

- ウィルス対策ソフトなどを常駐させていませんか？

ウィルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視をしている状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。



CD/DVDに読み書きを行う操作をしていないのに、CD/DVDアクセスマップが定期的に点滅する

- これは本ワークステーションの仕様です。故障ではありませんので、そのままご使用ください。

■ スマートカード



スマートカードが使えない

対 象 スマートカードリーダ／ライタ搭載機種

- スマートカードがスマートカードリーダ／ライタに正しくセットされていますか？

スマートカードは、専用のスマートカードリーダ／ライタにセットしてお使いください。

■ ディスプレイ



画面に何も表示されない

- 「起動・終了時のトラブル」(→P.184) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。

- 省電力状態になっていませんか？

ワークステーション本体の電源ランプがオレンジ色になっている場合は、スリープまたはスタンバイに移行しています。また、電源ランプが消灯している場合は、休止状態に移行しています。ワークステーション本体の電源ボタンを押してください。電源ボタンを押してから30秒以上たっても画面に何も表示されない場合、キーボードかマウスから入力を行うと画面が表示されます。それでも表示されない場合は電源ボタンを4秒以上押し続け、電源を一度切ってください。この後、すぐに電源を入れる場合は、30秒以上時間をあけてください。

- 電源ボタンを押す以外の方法で本ワークステーションをスリープまたはスタンバイからリュームさせた場合、画面は表示されないことがあります。

詳しくは、「取り扱い」-「スリープ／休止状態の使い方」(→P.67) または「取り扱い」-「スタンバイ／休止状態の使い方」(→P.75) をご覧ください。

マウスを動かすか、どれかキーを押してください。画面が表示されます。

- HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) に対応していないデジタルディスプレイを使用し、著作権保護のされた映像を再生していませんか？

HDCPに対応したデジタルディスプレイをお使いください。

また、DVDの再生にはHDCPに対応した「WinDVD」をお使いください。スーパーマルチドライブ搭載機種に添付される「WinDVD」はHDCPに対応しています。

なお、「WinDVD」での再生時は、2台のディスプレイに同時に表示することはできません。



ディスプレイの表示が見にくく

- ディスプレイは見やすい角度になっていますか？

ディスプレイの角度を調節してください。

- 明るさなどを調節しましたか？

明るさを明るさ調節ボタンで調節してください。



表示が乱れる

- Windowsの画面が正常に表示されない場合は、次のように操作してください。

『取扱説明書』をご覧になり、ディスプレイドライバーを再インストールしてください。

Windowsが起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください(→P.177)。

- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ウィンドウの右上にある「最小化」をクリックし、ソフトウェアを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたソフトウェアのボタンをクリックします。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。
 - ・Windows起動時および画面の切り替え時
 - ・DirectXを使用した一部のソフトウェア使用時

- お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD系ソフトウェアなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。この場合、解像度を下げる、またはリフレッシュレートを下げることで改善する場合があります。
- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やWindowsの省電力状態（スリープ、スタンバイ、休止状態）にする設定は行わないでください。
- お使いのグラフィックスカードによっては、画面のプロパティにおいて、一部文字化けがありますが、動作には支障はありません。
- Windows XPで、OpenGLを使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態や休止状態への移行はできません。
- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやワークステーション本体から離して置いてください。
- Dual Link対応ディスプレイをお使いの場合は、必ずディスプレイ付属のケーブル（Dual Link対応）をお使いください。
ディスプレイ添付のケーブル（Dual Link対応）を使用しないと正しく表示されません。



画面の両サイドが欠ける

- 使用しているディスプレイの調整ボタンなどで、水平画面サイズを調整してください。

■ サウンド



スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

8

- 外付けスピーカーに関して次の項目を確認してください。
 - ・ワークステーション本体と正しく接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
 - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
 - ・ヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- 音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください。
詳しくは、「取り扱い」-「音量（Windows 7の場合）」（→P.56）、または「取り扱い」-「音量（Windows XPの場合）」（→P.59）をご覧ください。

- 音が割れる場合は、音量を小さくしてください。
- サウンドドライバーが正しくインストールされていますか？
必要に応じて、「ソフトウェア」－「インストール」(→P.127)をご覧になり、再インストールしてください。



マイクからうまく録音ができない

- 音量は調節されていますか？

音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、「取り扱い」－「音量 (Windows 7の場合)」(→P.56)、または「取り扱い」－「音量 (Windows XPの場合)」(→P.59)をご覧ください。

■ キーボード



キーボードから入力した文字が表示されない

- キーボードは正しく接続されていますか？



押したキーと違う文字が入力される

- 【Num Lock】キーや【Caps Lock】キーが有効になっていませんか？

キーボード上のインジケーターで、【Num Lock】キーや【Caps Lock】キーが有効になっていないか確認してください。

- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？

次の手順で確認してください。

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 次の操作を行います。
 - Windows 7の場合
「表示方法」で「大きいアイコン」または「小さいアイコン」を選択します。
 - Windows XPの場合
「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
3. 「キーボード」をクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。
5. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。



キーボード上に水や液体をこぼしてしまった

- キーボード上に水などの液体がこぼれてしまった場合は、すぐにワークステーション本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
また、キーボード上の液体は、キーボードを水平にしたまま、乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
その後必ず、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」に点検を依頼してください。

■ マウス



マウスポインターが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？
- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？(光学式マウスおよびレーザー式マウス以外の場合)
マウス内部をクリーニングしてください。詳しくは、「お手入れ」 - 「マウス」(→P.173)をご覧ください。
- 光学センサー部分が汚れていませんか？(光学式マウスおよびレーザー式マウスの場合)
光学センサー部分をクリーニングしてください。



マウスポインターが正しく動作しない

対象 光学式マウスおよびレーザー式マウスの場合

- 次のようなものの上で操作していませんか？
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの



マウスの中ボタンが動作しない

対象 3ボタンマウス

- 3ボタンマウスの中ボタンは、3ボタン対応ソフトウェアを使用しているときにのみ動作します。通常は中ボタンは機能しません。



マウスが使えないため、Windowsを終了できない

- キーボードを使用してWindowsを終了してください（→P.187）。

■ USB



USBデバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- USBデバイスがUSBハブを経由して接続されていませんか？
USBハブを経由すると問題が発生する場合があります。USBデバイスを本体のUSBコネクタに直接接続してみてください。
- USBデバイスに不具合はありませんか？
USBデバイスに不具合がある場合、Windowsが正常に動作しなくなることがあります。
コンピューターを再起動して、USBデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USBデバイスのご購入元にご連絡ください。
- 次の手順で「USBルートハブ」のプロパティを確認してください。
 - Windows 7の場合
 1. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
 2. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 3. 「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャ」の順にクリックします。
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラー」をダブルクリックし、「USB Root Hub」をダブルクリックします。
「USB Root Hubのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 5. 「電源の管理」タブをクリックします。
 6. 「電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」のチェックを外して「OK」をクリックします。
 7. 他の「USB Root Hub」にも手順4～6と同じ設定をします。
 8. すべての画面を閉じます。
 - Windows XPの場合
 1. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

3. 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。
「USB ルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「電源の管理」タブをクリックします。
5. 「電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」のチェックを外して「OK」をクリックします。
6. 他の「USB ルートハブ」にも手順4～6と同じ設定をします。
7. すべての画面を閉じます。

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.198）



USBデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認する と「!」が表示される

- デバイスドライバーに問題はありませんか？インストールされていますか？
必要なドライバーをインストールしてください。
- 外部から電源が供給されないUSBデバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？
次の手順でUSBコネクタの電力使用状況を確認してください。
 - Windows 7の場合
 1. 管理者権限をもったユーザーとしてログオンします。
 2. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 3. 「ハードウェアとサウンド」→「デバイスマネージャー」の順にクリックします。
「ユーザー アカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。
「デバイスマネージャー」ウィンドウが表示されます。
 4. 「ユニバーサルシリアルバスコントローラー」をダブルクリックし、「USB Root Hub」をダブルクリックします。
「USB Root Hub のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 5. 「電力」タブをクリックし、USBバスの電力使用状況がデバイスマネージャーで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
 6. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。
 - Windows XPの場合
 1. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。
「USB ルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「電力」タブをクリックし、USBバスの電力使用状況がデバイスマネージャーで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
 5. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。
- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？（→P.198）

■ IEEE1394a



IEEE1394aデバイスが使えない

- 長すぎるケーブルを使用していませんか?
長さ4.7m以内のケーブルをお使いください。
- IEEE1394aデバイスが表示されていますか?
IEEE1394aデバイス接続後、IEEE1394aデバイスがデバイスマネージャーに一度表示され、すぐに表示されなくなることがあります。
この場合、IEEE1394aデバイス側の電源の管理機能がコンピューターに誤って認識されることがあります。IEEE1394aデバイス側の電源設定を変更してください。
- IEEE1394aデバイスに不具合はありませんか?
IEEE1394aデバイスに不具合がある場合、Windowsが動かなくなります。
ワークステーションを再起動して、IEEE1394aデバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、IEEE1394aデバイスのご購入元にご連絡ください。



IEEE1394aデバイスが使えず、「デバイスマネージャー」で確認すると「!」が表示される

- デバイスのドライバーが正しくインストールされていますか?
お使いになるIEEE1394aデバイスに添付されているマニュアルをご覧になり、正しい手順でドライバーをインストールしてください。なお、すでにインストール済みの場合はドライバーを一度削除し、再度インストールしてください。

■ プリンター



プリンターを使用できない

- 次の点を確認してください。
 - ・ケーブルは正しく接続されていますか?
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか?
 - ・プリンターの電源は入っていますか?
 - ・プリンタードライバーは正しくインストールされていますか?
プリンターのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
 - ・ネットワークプリンターの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか?
 - ・ネットワークプリンターの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか? (→P.193)
 - ・「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか? (→P.198)

■ その他



使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_support.html) で公開しています。必要に応じてご覧ください。

3 それでも解決できないときは

お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本ワークステーションに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。

- Norton AntiVirus

株式会社シマンテック

シマンテック・テクニカル・サポートセンター

- ・本センターは技術的なお問い合わせ用の窓口です。
- ・ご利用期間は更新期間（90日間）となります。

（更新サービス延長のお申し込みをいただくと、引き続き本サポートをご利用いただけます。）

詳しくは、製品別サポートページ (<http://symss.jp>) を参照のうえ、お問い合わせください。
更新サービス延長のお申し込みは、サポートセンターとは異なるお問い合わせ先になります。

シマンテック・ストア

URL : <http://www.symantecstore.jp/users.asp>

- i-フィルター

デジタルアーツ株式会社

デジタルアーツ株式会社 サポートセンター

電話：月～金／03-3580-5678、土・日・祝祭日／0570-00-1334

受付時間：月～金／10:00～18:00、土・日・祝祭日／10:00～20:00

（年末年始、指定休業日を除く）

URL : <http://www.daj.jp/faq/>

お問い合わせフォーム : <http://www.daj.jp/ask/>

90日間の試用期間中、サポートいたします。

- Adobe Reader

ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

- Windows Live メール

マイクロソフト株式会社「Windows Live™ Solution Center へようこそ」の Windows Live メールのヘルプページ (<http://www.windowslivehelp.com/> ページで「Mail Client」をクリック) からお問い合わせください。

- Mail Client ポータルの解決策、フォーラム、および語句検索から疑問点の解決方法を検索します。
- 疑問点の解決方法を検索し、解決しないときは各ページの「質問する」リンクからお問い合わせください。
- ソフトウェア（カスタムメイド）
各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

Memo

第9章

仕様一覧／技術情報

仕様やコネクタピン配置などを記載しています。

1 本体仕様	214
2 その他の仕様	221

1 本体仕様

標準モデル (J380)

製品名称		CELSIUS J380											
CPU ^{注1}		Intel® Xeon®		インテル® Core™									
		プロセッサー X3470	プロセッサー X3460	i5-660 プロセッサー	i5-550 プロセッサー	i3-540 プロセッサー							
		2.93GHz	2.80GHz	3.33GHz	3.20GHz	3.06GHz							
キャッシュメモリ (CPU内蔵)		2次: 256KB × 4 3次: 8MB		2次: 256KB × 2 3次: 4MB									
チップセット		インテル® 3450											
システムバス		2.5GT/s DMI ^{注2}											
メインメモリ	Windows 7 Professional (32ビット版)	標準1GB (1GB × 1) ^{注3} (240ピン PC3-10600 DDR3 SDRAM DIMM CL9) ECCあり 最大4GB ^{注4}											
	Windows 7 Professional (64ビット版)	標準2GB (1GB × 2) ^{注5} (240ピン PC3-10600 DDR3 SDRAM DIMM CL9) ECCあり 最大8GB											
	Windows XP Professional	標準1GB (1GB × 1) ^{注3} (240ピン PC3-10600 DDR3 SDRAM DIMM CL9) ECCあり 最大4GB ^{注4}											
メモリスロット ^{注6}	Windows 7 Professional (32ビット版)	× 2 (空きスロット × 1)											
	Windows 7 Professional (64ビット版)	× 2 (空きスロット × 0)											
	Windows XP Professional	× 2 (空きスロット × 1)											
表示機能	グラフィックスアクセラレータ	注7	Intel® HD Graphics (CPU内蔵) ^{注8}										
	ビデオメモリ		最大251MB (メインメモリと共に) ^{注9注10}										
	Windows 7 Professional (32ビット版)		最大763MB (メインメモリと共に) ^{注9注11}										
	Windows 7 Professional (64ビット版)		最大256MB ^{注9注12}										
	Windows XP		最大2560 × 1600 ドット / 最大 1677 万色 ^{注9}										
	解像度 / 発色数		10 ^{注9}										
	DirectX		9.0c										
	OpenGL		2.1 ^{注9}										
ハードディスクドライブ ^{注13}		160GB ^{注14} (シリアルATA/300 ^{注15} 、7200rpm)											
CD/DVDドライブ ^{注16}		内蔵CD/DVDドライブ ^{注17}											
オーディオ機能	オーディオコントローラー	チップセット内蔵 + High Definition Audio コーデック											
	PCM録音再生機能	サンプリング周波数 最大192kHz、24ビットステレオ (再生時) ^{注18} サンプリング周波数 最大96kHz、16ビットステレオ (録音時) ^{注18} 同時録音再生機能											
	MIDI再生機能	OS標準機能にてサポート											
通信機能	LAN	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T準拠、Wake up on LAN対応 ^{注19}											
セキュリティ機能	スマートカード ^{注16}	あり											
	セキュリティチップ	TCG Ver1.2 準拠 ^{注20}											
	盗難防止用ロック取り付け穴	あり											
	筐体施錠	あり											

製品名称		CELSIUS J380									
インターフェース	外部ディスプレイ ^{注21}	アナログ デジタル	なし 注7	アナログRGBミニD-SUB15ピン×1 DVI-D (DVI-D準拠 ^{注22} 、HDCP対応 ^{注23}) 24ピン×1							
	シリアル ^{注24}	非同期RS-232C準拠D-SUB9ピン×1(16550A互換)									
	キーボード/マウス	PS/2準拠ミニDIN6ピン(キーボード用×1、マウス用×1)									
	USB ^{注25}	USB2.0準拠×6(前面×2、背面×4)									
	IEEE1394a ^{注16注26}	なし	4ピン(S400)×1、背面×1								
	LAN	RJ-45×1									
	オーディオ	マイク: φ3.5mmミニジャック(前面×1) (入力: 100mV以下、入力インピーダンス(AC) 5kΩ以上(DC) 2kΩ以上)、 ヘッドホン: φ3.5mmステレオ・ミニジャック(前面×1) (出力: 1mW以上、負荷インピーダンス32Ω)、 ラインイン: φ3.5mmステレオ・ミニジャック(背面×1)、 ラインアウト: φ3.5mmステレオ・ミニジャック(背面×1)									
自己診断(POST)時		CPUファン停止									
拡張スロット数		PCI Express x16 Graphics (Rev.2.0準拠) ×1 (Quadro FX580搭載済み)、 32bit/33MHz PCI (Rev.2.3準拠) (ハーフ: 176mm×107mm) ×1		PCI Express x16 Graphics (Rev.2.0準拠) ×1 ^{注27} 32bit/33MHz PCI (Rev.2.3準拠) (ハーフ: 176mm×107mm) ×1 ^{注28}							
ストレージベイ数	フロントアクセスベイ	前面×1(空きベイ×1) ^{注29}									
	スマートカードベイ	前面×1(空きベイ×1) ^{注30}									
	3.5インチベイ	内部×1(空きベイ×0)									
電源/周波数		AC100±10%、50/60Hz+2% -4% (入力波形は正弦波のみサポート)									
消費電力 ^{注31}	電源OFF時 ^{注32}	0.6W以下									
	動作時 ^{注33} (通常時/ 最大時 ^{注34} / スリープ時)	Windows 7 Professional (32ビット版)	約48W/ 約158W/ 約1.9W	約49W/ 約153W/ 約2.1W	約36W/ 約107W/ 約1.8W	約35W/ 約107W/ 約1.8W					
	Windows 7 Professional (64ビット版)	約49W/ 約160W/ 約2.0W	約49W/ 約157W/ 約2.1W	約37W/ 約107W/ 約1.8W	約36W/ 約107W/ 約1.8W	約35W/ 約107W/ 約1.8W					
	動作時 ^{注33} (通常時/ 最大時 ^{注34} / スタンバイ時)	Windows XP Professional	約48W/ 約158W/ 約1.9W	約49W/ 約151W/ 約1.9W	約37W/ 約103W/ 約1.8W	約35W/ 約103W/ 約1.8W					
	最大消費電力 ^{注35} (本体のみ)	約506W(約281W)									
	定格電流	動作時	最大6.2A								
電波障害対策		VCCIクラスB									
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 ^{注36}		富士通製品情報ページ(http://www.fmworld.net/biz/)にある、 製品情報の仕様をご覧ください。									
外形寸法(突起部含まず)		縦置きの場合W 89×D 338×H 332mm W 179×D 338×H 344mm(フット装着時) 横置きの場合W 332×D 338×H 89mm W 422×D 338×H 101mm(フット装着時)									
質量		約7.0kg ^{注37}	約6.8kg ^{注37}								
温湿度条件		温度10~35°C/湿度20~80%RH(動作時)、 温度-10~60°C/湿度20~80%RH(非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)									
プレインストールOS ^{注38注39}		Windows® 7 Professional 32ビット正規版、 Windows® 7 Professional 64ビット正規版、 Windows® XP Professional正規版 ^{注40}									
サポートOS ^{注38}		Windows® 7 Enterprise 32ビット正規版、 Windows® 7 Enterprise 64ビット正規版、 Windows® 7 Professional 32ビット正規版、 Windows® 7 Professional 64ビット正規版、 Windows Vista® Business with Service Pack 2 32ビット正規版、 Windows® XP Professional正規版 ^{注41}									

本ワークステーションの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 注1 : ・ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本ワークステーションに搭載のCPUで使用できる機能については、「CPU」(→P.230)をご覧ください。
- 注2 : DMIはDirect Media Interfaceの略です。
- 注3 : カスタムメイドの選択によっては、2GBまたは4GBの場合があります。
- 注4 : メモリ容量を4GBにするには、メモリの搭載状況により、搭載済みのメモリをすべて取り外してから、メモリ（拡張RAMモジュール-2GB）を2枚取り付ける必要があります。
例：1GBメモリが2枚搭載されている場合など
・4GB搭載時でも、OSの画面上の表示にかかわらず、OSが使用可能な領域は約3GBになります。ただし、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
・合計で2GBを超えるメモリが搭載されている場合は、完全メモリダンプを使用できません。
- 注5 : カスタムメイドの選択によっては、4GBまたは8GBの場合があります。
- 注6 : カスタムメイドの選択によっては、空きスロットがない場合もあります。
- 注7 : 「Quadro FX 580」が搭載されています。仕様については、「表示機能」(→P.222)をご覧ください。
- 注8 : カスタムメイドの選択によって、「Quadro FX 1800」または「Quadro FX 580」が搭載されています。仕様については「表示機能」(→P.222)をご覧ください。
- 注9 : カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合、「表示機能」(→P.222)をご覧ください。
- 注10 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (Intel® DVMT)により、本ワークステーションの動作状態によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。ビデオメモリの容量を任意に変更することはできません。また、ディスプレイドライバーの更新により、ビデオメモリ容量の最大値が変わることがあります。あらかじめご了承ください。
・メインメモリ1GB搭載の場合：最大251MB
・メインメモリ2GB搭載の場合：最大763MB
・メインメモリ4GB搭載の場合：最大1563MB
- 注11 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (Intel® DVMT)により、本ワークステーションの動作状態によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。ビデオメモリの容量を任意に変更することはできません。また、ディスプレイドライバーの更新により、ビデオメモリ容量の最大値が変わることがあります。あらかじめご了承ください。
・メインメモリ1GB搭載の場合：最大251MB
・メインメモリ2GB搭載の場合：最大763MB
・メインメモリ4GB以上搭載の場合：最大1695MB
- 注12 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (Intel® DVMT)により、本ワークステーションの動作状態によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。ビデオメモリの容量を任意に変更することはできません。また、ディスプレイドライバーの更新により、ビデオメモリ容量の最大値が変わることがあります。あらかじめご了承ください。
- 注13 : 容量は、1GB=1000³バイト換算値です。
- 注14 : ・カスタムメイドの選択によっては、500GBの場合もあります。
・カスタムメイドでRAIDを選択した場合は、「320GB×2（シリアルATA/300、7200rpm）」が搭載されています。
なお、ミラーリングを行うため、使用できるハードディスクの容量は1台分（320GB）となります。
- 注15 : 最高300MB/sの転送が可能です。
- 注16 : カスタムメイドの選択によって搭載されています。
- 注17 : カスタムメイドで選択したCD/DVDドライブの仕様については、「CD/DVDドライブ仕様」(→P.239)をご覧ください。
- 注18 : 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
- 注19 : 本ワークステーションには1000BASE-TのLAN機能が搭載されています。
・本ワークステーションのLAN機能は1000BASE-Tに対応し、1Gbps（1000Mbps）の高速なデータ通信をサポートします。また、従来の100BASE-TX、10BASE-Tもサポートしているため、通信速度の自動認識を行い、既存のローカル・エリア・ネットワーク（LAN）にそのまま接続することができます。
・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・本ワークステーションでは、省電力状態（スリープ、スタンバイ、休止状態）からのWake up on LAN機能がお使いになれます。お使いになる場合は、BIOSセットアップで設定を変更してください。
- 注20 : ご購入時のセキュリティチップの状態は、無効になっています。
- 注21 : ・カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合、「表示機能」(→P.222)をご覧ください。
・カスタムメイドでグラフィックスカードを選択した場合、ワークステーション本体のアナログRGBおよびDVI-Dはご使用になれません。
- 注22 : アナログ出力に変換できません。
- 注23 : 著作権保護された映像を再生する場合は、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）対応のディスプレイをお使いください。
- 注24 : すべてのシリアル対応機器について動作保証するものではありません。
- 注25 : ・すべてのUSB対応周辺機器について動作保証するものではありません。
・外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。
詳しくは、USB機器のマニュアルをご覧ください。

- 注26 : ・すべてのIEEE1394対応周辺機器について動作保証するものではありません。
・Windows 7 Professional (64ビット版) では動作保障しておりません。
- 注27 : ・カスタムメイドの選択によって、次の拡張カードが搭載されています。
　　・Quadro FX 1800
　　・Quadro FX 580
　　・SATA-RAID
・カスタムメイドでIEEE1394カードを選択した場合は、このスロットは使用できません。
- 注28 : ・すべてのPCI規格の拡張カードについて動作保証するものではありません。
・カスタムメイドでIEEE1394カードまたはQuadro FX1800を選択した場合、PCIスロットは使用できません。
- 注29 : カスタムメイドでCD/DVDドライブを選択した場合、「空きベイ×0」になります。
- 注30 : カスタムメイドでスマートカードリーダ／ライタを選択した場合、「空きベイ×0」になります。
- 注31 : ディスプレイの電源をアウトレットから供給しない場合の電力値です。
- 注32 : 電源OFF時のエネルギー消費を回避するには、メインスイッチを「O」側に切り替えるか、ACケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注33 : ・ご使用になる機器構成により値は変動します。
・標準構成（カスタムメイドしていない構成）で、OSを起動させた状態のワークステーション本体のみの測定値です。
- 注34 : ・本ワークステーションで選択可能なカスタムメイドの最大構成で測定しています。
・USBポートおよびカスタムメイドで使用しないPCIスロットは空きとします。
・測定プログラムは当社独自の高負荷テストプログラムを使用しています。
- 注35 : オウトレット：3A/300VAを含んだ値です。
- 注36 : エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- 注37 : カスタムメイドでHDD変更（SATA-RAID）を選択した場合、約0.5kg増加します。
- 注38 : 日本語版。
- 注39 : いずれかのOSがプレインストールされています。
- 注40 : ご購入時に、Windows® XP Service Pack 3が適用されています。
- 注41 : Windows® XP Service Pack 3。

国際エネルギーestarプログラム対応モデル (J380)

本ワークステーションの国際エネルギーestarプログラム対応モデルのカテゴリーは、デスクトップコンピューターとなります。

製品名称		CELSIUS J380				
CPU ^{注1}		インテル® Core™				
i5-660 プロセッサー	3.33GHz	i3-550 プロセッサー	3.20GHz	i3-540 プロセッサー		
キャッシュメモリ (CPU内蔵)		2 次 : 256KB × 2 3 次 : 4MB				
チップセット		インテル® 3450				
システムバス		2.5GT/s DMI ^{注2}				
メインメモリ	Windows 7 Professional (32ビット版)	標準2GB (1GB × 2) ^{注3} (240 ピン PC3-10600 DDR3 SDRAM DIMM CL9) ECCあり 最大4GB ^{注4}				
	Windows 7 Professional (64ビット版)	標準2GB (1GB × 2) ^{注5} (240 ピン PC3-10600 DDR3 SDRAM DIMM CL9) ECCあり 最大8GB				
	Windows XP Professional	標準2GB (1GB × 2) ^{注3} (240 ピン PC3-10600 DDR3 SDRAM DIMM CL9) ECCあり 最大4GB ^{注4}				
メモリスロット		× 2 (空きスロット × 0)				
表示機能	グラフィックスアクセラレータ	Intel® HD Graphics (CPUに内蔵)				
	ビデオメモリ	Windows 7 Professional (32ビット版)	最大763MB (メインメモリと共に) ^{注6}			
		Windows 7 Professional (64ビット版)	最大763MB (メインメモリと共に) ^{注7}			
		Windows XP	最大256MB ^{注8}			
解像度／発色数		最大2560 × 1600 ドット／最大1677万色				
DirectX	Windows 7	10				
	Windows XP	9.0c				
	OpenGL	2.1				
ハードディスクドライブ ^{注9}		160GB ^{注10} (シリアル ATA/300 ^{注11} 、7200rpm)				
CD/DVD ドライブ ^{注12}		内蔵CD/DVD ドライブ ^{注13}				
オーディオ機能	オーディオコントローラー	チップセット内蔵 + High Definition Audio コーデック				
	PCM録音再生機能	サンプリング周波数 最大192kHz、24ビットステレオ (再生時) ^{注14} サンプリング周波数 最大96kHz、16ビットステレオ (録音時) ^{注14} 同時録音再生機能				
	MIDI再生機能	OS標準機能にてサポート				
通信機能	LAN	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T準拠、Wake up on LAN 対応 ^{注15}				
セキュリティ機能	スマートカード ^{注12}	あり				
	セキュリティチップ	TCG Ver1.2 準拠 ^{注16}				
	盗難防止用ロック	あり				
	取り付け穴					
	筐体施錠	あり				
インターフェース	外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB 15ピン × 1			
		デジタル	DVI-D (DVI-D 準拠 ^{注17} 、HDCP 対応 ^{注18}) 24ピン × 1			
シリアル ^{注19}		非同期 RS-232C 準拠 D-SUB9 ピン × 1 (16550A 互換)				
キーボード／マウス		PS/2 準拠 ミニDIN 6 ピン (キーボード用 × 1、マウス用 × 1)				
USB ^{注20}		USB2.0 準拠 × 6 (前面 × 2、背面 × 4)				
IEEE1394a ^{注12注21}		4 ピン (S400) × 1、背面 × 1				
LAN		RJ-45 × 1				
オーディオ			マイク : φ3.5mm ミニジャック (前面 × 1) (入力 : 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 5kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、 ヘッドホン : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (前面 × 1) (出力 : 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)、 ラインイン : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (背面 × 1)、 ラインアウト : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (背面 × 1)			
自己診断 (POST) 時		CPU ファン停止				

製品名称		CELSIUS J380		
拡張スロット数		×2 PCI Express x16 Graphics (Rev.2.0準拠) ×1 ^{注22} 、 32bit/33MHz PCI (Rev.2.3準拠) (ハーフ: 176mm × 107mm) ×1 ^{注23}		
ストレージベイ数	フロントアクセスベイ	前面×1 (空きベイ×1) ^{注24}		
	スマートカードベイ	前面×1 (空きベイ×1) ^{注25}		
	3.5インチベイ	内部×1 (空きベイ×0)		
電源／周波数		AC100±10%、50/60Hz +2% -4% (入力波形は正弦波のみサポート)		
消費電力 ^{注26}	電源OFF時 ^{注27}	0.6W以下		
	動作時 ^{注28} (通常時／最大時 ^{注29} ／スリープ時)	Windows 7 Professional (32ビット版)	約37W／ 約85W／ 約1.9W	約36W／ 約85W／ 約1.9W
		Windows 7 Professional (64ビット版)	約37W／ 約87W／ 約1.8W	約35W／ 約87W／ 約1.8W
	動作時 ^{注28} (通常時／最大時 ^{注29} ／スタンバイ時)	Windows XP Professional	約38W／ 約77W／ 約1.8W	約36W／ 約77W／ 約1.8W
	最大消費電力 ^{注30} (本体のみ)	約506W (約281W)		
定格電流	動作時	最大 6.2A		
電波障害対策		VCCI クラスB		
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 ^{注31}		富士通製品情報ページ (http://www.fmworld.net/biz/) にある、 製品情報の仕様をご覧ください。		
外形寸法 (突起部含まず)		縦置きの場合 W 89 × D 338 × H 332 mm W 179 × D 338 × H 344 mm (フット装着時) 横置きの場合 W 332 × D 338 × H 89 mm W 422 × D 338 × H 101 mm (フット装着時)		
質量		約6.8kg		
温湿度条件		温度10～35°C／湿度20～80% RH (動作時)、 温度-10～60°C／湿度20～80% RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)		
プレインストールOS ^{注32注33}		Windows® 7 Professional 32ビット 正規版、 Windows® 7 Professional 64ビット 正規版、 Windows® XP Professional 正規版 ^{注34}		
サポートOS ^{注32}		Windows® 7 Enterprise 32ビット 正規版、 Windows® 7 Enterprise 64ビット 正規版、 Windows® 7 Professional 32ビット 正規版、 Windows® 7 Professional 64ビット 正規版、 Windows Vista® Business with Service Pack 2 32ビット 正規版、 Windows® XP Professional 正規版 ^{注35}		

本ワークステーションの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注1 : ソフトウェアによっては、CPU名表記が異なる場合があります。

・本ワークステーションに搭載のCPUで使用できる機能については、「CPU」(→P.230)をご覧ください。

注2 : DMIはDirect Media Interfaceの略です。

注3 : カスタムメイドの選択によっては、4GBの場合があります。

注4 : メモリ容量を4GBにするには、メモリの搭載状況により、搭載済みのメモリをすべて取り外してから、メモリ(拡張RAMモジュール-2GB)を2枚取り付ける必要があります。

例: 1GBメモリが2枚搭載されている場合など

・4GB搭載時でも、OSの画面上の表示にかかわらず、OSが使用可能な領域は約3GBになります。ただし、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。

・合計で2GBを超えるメモリが搭載されている場合は、完全メモリダンプを使用できません。

注5 : カスタムメイドの選択によっては、4GBまたは8GBの場合があります。

注6 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (Intel® DVMT)により、本ワークステーションの動作状態によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。ビデオメモリの容量を任意に変更することはできません。また、ディスプレイドライバーの更新により、ビデオメモリ容量の最大値が変わることがあります。あらかじめご了承ください。

・メインメモリ1GB搭載の場合: 最大251MB

・メインメモリ2GB搭載の場合: 最大763MB

・メインメモリ4GB搭載の場合: 最大1563MB

- 注7 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (Intel® DVMT) により、本ワークステーションの動作状態によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。最大容量は、メインメモリの容量によって次のように変わります。ビデオメモリの容量を任意に変更することはできません。また、ディスプレイドライバーの更新により、ビデオメモリ容量の最大値が変わることがあります。あらかじめご了承ください。
- ・メインメモリ1GB搭載の場合：最大251MB
 - ・メインメモリ2GB搭載の場合：最大731MB
 - ・メインメモリ4GB以上搭載の場合：最大1695MB
- 注8 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (Intel® DVMT) により、本ワークステーションの動作状態によってビデオメモリ容量が最大容量まで変化します。ビデオメモリの容量を任意に変更することはできません。また、ディスプレイドライバーの更新により、ビデオメモリ容量の最大値が変わることがあります。あらかじめご了承ください。
- 注9 : 容量は、1GB=1000³バイト換算値です。
- 注10 : カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが搭載されています。
- ・500GB (シリアルATA/300、7200rpm)
- 注11 : 最高300MB/sの転送が可能です。
- 注12 : カスタムメイドの選択によって搭載されています。
- 注13 : カスタムメイドで選択したCD/DVDドライブの仕様については、「CD/DVDドライブ仕様」(→P.239)をご覧ください。
- 注14 : 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。
- 注15 : 本ワークステーションには1000BASE-TのLAN機能が搭載されています。
- ・本ワークステーションのLAN機能は1000BASE-Tに対応し、1Gbps (1000Mbps) の高速なデータ通信をサポートします。また、従来の100BASE-TX、10BASE-Tもサポートしているため、通信速度の自動認識を行い、既存のローカル・エリア・ネットワーク (LAN) にそのまま接続することができます。
 - ・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
 - ・本ワークステーションでは、省電力状態 (スリープ、スタンバイ、休止状態) からのWake up on LAN機能がお使いになれます。お使いになる場合は、BIOSセットアップで設定を変更してください。
- 注16 : ご購入時のセキュリティチップの状態は、無効になっています。
- 注17 : アナログ出力に変換できません。
- 注18 : 著作権保護された映像を再生する場合は、HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 対応のディスプレイをお使いください。
- 注19 : すべてのシリアル対応機器について動作保証するものではありません。
- 注20 : すべてのUSB対応周辺機器について動作保証するものではありません。
- ・外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1ポートにつき500mAです。詳しくは、USB機器のマニュアルをご覧ください。
- 注21 : すべてのIEEE1394対応周辺機器について動作保証するものではありません。
- ・Windows 7 Professional (64ビット版) では動作保障しておりません。
- 注22 : すべてのPCI Express規格の拡張カードについて動作保証するものではありません。
- 注23 : カスタムメイドでIEEE1394カードを選択した場合、PCIスロットは使用できません。
- 注24 : カスタムメイドでCD/DVDドライブを選択した場合、「空きベイ×0」になります。
- 注25 : カスタムメイドでスマートカードリーダ／ライタを選択した場合、「空きベイ×0」になります。
- 注26 : ディスプレイの電源をアウトレットから供給しない場合の電力値です。
- 注27 : 電源OFF時のエネルギー消費を回避するには、メインスイッチを「O」側に切り替えるか、ACケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注28 : ご使用になる機器構成により値は変動します。
- ・標準構成 (カスタムメイドしていない構成) で、OSを起動させた状態のワークステーション本体のみの測定値です。
- 注29 : 本ワークステーションで選択可能なカスタムメイドの最大構成で測定しています。
- ・USBポートおよびカスタムメイドで使用しないPCIスロットは空きとします。
 - ・測定プログラムは当社独自の高負荷テストプログラムを使用しています。
- 注30 : アウトレット：3A/300VAを含んだ値です。
- 注31 : エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。
- 注32 : 日本語版。
- 注33 : いずれかのOSがプレインストールされています。
- 注34 : ご購入時に、Windows® XP Service Pack 3が適用されています。
- 注35 : Windows® XP Service Pack 3。

2 その他の仕様

LAN機能

LAN コントローラ	Broadcom BCM5780
送受信バッファ用RAM	送信：8Kバイト、受信：16Kバイト
外部インターフェース	ISO8802-3 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル ^{注1} (1Gbps：カテゴリ5E以上、100Mbps：カテゴリ5以上、10Mbps：カテゴリ3以上)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	1Gbps、100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数／セグメント	ハブユニット ^{注2} による

注1：ケーブルは、必ずお使いのネットワーク・スピードに対応したデータグレードのケーブルをお使いください。
データグレードの低いケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

注2：ハブユニットとは、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tのコンセントレータです。

POINT

- ▶ 本ワークステーション標準搭載のLANはネットワークのスピードに自動で対応します。
ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、必ずスピードに対応した適切なデータグレードのケーブルをお使いください。

表示機能

■ カスタムメイドでQuadro FXシリーズを選択した場合

グラフィックスアクセラレータ	Quadro FX 1800	Quadro FX 580
ビデオメモリ ^{注1}	768MB	512MB
解像度／発色数	最大2048×1536 ドット／最大1677万色（アナログディスプレイ接続時） 最大1920×1200 ドット／最大1677万色（デジタルディスプレイ接続時） 最大2560×1600 ドット／最大1677万色（Dual Link対応デジタルディスプレイ接続時） 最大2560×1600 ドット／最大1677万色（DisplayPort接続時）	
インターフェース ^{注2}	デジタルディスプレイ（DVI-I 準拠）29ピン（HDCP対応 ^{注3} ）×1 DisplayPort 20ピン×2	
DirectX	Windows 7	10.1
	Windows XP	9.0c
OpenGL		3.2 ^{注4}

注1：Windows 7の場合、専用ビデオメモリの他、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。
その容量はメインメモリの容量により変動します。

注2：3ポート中、2ポートのみ使用可能です。

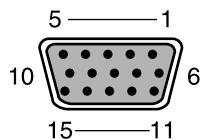
注3：著作権保護された映像を再生する場合は、HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）対応のディスプレイをお使いください。

注4：サポートするOpenGLのバージョンは、お使いのディスプレイドライバーによって異なる場合があります。

コネクタのピン配列と信号名

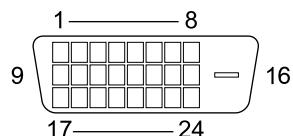
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

■ アナログRGBコネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5～8	GND	—	グランド
9	+5V	—	+5V
10	GND	—	グランド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	DDCデータ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	DDCクロック

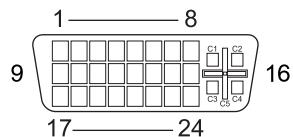
■ DVI-D コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TX2-	出力	データチャンネル2-
2	TX2+	出力	データチャンネル2+
3	TX2/4 Shield	—	グランド
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	DDC Clock	入出力	DDCクロック
7	DDC Data	入出力	DDCデータ
8	NC	—	未接続
9	TX1-	出力	データチャンネル1-
10	TX1+	出力	データチャンネル1+
11	TX1/3 Shield	—	グランド
12	NC	—	未接続
13	NC	—	未接続
14	+5V	—	電源
15	GND	—	グランド
16	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
17	TX0-	出力	データチャンネル0-
18	TX0+	出力	データチャンネル0+
19	TX0/5 Shield	—	グランド
20	NC	—	未接続
21	NC	—	未接続
22	TXC Shield	—	グランド
23	TXC+	出力	データクロック+
24	TXC-	出力	データクロック-

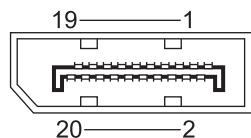
注：シングルチャネル仕様のケーブルをお使いください。

■ DVI-Iコネクタ



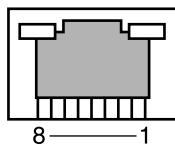
ピン番号	信号名	方向	説明
1	TX2-	出力	データチャンネル2-
2	TX2+	出力	データチャンネル2+
3	TX2/4 Shield	—	グランド
4	Reserved/TX4-	—/出力	データチャンネル4-
5	Reserved/TX4+	—/出力	データチャンネル4+
6	DDC Clock	入出力	DDCクロック
7	DDC Data	入出力	DDCデータ
8	Analog V Sync	出力	アナログ垂直同期信号
9	TX1-	出力	データチャンネル1-
10	TX1+	出力	データチャンネル1+
11	TX1/3 Shield	—	グランド
12	Reserved/TX3-	—/出力	データチャンネル3-
13	Reserved/TX3+	—/出力	データチャンネル3+
14	+5V	—	+5V
15	GND	—	グランド
16	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
17	TX0-	出力	データチャンネル0-
18	TX0+	出力	データチャンネル0+
19	TX0/5 Shield	—	グランド
20	Reserved/TX5-	—/出力	データチャンネル5-
21	Reserved/TX5+	—/出力	データチャンネル5+
22	TXC Shield	—	グランド
23	TXC+	出力	データクロック+
24	TXC-	出力	データクロック-
C1	Analog Red	出力	アナログレッド出力
C2	Analog Green	出力	アナロググリーン出力
C3	Analog Blue	出力	アナログブルー出力
C4	Analog Horizontal Sync	出力	アナログ水平同期信号
C5	Analog Ground	—	アナロググランド

■ DisplayPort コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	ML_Lane 0 (p)	出力	データ信号0+
2	GND	—	グランド
3	ML_Lane 0 (n)	出力	データ信号0-
4	ML_Lane 1 (p)	出力	データ信号1+
5	GND	—	グランド
6	ML_Lane 1 (n)	出力	データ信号1-
7	ML_Lane 2 (p)	出力	データ信号2+
8	GND	—	グランド
9	ML_Lane 2 (n)	出力	データ信号2-
10	ML_Lane 3 (p)	出力	データ信号3+
11	GND	—	グランド
12	ML_Lane 3 (n)	出力	データ信号3-
13	CONFIG1	出力	コンフィグ信号1
14	CONFIG2	出力	コンフィグ信号2
15	AUX CH (p)	入出力	AUX信号+
16	GND	—	グランド
17	AUX CH (n)	入出力	AUX信号-
18	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
19	Return	—	DisplayPortグランド
20	DP_PWR Power	出力	DisplayPort電源

■ LANコネクタ (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)



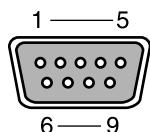
□ 1000BASE-T

ピン番号	信号名	方向	説明
1	TRD0+	入出力	送受信データ0+
2	TRD0-	入出力	送受信データ0-
3	TRD1+	入出力	送受信データ1+
4	TRD2+	入出力	送受信データ2+
5	TRD2-	入出力	送受信データ2-
6	TRD1-	入出力	送受信データ1-
7	TRD3+	入出力	送受信データ3+
8	TRD3-	入出力	送受信データ3-

□ 100BASE-TX/10BASE-T

ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD+	出力	送信データ+
2	TD-	出力	送信データ-
3	RD+	入力	受信データ+
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD-	入力	受信データ-
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

■シリアルコネクタ



ピン番号	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

■マウスコネクタ



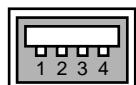
ピン番号	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グランド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ キーボードコネクタ



ピン番号	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グランド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	内容
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	-データ信号
3	+DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グランド

■ IEEE1394a コネクタ

1—4



ピン番号	信号名	方向	内容
1	TPB-	入出力	-データ信号
2	TPB+	入出力	+データ信号
3	TPA-	入出力	-データ信号
4	TPA+	入出力	+データ信号

CPU

本ワークステーションに搭載されているCPUで使用できる機能は、次のとおりです。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Windowsのデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用することを防ぎます。

データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、次のように表示されます。

- Windows 7の場合

「[ソフトウェア名称] は動作を停止しました」という画面が表示されます。
「プログラムの終了」をクリックして、表示される対処方法に従ってください。

- Windows XPの場合

「データ実行防止」ウィンドウに、「コンピュータ保護のため、このプログラムはWindowsにより終了されました。」というメッセージが表示されます。
「その他の詳細情報を表示します。」をクリックし、表示される対処方法に従ってください。

■ 拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー (EIST)

拡張版Intel SpeedStep® テクノロジーは、実行中のソフトウェアのCPU負荷に合わせて、WindowsがCPUの動作周波数および動作電圧を自動的に低下させる機能です。ご購入時は有効に設定されています。

この機能を有効にするか無効にするかは、「電源オプション」ウィンドウまたは「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで設定します。

- Windows 7の場合

ご購入時は、「電源オプション」ウィンドウの電源プランで「バランス」に設定されています。電源プランについては、「取り扱い」—「スリープ／休止状態の設定を変更する」(→P.69)をご覧ください。

EISTを有効に設定している場合は、次のことに気をつけてください。

- ・本ワークステーションの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能差が気になる場合は、電源プランを「高パフォーマンス」に設定してください。
- ・「システム」ウィンドウでは、CPUの周波数が低く表示されることがあります。

- Windows XPの場合

ご購入時は、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「電源設定」で「自宅または会社のデスク」に設定されています。「ポータブル/ラップトップ」、「プレゼンテーション」、「最小の電源管理」または「バッテリの最大利用」に設定されている場合は、有効です。「電源設定」については、「取り扱い」—「スタンバイ／休止状態の設定を変更する」(→P.77)をご覧ください。

EISTを有効に設定している場合は、次のことに気をつけてください。

- ・本ワークステーションの性能が低下することがあります。お使いの環境で性能差が気になる場合は、「電源設定」で「自宅または会社のデスク」または「常にオン」に設定してから、本ワークステーションを再起動してください。
- ・「システムのプロパティ」ウィンドウでは、CPUの周波数が低く表示されることがあります。

■ インテル(R) バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシン・ソフトウェア）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

この機能を有効にするか無効にするかは、BIOSセットアップで設定します。ご購入時は、無効に設定されています。

■ インテル(R) ハイパースレッディング・テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させるテクノロジーです。複数のソフトを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。

この機能を有効にするか無効にするかは、BIOSセットアップで設定します。ご購入時は、有効に設定されています。

■ インテル(R) ターボ・ブースト・テクノロジー

インテル® ターボ・ブースト・テクノロジーは、マルチコアの使用状況に合わせて、CPUが処理能力を自動的に向上させる機能です。（インテル® Xeon® プロセッサーおよびインテル® Core™ i5 プロセッサー搭載時のみ）

POINT

- ▶ OSおよびソフトウェアの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

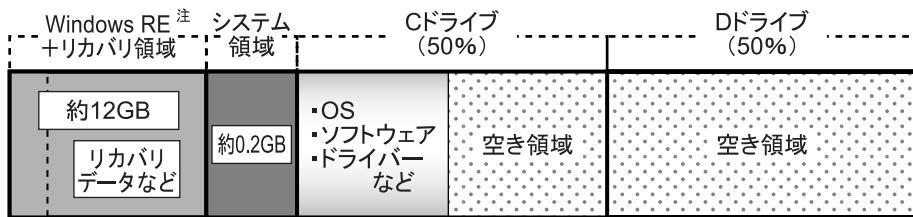
ドライブ構成

ハードディスクは、システムやリカバリデータなどが格納されている領域や、OS、ソフトウェアやデータなどを格納する C ドライブと D ドライブで構成されています。

■ Windows 7 のドライブ構成

□ ドライブ構成イメージ図

Windows 7 のハードディスクは、次のように構成されています。



注 : Windows RE + リカバリ領域 (約 12GB) : Windows 7 のリカバリデータなどを格納

POINT

- 「Windows RE + リカバリ領域」に約 12GB、「システム領域」に約 0.2GB 使用しているため、「コンピューター」に表示されるハードディスクの容量は、「本体仕様」の記載よりも約 12.2GB 少なく表示されます。
- 「Windows RE + リカバリ領域」と「システム領域」は、Windows からは見えない領域です。

- 「Windows RE + リカバリ領域」には、次のデータが格納されています。
 - 診断プログラム
Windows が正常に起動できない場合にシステムを診断します。
「診断プログラム」については、「トラブルシューティング」 - 「診断プログラムを使用する」(→ P.178) をご覧ください。
 - トラブル解決ナビ
リカバリの実行やハードウェアなどの診断をするソフトウェアです。
リカバリについては、『取扱説明書』をご覧ください。
 - 「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」のイメージ
本ワークステーションにトラブルが起こったときに使用する起動ディスクのイメージです。また、ソフトウェアのインストールや再インストールにも使用します。
 - Windows 7 のリカバリデータ
本ワークステーションにトラブルが起こったときに使用するリカバリデータです。
 - 「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」のイメージ (CD/DVD ドライブを選択した場合)
DVD を再生するソフトウェアのインストールディスクのイメージです。

重要

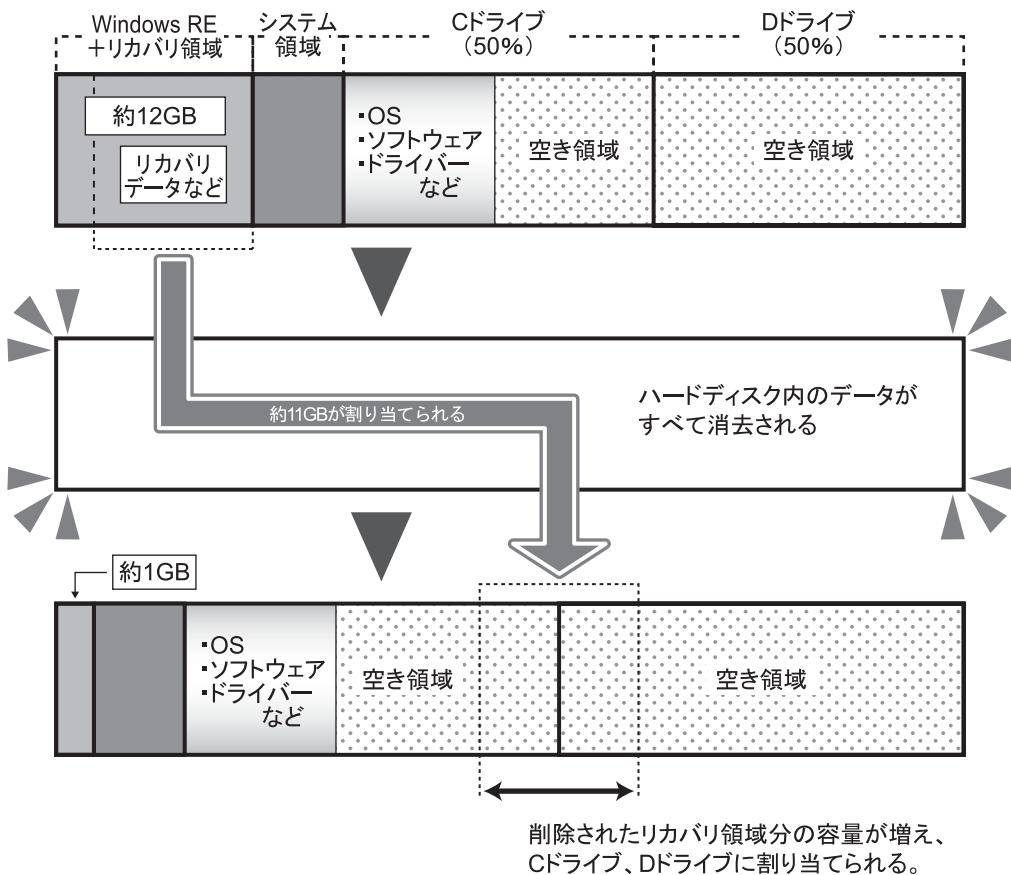
- 本ワークステーションには「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」、「リカバリデータディスク」、「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」ディスクは添付されていません (カスタムメイドでリカバリディスクセットを選択した場合は、ディスクは添付されています)。ディスクをご使用になるには、ディスクを作成する必要があります。ディスクの作成については、『取扱説明書』をご覧ください。

□ リカバリ領域の削除について

リカバリ領域を削除することで、C ドライブ、D ドライブの容量を増やすことができます。
「Windows RE + リカバリ領域」内にあるリカバリ領域部分（約 11GB）が、C ドライブ、D ドライブに割り当てられます。

◀ 重要

- リカバリ領域部分を削除すると、ハードディスク内のデータはすべて削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。



□ リカバリ領域の削除方法

リカバリ領域を削除するには、「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」を使用します。また、Windows 7 の「リカバリデータディスク」も必要になります。

◀ 重要

- ▶ リカバリ領域を削除すると、リカバリ領域にあるデータがすべて消えてしまいます。
リカバリ領域を削除する前に、必ずリカバリ領域にあるデータから次のディスクを作成してください（カスタムメイドでリカバリディスクセットを選択した場合は、ディスクは添付されています）。
 - ・「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」
 - ・Windows 7 の「リカバリデータディスク」
 - ・「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」ディスク（CD/DVD ドライブを選択した場合）ディスクの作成方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

● CD/DVD ドライブが搭載されていないモデルをお使いの場合

別売のポータブル CD/DVD ドライブを接続してください。

ポータブル CD/DVD ドライブについては、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。

● リカバリ領域を削除する

1 本ワークステーションを起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。

【F12】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

「起動メニュー」が表示されます。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴや Windows 起動時のロゴ表示が確認できない場合があります。
その場合は、「起動メニュー」を起動するとき、本ワークステーションの再起動後に【F12】キーを数回押してください。
- ▶ 「起動メニュー」が表示されない場合は、本ワークステーションを再起動してもう一度操作してください。

2 「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」をセットします。

3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「CD/DVD」を選択し、【Enter】キーを押します。

しばらくすると、「トラブル解決ナビ」が表示されます。

「トラブル解決ナビ」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかつたりすることがあります。故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。

4 「ユーティリティ」タブの「リカバリ領域の削除」を選択し、「実行」をクリックします。

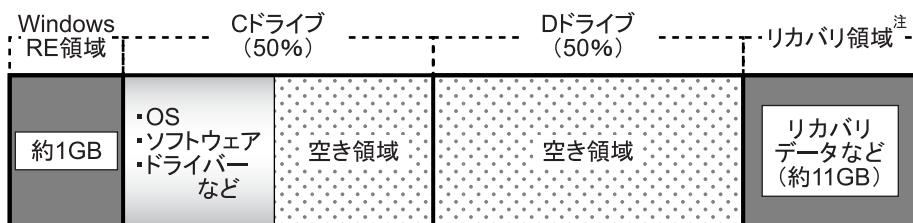
「ご使用上の注意」が表示されます。

- 5** 内容を確認したら「同意する」を選択し、「次へ」をクリックします。
リカバリ領域を削除する手順が表示されます。
- 6** 「次へ」をクリックします。
「WinDVD ディスクの確認」と表示されます。
「リカバリデータディスクの確認」と表示された場合は、ディスクを取り出し、手順 9 へ進んでください。
- 7** ディスクを取り出し、「WinDVD ディスク」をセットして「次へ」をクリックします。
「WinDVD ディスク」が確認されると、「「WinDVD ディスク」が揃っていることを確認できました。」と表示されます。
- 8** ディスクを取り出し、「次へ」をクリックします。
「リカバリデータディスクの確認」と表示されます。
- 9** 「リカバリデータディスク」をセットし、「次へ」をクリックします。
「リカバリデータディスク」が確認されると、「「リカバリデータディスク」が揃っていることを確認できました。」と表示されます。
- 10** ディスクを取り出し、「次へ」をクリックします。
「ハードディスクの領域を設定する」と表示されます。
- 11** 「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク」をセットし、「次へ」をクリックします。
「警告」が表示されます。
- 12** 「OK」をクリックします。
ハードディスクの領域の設定が始まります。しばらくお待ちください。
領域の設定が終了すると、「リカバリデータディスク」の挿入をうながすメッセージが表示されます。
- 13** ディスクを取り出し、「リカバリデータディスク」をセットして「OK」をクリックします。
「リカバリ」画面が表示され、リカバリが始まります。しばらくお待ちください。
リカバリが終了すると、「リカバリが正常に完了しました。」と表示されます。
- 14** ディスクを取り出し、「完了」をクリックします。
本ワークステーションの電源が切れます。
- 15** セットアップを行います。
セットアップについては、『取扱説明書』をご覧ください。
セットアップが終了したら、再起動します。
- 16** パスワードを入力し、Windows にログオンします。
- 17** 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックします。
- 18** C ドライブ、D ドライブの容量が増えていることを確認します。

■ Windows XP のドライブ構成

□ ドライブ構成イメージ図

Windows XP のハードディスクは、次のように構成されています。



注：リカバリ領域（約 11GB）：Windows XP のリカバリデータなどを格納

POINT

- 「Windows RE 領域」に約 1GB、「リカバリ領域」に約 11GB 使用しているため、「コンピュータ」に表示されるハードディスクの容量は、「本体仕様」の記載よりも約 12GB 少なく表示されます。
- 「Windows RE 領域」と「リカバリ領域」は、Windows からは見えない領域です。

- 「Windows RE 領域」には、Windows が正常に起動できない場合にシステムを診断する「診断プログラム」や、リカバリを実行するための「トラブル解決ナビ」が格納されています。「診断プログラム」については、「トラブルシューティング」—「診断プログラムを使用する」（→ P.178）をご覧ください。リカバリについては、『取扱説明書』をご覧ください。
- 「リカバリ領域」には、次のデータが格納されています。
 - 「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」のイメージ
本ワークステーションにトラブルが起こったときに使用する起動ディスクのイメージです。また、ソフトウェアのインストールや再インストールにも使用します。
 - Windows XP のリカバリデータ
本ワークステーションにトラブルが起こったときに使用するリカバリデータです。
 - 「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」のイメージ (CD/DVD ドライブを選択した場合)
DVD を再生するソフトウェアのインストールディスクのイメージです。

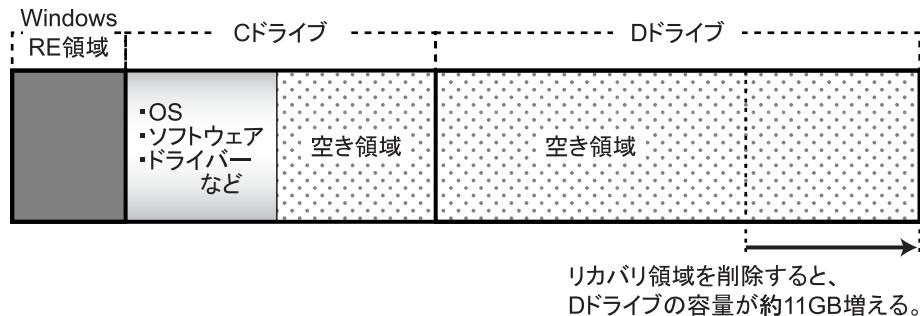
重要

- 本ワークステーションには「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」、「リカバリデータディスク」、「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」ディスクは添付されていません（カスタムメイドでリカバリディスクセットを選択した場合は、ディスクは添付されています）。ディスクをご使用になるには、ディスクを作成する必要があります。ディスクの作成については、『取扱説明書』をご覧ください。

□ リカバリ領域の削除について

リカバリ領域を削除することで、D ドライブの容量を増やすことができます。

リカバリ領域の削除はリカバリ領域のデータのみ削除するため、C ドライブ、D ドライブのデータは残ります。



重要

- 「Windows RE 領域」は削除しないでください。

□ リカバリ領域の削除方法

リカバリ領域を削除するには、「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」を使用します。

重要

- リカバリ領域を削除すると、リカバリ領域にあるデータがすべて消えてしまいます。
リカバリ領域を削除する前に、必ずリカバリ領域にあるデータから次のディスクを作成してください (カスタムメイドでリカバリディスクセットを選択した場合は、ディスクは添付されています)。
 - 「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」
 - Windows XP の「リカバリデータディスク」
 - 「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」ディスク (CD/DVD ドライブを選択した場合)
ディスクの作成方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

● CD/DVD ドライブが搭載されていないモデルをお使いの場合

別売のポータブル CD/DVD ドライブを接続してください。

ポータブル CD/DVD ドライブについては、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/fmv/product/syskou/>) をご覧ください。

● リカバリ領域を削除する

1 本ワークステーションを起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。

【F12】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

「起動メニュー」が表示されます。

 **POINT**

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴや Windows 起動時のロゴ表示が確認できない場合があります。
その場合は、「起動メニュー」を起動するとき、本ワークステーションの再起動後に【F12】キーを数回押してください。
- ▶ 「起動メニュー」が表示されない場合は、本ワークステーションを再起動してもう一度操作してください。

- 2 「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」をセットします。
- 3 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「CD/DVD」を選択し、【Enter】キーを押します。
しばらくすると、「トラブル解決ナビ」が表示されます。
「トラブル解決ナビ」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかつたりすることがあります。故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。
- 4 「ユーティリティ」タブの「リカバリ領域の削除」を選択し、「実行」をクリックします。
「ご使用上の注意」が表示されます。
- 5 内容を確認したら「同意する」を選択し、「次へ」をクリックします。
「削除の確認」が表示されます。
- 6 「OK」をクリックします。
リカバリ領域が削除され、「削除の完了」と表示されます。
- 7 「削除の完了」が表示されたら、「完了」をクリックします。
以上の手順で、リカバリ領域が削除されました。
- 8 「終了」をクリックします。
- 9 ディスクを取り出し「再起動」をクリックします。
- 10 パスワードを入力し、Windows にログオンします。
- 11 「スタート」ボタン→「コンピュータ」の順にクリックします。
- 12 D ドライブの容量が増えていることを確認します。

CD/DVD ドライブ仕様

カスタムメイドでCD/DVD ドライブを選択した場合は、次のいずれかのドライブが搭載されています。なお、各数値は仕様上の最大値であり、使用メディアや動作環境によって異なる場合があります。

POINT

- ▶ ディスクによってはご利用になれない場合もあります。
- ▶ 書き込み／書き換速度は、ドライブの性能値です。
- ▶ 書き込み／書き換速度に対応したディスクが必要になりますが、対応ディスクは販売されていない場合があります。
- ▶ 読み出し、書き込み速度はディスクや動作環境によって異なる場合があります。

□ DVD-ROM ドライブ

CD/DVD	読み出速度（最大）	書き速度（最大）	書換速度（最大）
CD-ROM	24倍速	—	—
CD-R	24倍速	—	—
CD-RW	24倍速	—	—
DVD-ROM	8倍速	—	—
DVD-R	8倍速	—	—
DVD-R DL	4倍速	—	—
DVD-RW	8倍速	—	—
DVD+R	8倍速	—	—
DVD+R DL	4倍速	—	—
DVD+RW	8倍速	—	—
DVD-RAM	5倍速	—	—

□ スーパーマルチドライブ

(バッファアンダーランエラー防止機能付)

CD/DVD	読み出速度（最大）	書き速度（最大）	書換速度（最大）
CD-ROM	24倍速	—	—
CD-R	24倍速	24倍速	—
CD-RW	24倍速	10倍速	10倍速
DVD-ROM	8倍速	—	—
DVD-R	8倍速	8倍速	—
DVD-R DL	6倍速	4倍速	—
DVD-RW	8倍速	6倍速	6倍速
DVD+R	8倍速	8倍速	—
DVD+R DL	6倍速	4倍速	—
DVD+RW	8倍速	8倍速	8倍速
DVD-RAM	5倍速	5倍速	5倍速

国際エネルギースターープログラム

「国際エネルギースターープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。

国際エネルギースターープログラム対応モデルは、ご購入時の状態で国際エネルギースターープログラムの出荷要件を満たしています。

ご購入時の主な設定は、次のようになっています。

- 電源オプション

- ディスプレイの電源を切る：15分
- システムスタンバイ（Windows XPの場合）：20分
- コンピューターをスリープ状態にする（Windows 7の場合）：20分

- Wakeup on LAN機能：無効

Wakeup on LAN機能を有効にする方法については、「取り扱い」－「スリープ／休止状態（Windows 7の場合）」（→P.64）または「取り扱い」－「スタンバイ／休止状態（Windows XPの場合）」（→P.72）をご覧ください。

索引

A

Adobe Reader 124

B

BIOS セットアップ 132
 一起動 133
 一終了 136
 一パスワード 154

C

CD/DVD 30
 CD/DVD アクセスランプ 13
 CD/DVD ドライブ 14
 CD/DVD ドライブ仕様 239
 CD/DVD 取り出しボタン 13
 CPU 19, 230
 CPU ソケット 19
 CPU ファンコネクタ 19

D

DisplayPort コネクタ 17, 226
 DVI-D コネクタ 16, 224
 DVI-I コネクタ 17, 225

E

Easy Backup 123

F

FM-Menu 123
 FM キーガード 123

I

IEEE1394a コネクタ 17, 229
 i-フィルター 121, 129

L

LAN 62
 一機能 221
 LAN コネクタ 17, 227

LAN着信によるレジュー

ム
 — Windows 7 の場合 68
 — Windows XP の場合 76

N

Norton AntiVirus 100, 121

O

Office Home & Business 2010 126, 129
 Office Personal 2010 126, 129

P

PCI-Express カードスロット 18
 PCI カードスロット 18
 PC 乗換ガイド 122
 Portshutter 110, 121

R

Roxio Creator 124

S

SMARTACCESS/Basic 121, 129

T

T-SATA2R Manager 122

U

UpdateAdvisor (本体装置) 105, 122
 USB コネクタ 13, 17, 229

W

Wakeup on LAN

— Windows 7 の場合 68
 — Windows XP の場合 76

Windows Update 102

Windows Live メール 125

WinDVD 125

あ行

アウトレット	15
アクションセンター	103
アナログRGBコネクタ	16, 223
アンインストール	130
インストール	
-i- フィルター	129
-Office 製品	129
-SMARTACCESS/Basic	129
-ドライバーズディスク	
検索ツール	127
インテル(R) ターボ・ブースト	
テクノロジー	231
インテル(R) バーチャライゼーション	
テクノロジー	231
インテル(R) ハイパースレッディング	
テクノロジー	231
インレット	15
エグゼキュート・ディスエーブル	
ビット機能	111, 230
お手入れ	
-キーボード	173
-マウス	173
-ワークステーション本体外部	167
-ワークステーション本体内部	168
温度センサー (REAR)	19
温度センサー (SYSTEM)	19
音量設定	
- Windows 7 の場合	56
- Windows XP の場合	59

か行

解像度	43
拡張カード	
-取り付け	93
-取り付け場所	92
拡張カードスロット	16, 18
拡張デスクトップ	46, 53
拡張版Intel SpeedStep(R) テクノロジー	
(EIST)	230
仮想メモリ	192
管理者用パスワード	154
キーボード	26
-お手入れ	173
キーボードコネクタ	17, 229
吸気孔	12
休止状態	
- Windows 7 の場合	64
- Windows XP の場合	72

強制取り出し穴	13
クローン機能	46, 52
国際エネルギースター	
プログラム	218, 240
コンピューターウイルス	99

さ行

システムメニュー	139
周辺機器	80
終了メニュー	153
詳細メニュー	141
情報メニュー	138
シリアルATAコネクタ	19
シリアルコネクタ	16, 228
診断プログラム	178
スタンバイ	72
スマートカードベイ	13
スマートカードリーダ/ライタ	110
スリープ	64
セーフモード	177
セキュリティ施錠金具	15
セキュリティセンター	104
セキュリティチップ	110, 151
セキュリティメニュー	148

た行

ディスクアクセスランプ	13
ディスプレイ	43, 46
ディスプレイコネクタ	
-DisplayPort	17, 226
-DVI-D	16, 224
-DVI-I	17, 225
-アナログ	16, 223
ディスプレイコネクタ (デジタル)	224
電源管理メニュー	146
電源コネクタ	19
電源ボタン	13
電源ユニット	18
電源ランプ	13
盗難防止用ロック取り付け穴	16
ドライバーズディスク検索ツール	127
ドライブ構成	232
- Windows 7 の場合	232
- Windows XP の場合	236
取り付け	
-拡張カード	93
-メモリ	86

な行

内蔵ハードディスク	18
内蔵リチウム電池	19

は行

ハードディスクデータ消去	115, 121
ハードディスク	
データ消去サービス	117
ハードディスクパスワード	154
排気孔	15
パスワード (BIOS)	
-削除	159
-種類	154
-設定	154
-使う	156
-変更	158
-忘れた場合	157
バックアップ	118
発色数	43
表示機能	222
ファイアウォール	106
フィッシング詐欺	107
富士通拡張機能ユーティリティ	123
富士通モニタユーティリティ	123
不正アクセス	106
フット	14
ページングファイル	192
ヘッドホン端子	13
本体カバー	82
本体仕様	214

ま行

マイク端子	13
マウス	
-お手入れ	173
-使い方	22
マウスコネクタ	17, 228
マルチディスプレイ機能	46
メインスイッチ	16
メインボード	19
メッセージ (BIOS)	160
メモリ	
-取り付け	86
-取り付け場所	84
メモリスロット	19, 84

や行

ユーザー用パスワード	154
ゆったり設定2	123

ら行

ラインアウト端子	17
ラインイン端子	17
レジューム	
- Windows 7の場合	67
- Windows XPの場合	75

わ行

ワークステーション本体	
-お手入れ	166

Memo

CELSIUS
J380

製品ガイド
B6FJ-4951-02-00

発行日 2010年10月
発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。